

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.77 / Ver.2.76 / Ver.2.72 >

目次

【債権管理】	
納品書で、税率ごとの「消費税額」と「課税対象額」を枠外に印字できるようになりました。	2
請求書で、「非課税等対象額」の印字や、欄外への税率ごとの消費税額の印字ができるようになりました。 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞	2
請求書発行の一覧確認画面・請求一覧表に、税率ごとの「税抜御買上額」と「消費税額等」を出力できるようになりました。 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞	3
伝票履歴メニューで、債権伝票の「売上金額」や「税率」などを出力できるようになりました。	3
与信残高一覧表で、グループ間消込をした手形の残高を集計する方法を変更できるようになりました。	4

- 納品書で、税率ごとの「消費税額」と「課税対象額」を枠外に印字できるようになりました。

[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニュー納品書を印刷する際に、税率ごとの消費税額と課税対象額を枠外に印字できるようになりました。

印字する場合は、[債権伝票入力 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページで「税率ごとの消費税額を枠外に印字する」にチェックを付けます。

※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページの「税率ごとの消費税額を印字する」は「税率ごとの消費税額を明細に印字する」に名称が変更されました。

- 請求書で、「非課税等対象額」の印字や、欄外への税率ごとの消費税額の印字ができるようになりました。

< 『債権管理Proオプション』をお使いの場合 >

明細請求書・伝票請求書に、【御買上額合計】の内訳として、「非課税等対象額」を印字できるようになりました。

また、税率ごとの消費税額を鑑や枠外に印字できるようにもなりました。

印字する場合は、[条件設定]画面の[出力設定]ページで [出力項目...] ボタンをクリックし、[明細請求書・伝票請求書]ページで、以下のように設定します。

○非課税等対象額を印字する場合は、「非課税等対象額」で「印字する」を選択します。

○税率ごとの消費税額を欄外に印字する場合は、「税率ごとの消費税額（欄外）」で「鑑に印字する」または「枠外に印字する」を選択します。

「枠外に印字する」を選択すると、消費税額は請求書1ページ目の枠外の右下に印字されます。

※この機能追加に伴い、[明細請求書・伝票請求書]ページの「税率ごとの消費税額」は「税率ごとの消費税額（明細）」に名称が変更されました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー
- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書再発行]メニュー

- 請求書発行の一覧確認画面・請求一覧表に、税率ごとの「税抜御買上額」と「消費税額等」を出力できるようになりました。

＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞

[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューの一覧確認画面と[債権管理]-[請求締処理]-[請求一覧表]メニューに、「税抜御買上額」や「消費税額等」の税率ごとの項目を印字できるようになりました。

○[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューの場合は、[請求書発行 - 条件設定]画面の[出力設定]ページに追加された出力項目設定で、設定します。

また、これに伴い、[出力設定]ページに出力項目設定が追加され、一覧確認画面に表示するその他の項目についても、出力の有無や並び順を設定できるようになりました。

○[債権管理]-[請求締処理]-[請求一覧表]メニューの場合は、[請求一覧表 - 条件設定]画面の[出力設定]ページの出力項目設定で設定します。

※Ver. 2.71以前のバージョンで請求書発行済みの履歴は、今回追加された項目は空欄で出力されます。

税率ごとの金額を出力する場合は、[債権管理]-[請求締処理]-[請求締取消]メニューで請求締を取り消し、[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューで請求書を発行しなおします。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー
- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求一覧表]メニュー

- 伝票履歴メニューで、債権伝票の「売上金額」や「税率」などを出力できるようになりました。

[債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニューや[債権管理]-[履歴管理]-[入金伝票履歴]メニューで、債権伝票の以下の項目を出力できるようになりました。

税処理／税率／売上金額／消費税金額

出力する場合は、[条件設定]画面の[項目選択]ページで債権伝票の出力項目を設定します。

また、転送時に[転送条件設定]画面の[詳細設定]ページで「税率種別を出力する」にチェックを付けると、税率種別も出力できます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニュー
- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[入金伝票履歴]メニュー

- 与信残高一覧表で、グループ間消込をした手形の残高を集計する方法を変更できるようにになりました。

グループ間消込をした受取手形、ファクタリング債権、電子記録債権の残高を[債権管理]-[管理帳票]-[与信残高一覧表]メニューの手形債権残高で確認する場合に、いままでは、消し込んだ各請求先の手形債権残高に集計されていました。

これからは、振出元の請求先の手形債権残高に集計することもできるようになりました。

▼例

以下の債権について、A社（本社）から20万円の手形を受領し、消込をした場合

債権：10万円 B社（子会社）

債権：10万円 C社（子会社）

振出元の請求先の手形債権残高に集計する場合は、以下のように集計されます。

- ・ A社（本社） 手形債権残高：20万円
- ・ B社（子会社） 手形債権残高： 0円
- ・ C社（子会社） 手形債権残高： 0円

振出元の請求先の手形債権残高に集計する場合は、[詳細条件]ページで「手形が発生した請求先に集計する」にチェックを付けます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[管理帳票]-[与信残高一覧表]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.71 / Ver.2.70 >

目次

【改正情報】	
新元号(改元)に対応しました。	2

- **新元号(改元)に対応しました。**

改元日2019年5月1日以後の日付から、新元号の日付に切り替わります。

○日付の入力では、暦表示が和暦の場合に、入力月にしたがって元号の表示が切り替わります。

※4月までは「平成」に、5月からは新元号の表示に切り替わります。

平成 31年5月 → 新元号 1年5月

新元号 1年4月 → 平成 31年4月

○画面表示や印刷、転送・汎用データ作成では、暦表示が和暦の場合に改元日以後は新元号で出力されます。

○汎用データ受入では、「日付」項目の書式が和暦形式の場合に、改元日以後は新元号の日付で受け入れできます。

※なお、改元日以後に「平成」の日付のままでも受け入れできます。

例) 「平成31年5月」は「新元号1年5月(2019年5月)」として受入

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.69 >

目次

【改正情報】	
消費税10%への対応	2
軽減税率制度への対応	2
区分記載請求書等保存方式への対応	2
汎用データ受入の対応	2
【導入処理】	
[手形機能設定]メニューで、ファクタリング債権、電子記録債権の【手数料仕訳設定】の部門の選択肢が変更されました。	3
【債権管理】	
請求書発行済みでも、受取手形、ファクタリング債権、期日現金、電子記録債権を修正できるようになりました。 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞	3

● 消費税10%への対応

- 取引日付にもとづいた税率の自動判定
取引の日付にあわせて税率を自動判定し、税率改定後もミスなくスムーズに入力できます。
- 旧税率8%（取引先に合わせる場合や経過措置の取引）の計上
前回の8%への改定と同様に、今回も経過措置が設けられています。
伝票起票時に税率を8%に変更できます。
- アラート機能により入力ミスを未然に防止
施行日をまたいで伝票を複写・修正した場合に、確認メッセージが表示され、適切な税率を適用できます。

● 軽減税率制度への対応

- 勘定科目・補助科目の税率種別をもとに税率を初期表示します。
軽減税率用の債権区分を登録することで、債権伝票では債権区分を選択するだけで、軽減税率の取引を迷わず起票できます。
※軽減税率の対象となる品目は、国税庁のホームページを参照

● 区分記載請求書等保存方式への対応

- 軽減税率の実施に伴い、税率ごとの区分を記載した請求書等（区分記載請求書等）の発行が必要になります。
請求書・納品書で、以下の内容が出力できます。
 - ・軽減税率の対象の商品明細に軽減フラグ（「軽」）
 - ・税率ごとに区分した税抜価額の合計額および消費税額等

● 汎用データ受入の対応

- 新税率10%に対応
- 軽減税率品目の取引用に、受入項目「税率種別」を追加

「消費税10%・軽減税率対応 運用ガイド」に、運用に関する一連の操作手順をまとめています。

最初に目次を参照して、必要な箇所をご確認ください。

※「消費税10%・軽減税率対応 運用ガイド」は、『操作説明（ヘルプ）』の「機能追加／改正情報」から参照できます。」

導入処理

- [手形機能設定]メニューで、ファクタリング債権、電子記録債権の【手数料仕訳設定】の部門の選択肢が変更されました。

ファクタリング債権（[ファクタリング債権]-[ファクタリング仕訳設定]ページで設定）

変更前	変更後
0：その他	0：その他
1：ファクタリング情報	1：入金明細（選択肢の名称が変更されました。セットされる部門に変更はありません。）
2：固定	2：固定
	3：ファクタリング債権（選択肢が追加されました。）

電子記録債権（[電子記録債権]-[仕訳設定]ページで設定）

変更前	変更後
0：その他	0：その他
1：電子記録債権情報	1：入金明細（選択肢の名称が変更されました。セットされる部門に変更はありません。）
2：固定	2：固定
	3：電子記録債権（選択肢が追加されました。）

債権管理

- 請求書発行済みでも、受取手形、ファクタリング債権、期日現金、電子記録債権を修正できるようになりました。

＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞

請求書発行済みの場合でも、振替日付などを修正できるようになりました。
入金情報に影響する項目は、今までどおり修正できません。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-([電子記録債権処理]-) [電子記録債権入力]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.65 / Ver.2.62 /
Ver.2.60 / Ver.2.58 >

目次

【全般】	
回収種別が値引の時に、[入金情報登録]メニューで税率を指定して登録し、請求書に印字できるようになりました。	2
各承認メニューで、合計を確認できるようになりました。	2
承認リストや未承認リスト、入金情報リストで、あらかじめ選択した項目での印刷や、複数ページになる場合の印刷順序の設定ができるようになりました。	2
【債権管理】	
明細請求書に調整額の明細を集計できるようになりました。	3
[個別入金消込]メニューの未消込リストの印刷時に、第一項目に金額を選択した場合でも、小計・合計の項目名が出力されるようになりました。	3
債権伝票履歴リストを、選択した項目・並び順で印刷できるようになりました。	3

- 回収種別が値引の時に、[入金情報登録]メニューで税率を指定して登録し、請求書に印字できるようになりました。

いままでは、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで税率の指定はできませんでしたが、これからは、回収方法の回収種別（[導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニューの[基本]ページで設定）が「5：値引」の際に、税率を指定できるようになりました。入金金額を選択し、（[F1]キー）を押して税率を指定します。[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューで税率ごとの消費税額（[請求書発行 - 出力項目]画面の[明細請求書・伝票請求書]ページで設定）が「印字する」の場合は、回収種別が「5：値引」の明細の税率も含めて印字できます。

また、以下の事ができるようになりました。

- ・ 回収種別が「5：値引」の入金情報を消し込む際に、[入金情報登録]メニューで登録した税率で入金伝票を作成できます。
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[入金情報データ作成]メニューで出力される項目に、「税率」項目が追加されました。また、[随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[入金情報データ受入]メニューで、税率を指定して受け入れることができます。

- 各承認メニューで、合計を確認できるようになりました。

各承認メニューの画面上に合計行を表示できるようになりました。

各メニューの[条件設定]画面に追加された[表示設定]ページの合計表示を「表示する」に設定します。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー
※この機能追加に伴い、[表示設定]ページが追加されました。
 - ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
 - ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー
- 承認リストや未承認リスト、入金情報リストで、あらかじめ選択した項目での印刷や、複数ページになる場合の印刷順序の設定ができるようになりました。

承認リストや未承認リスト、入金情報リストに、印刷レイアウトについての設定が追加されました。

- ・ 1明細の出力項目が2ページ以上にわたる場合の印刷順序を設定できます。
[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページの「複数ページの印刷順序」で設定します。
- ・ [条件設定]画面の[項目選択]ページで設定した項目と並び順で印刷されるようになりました。

いままでの固定のレイアウトで印刷する場合は、[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページの「固定レイアウトで印刷する」のチェックを付けます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー

- 明細請求書に調整額の明細を集計できるようになりました。

[請求書発行 - 出力項目]画面の[明細請求書]ページで、調整額の明細集計を「する」に設定します。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー
- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書再発行]メニュー

- [個別入金消込]メニューの未消込リストの印刷時に、第一項目に金額を選択した場合でも、小計・合計の項目名が出力されるようになりました。

[個別入金消込 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで第一項目に金額を選択した場合に、いままでは小計・合計行の項目名が非表示になっていましたが、これからは全体の列を自動的に右にずらし、最左列に小計・合計の項目名が出力されるようになりました。

- 債権伝票履歴リストを、選択した項目・並び順で印刷できるようになりました。

[債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニューに、[債権伝票履歴 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで選択した項目で債権伝票履歴リストを印刷できるレイアウトが追加されました。

[債権伝票履歴 - 印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページの形式選択で「債権伝票履歴リスト(選択形式)」を選択します。

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.56 >

変更内容一覧

【債権管理】

《債権データ抽出》

メインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページの「摘要の貸借別の入力」が「1:する」の場合に、作成する債権伝票の摘要に仕訳明細の債権科目の摘要をセットできるようになりました。

【設定箇所】

[債権データ抽出 - 条件設定]画面の[表示方法]ページの「債権科目の摘要を表示する」
<『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合>

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.53/Ver.2.52/Ver.2.50 >

変更内容一覧

《法改正情報》
平成27年10月施行消費税改正（国境を越えた役務の提供にかかる消費税）に対応しました。
平成28年施行「山の日（国民の祝日）」に対応しました。
《機能追加》
他のメニューが実行中でも、以下のメニューを開いて、設定内容を参照できるようになりました。 ※ただし、設定内容を登録する際は、他のメニューを閉じる必要があります。 【関連メニュー】 ○[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニュー ○[導入処理]-[会計期間設定]-[債権債務機能設定]メニュー ○[導入処理]-[会計期間設定]-[手形機能設定]メニュー
前受金残高にセグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト・工事・工種を入力できるようになりました。 ※セグメント1・セグメント2は、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。 ※プロジェクト・サブプロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。 ※工事・工種は、『勘定奉行[建設業編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。 【関連メニュー】 ○[導入処理]-[残高入力]-[前受金残高入力]メニュー ○[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[残高データ作成]-[前受金残高データ作成]メニュー ○[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[残高データ受入]-[前受金残高データ受入]メニュー
[導入処理]-[承認権限登録]メニューで、印刷・転送のレイアウトが変更されました。 また、印刷時に初期値として表示するプリンタをメインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるようになりました。
[随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[債権伝票データ作成]メニューの[項目選択]ページで、「税区分」を選択すると「税区分コード」「税区分名」「税区分略称」が出力できるようになりました。

《法改正情報》

- 平成27年10月施行消費税改正（国境を越えた役務の提供にかかる消費税）に対応しました。

当システムに影響のある改正は、大きく2つです。

○国外との商品の売買・サービスの提供のうちインターネット等を介した売買・提供に関して、課税取引なのか不課税取引なのかを判定する基準が変更されました。

○新しい課税方式「リバースチャージ方式」が導入され、国外事業者が納税する売上げにかかる消費税を、日本企業が申告時に代わりに納税します。

※平成27年10月1日以後の取引から適用

詳細は、『勘定奉行』の「機能追加／改正情報 - Ver. 2.50 変更内容の詳細」をご参照ください。

- 平成28年施行「山の日（国民の祝日）」に対応しました。
[導入処理]-[運用設定]-[休日登録]メニューの休日パターンに、国民の休日として「山の日」が追加されました。
当バージョンをセットアップ後に登録する、2016年以降の休日リストに「山の日」が追加されます。

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.17/Ver.2.16/Ver.2.15 >

変更内容一覧

【全般】
消込時や承認時などに、対象の債権伝票にジャンプして付箋を貼り、メモを残すことができるようになりました。 ※詳細は、操作説明の「伝票を参照して付箋を貼る」をご参照ください。
各メニューで表示するプロジェクト名称を、メインメニューの[導入処理]-[プロジェクト関連登録]-[プロジェクト登録]-[プロジェクト登録]メニューで設定した「プロジェクト名」「プロジェクト略称」のどちらで表示するかを設定できるようになりました。 【設定箇所】 [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[名称設定]ページ ＜『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合＞
各メニューで表示する工事名称を、メインメニューの[導入処理]-[工事関連登録]-[工事登録]-[工事登録]メニューで設定した「工事名」「工事略称」のどちらで表示するかを設定できるようになりました。 【設定箇所】 [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[名称設定]ページ ＜『勘定奉行[建設業編]』をお使いの場合＞
【導入処理】
《前受金残高入力》
画面レイアウトが変更されました。 項目ごとに列が分かれ、項目が横並びで表示されるようになりました。
摘要欄で、登録済みの摘要を検索して入力できるようになりました。
《取引先登録》
振込先初期設定（[支払先振込]ページで設定）の選択肢に、「振込先未指定」が追加されました。 電子記録債権の譲渡先になる取引先で、電子記録債権に譲渡先振込先銀行を初期表示しない場合は、「振込先未指定」を設定します。 【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニュー・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニュー・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[取引先データ作成]-[取引先データ作成]メニュー・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行取引先データ作成]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先データ受入]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）・ [債権管理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権入力]メニュー・ [債権管理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権てん末変更]メニュー
【債権管理】
《入金情報登録》
入金情報の請求先を変更した際に、回収方法を、変更後の請求先の回収方法に更新するか、そのままにするかを選択できるようになりました。

<p>【設定箇所】 [入金情報登録 - 設定]画面の[運用設定]ページ 「請求先変更時の回収方法」</p>
<p>メインメニューの[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[部門別税区分表示設定]メニューで部門ごとの税区分を設定している場合は、当メニューで作成する入金伝票にも部門ごとの税区分が表示されるようになりました。</p>
<p>【相殺消込に関する変更内容】 <『債務管理Proオプション』または『債務管理オプション』を併せてお使いの場合></p>
<p><<メニュー体系>></p>
<p>メニューの名称および構成が変更されました。 ※詳細は、12ページをご参照ください。</p>
<p><<全般>></p>
<p>帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。 ※詳細は、12ページをご参照ください。</p>
<p>債権管理または債務管理のどちらかにだけ部門権限の制限をかけている場合に、相殺消込の部門権限の制限をどうするかを設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[相殺基本設定]ページ 「勘定奉行部門権限」</p> <p>【関連メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニュー ・ [債権管理]-[相殺処理]-[一括相殺消込]メニュー、[債権管理]-[相殺処理]-[一括相殺消込]メニュー、[債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込修正]メニュー（新：[債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込]メニュー） ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込承認]メニュー（新：[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー） ・ 新：[随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[相殺伝票データ一括削除]メニュー <p style="text-align: right;"><ネットワーク対応製品をお使いの場合></p>
<p><<一括相殺消込>> ※新メニュー名：[相殺消込]メニュー</p>
<p>[フローに関する変更]</p>
<p>[一括相殺消込]メニュー、[個別相殺消込]メニュー、[相殺消込修正]メニューが1つのメニューに統合され、消込と取消が1つのメニューで処理できるようになりました。 消込を行う場合は、[相殺消込 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで処理区分「消込」を選択します。</p>
<p>[条件設定画面の変更]</p>
<p>検索対象の絞込条件が追加されました。 ※この機能追加に伴い、以下のとおり変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。 ・ [摘要]ページ、[登録情報]ページ、[利用情報]ページ、[付箋]ページ、[消費税]ページが追加されました。
<p>取引先グループの消込で取引先別に集計する場合に、いままでは、取引先グループを1件ずつ指定する必要がありました。 これからは、取引先グループを範囲指定できるようになりました。</p>

[債権伝票詳細] ページ、[債務伝票詳細] ページは、[詳細条件] ページに統合されました。
 ※ただし、[債権伝票詳細] ページ、[債務伝票詳細] ページの「伝票区分」は、[登録情報] ページに移動しました。

[詳細条件] ページで、部門・セグメント・プロジェクトの絞込指定ができる対象が増えました。
 いままでは、債権科目側・債務科目側だけが対象でしたが、借方・貸方・両方を対象にできるようになりました。
 ※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。
 ※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。

[表示設定] ページで、以下の項目が変更されました。

- ・ マイナス債権、マイナス債務

⇒項目が廃止されました。

[基本条件] ページで債権金額、債務金額の指定ができるようになりました。

マイナス債権を抽出しない場合は、債権伝票の「金額」の範囲を「0～」と指定してください。

マイナス債務を抽出しない場合は、債務伝票の「金額」の範囲を「0～」と指定してください。

- ・ 対象取引先

⇒項目が廃止されました。

金額が0の取引先を対象としない場合は、[表示設定] ページの消込ができないデータの表示を「表示しない」に設定してください。

- ・ 名称項目の拡張表示

⇒項目が廃止され、必ず拡張表示されるようになりました。

<グループ間消込（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定] メニューの[相殺基本設定] ページで設定）が「1：使用する」の場合>

- ・ 集計単位

⇒[基本条件] ページに移動しました。

変更前の設定によって、以下のとおり設定してください。

変更前	変更後	
	相殺伝票集計単位	債権伝票・債務伝票消込単位
取引先単位	取引先別	明細別
取引先グループ単位（一括）	取引先グループ別	明細別
取引先グループ単位（個別）	取引先グループ別	取引先別

- ・ 取引先グループに属さない取引先は対象にしない。

⇒項目が廃止されました。

取引先グループに属さない取引先は、[基本条件] ページで以下の条件を設定すると絞込ができます。

- ・ 相殺伝票集計単位：「取引先別」
- ・ 債権伝票の範囲指定：取引先グループ「0～0」
- ・ 債務伝票の範囲指定：取引先グループ「0～0」

プラスの債権明細、またはプラスの債務明細がないデータなど、消込ができないデータを表示するかを設定できるようになりました。

<p>【設定箇所】 [相殺消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「消込ができないデータの表示」</p>
<p>消込日付として初期表示する日付を設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [相殺消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「相殺日付初期表示」</p>
<p>相殺日付が会計期間外だった場合に、特定の日付を初期値として表示できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [相殺消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「会計期間外の相殺日付表示」</p>
<p>[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。 また、[出力順2]ページで債権明細、債務明細の検索結果の並び順も設定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、[項目選択]ページ、[項目選択2]ページが追加されました。</p>
<p>【メイン画面の変更】</p>
<p>画面の上段に相殺伝票、下段に消込対象の債権明細、債務明細が表示されるようになりました。 [Ctrl] キーを押すと表示される、[明細表示]（[F5] キー）／[明細非表示]（[F5] キー）で、下段の表示、非表示を切り替えられます。 ※いままでの[一括相殺消込]メニューと同様に表示する場合は、下段を非表示にします。</p>
<p>以下のとおり、項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「消込日付」→「相殺日付」 ・「相殺消込金額」→「消込金額」 ・「債権締日」、「債務締日」→「債権締日情報」、「債務締日情報」 <p>○以下の項目は、債権、債務の項目名称を区別できるように変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部門」→「債権部門」、「債務部門」、「売上部門」、「購入部門」 ・「補助科目」→「債権補助科目」、「債務補助科目」、「売上補助科目」、「購入補助科目」
<p>見出し部分に、集計範囲が表示されるようになりました。</p>
<p>消込金額に初期値として表示する金額を設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [相殺消込 - 設定]画面の[消込設定]ページの「消込金額の初期値」</p>
<p>消込実行後に[相殺伝票リスト]画面を表示して、作成する相殺伝票の確認・修正ができるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [相殺消込 - 設定]画面の[消込設定]ページの「相殺消込後の伝票確認」</p>
<p>[日付一括変]（[F4]キー）、[摘要変更]（[F7]キー）の機能が統合され、[一括変更]（F7キー）で相殺日付や摘要を一括変更できるようになりました。 ※詳細は、操作説明の「相殺日付や摘要など、作成する相殺伝票の内容を一括で変更する」をご参照ください。</p>
<p>【印刷の変更】</p>

<p>メニューが統合されたため、いままでの[個別相殺消込]メニューの印刷形式でも印刷できるようになりました。</p> <p>いままでの[一括相殺消込]メニューの印刷形式で印刷する場合は、[相殺消込 - 印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページの印刷形式を「相殺伝票集計単位リスト」に設定します。</p> <p>※ただし、旧：集計単位が「取引先グループ単位（個別）」の印刷形式で印刷する場合は、「消込単位リスト」を選択します。</p> <p>※この機能追加に伴い、帳票タイトルの初期値が変更されました。</p>
<p>いままでの[一括相殺消込]メニューの印刷形式（新：印刷形式が「相殺伝票集計単位リスト」）の場合は、[相殺消込 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで設定された項目が出力されるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、相殺伝票集計単位が「取引先グループ単位」の場合は、債権締日、債務締日が出力されなくなりました。</p>
<p>出力設定ができる項目が追加されました。</p> <p>また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。</p>
<p>以下のとおり、項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「消込日付」→「相殺日付」 ・「相殺消込金額」→「消込金額」 ・「債権締日」、「債務締日」→「債権締日情報」、「債務締日情報」
<p>見出し部分に、集計単位、集計範囲が出力されるようになりました。</p>
<p>合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。</p>
<p>旧：集計単位が「取引先グループ単位（個別）」の場合に、相殺消込金額（新：消込金額）の出力内容が変更されました。</p> <p>変更前 「-（ハイフン）」で出力されていました。</p> <p>変更後 空白で出力されるようになりました。</p>
<p>[転送の変更]</p>
<p>出力設定ができる項目が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。</p>
<p>以下のとおり、項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「消込日付」→「相殺日付」 ・「相殺消込金額」→「消込金額」 ・「債権締日」、「債務締日」→「債権締日情報」、「債務締日情報」
<p>見出し部分に、集計単位、集計範囲が出力されるようになりました。</p>
<p>合計行を出力する場合に、合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。</p>
<p>合計行の前の空白行が出力されなくなりました。</p>
<p>旧：集計単位が「取引先グループ単位（個別）」の場合に、相殺消込金額（新：消込金額）の出力内容が変更されました。</p> <p>変更前 「-（ハイフン）」で出力されていました。</p> <p>変更後</p>

空白で出力されるようになりました。
金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。
Office連携サービスに対応し、Microsoft Outlookでメール送信したり、罫線や色を付けてExcelファイルに出力できるようになりました。 <p style="text-align: right;"><「OMSS」/『奉行V ERP8』をお使いの場合></p>
《個別相殺消込》 ※新メニュー名：[相殺消込]メニュー
[フローに関する変更]
[一括相殺消込]メニュー、[個別相殺消込]メニュー、[相殺消込修正]メニューが1つのメニューに統合され、消込と取消が1つのメニューで処理できるようになりました。 消込を行う場合は、[相殺消込 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで処理区分「消込」を選択します。
[条件設定画面の変更]
検索対象の絞込条件が追加されました。 ※この機能追加に伴い、以下のとおり変更されました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。 ・ [摘要]ページ、[登録情報]ページ、[利用情報]ページ、[付箋]ページ、[消費税]ページが追加されました。
いままでは、取引先または取引先グループを1件ずつ指定する必要がありましたが、これからは、取引先や取引先グループを範囲指定できるようになりました。
[債権伝票詳細]ページ、[債務伝票詳細]ページは、[詳細条件]ページに統合されました。 ※ただし、[債権伝票詳細]ページ、[債務伝票詳細]ページの「伝票区分」は、[登録情報]ページに移動しました。
[詳細条件]ページで、部門・セグメント・プロジェクトの絞込指定ができる対象が増えました。 いままでは、債権科目側・債務科目側だけが対象でしたが、借方・貸方・両方を対象にできるようになりました。 ※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。 ※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。
[表示設定]ページで、以下の項目が変更されました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マイナス債権、マイナス債務 ⇒項目が廃止されました。 [基本条件]ページで債権金額、債務金額の指定ができるようになりました。 マイナス債権を抽出しない場合は、債権伝票の「金額」の範囲を「0～」と指定してください。 マイナス債務を抽出しない場合は、債務伝票の「金額」の範囲を「0～」と指定してください。 ・ 名称項目の拡張表示 ⇒項目が廃止され、必ず拡張表示されるようになりました。
プラスの債権明細、またはプラスの債務明細がないデータなど、消込ができないデータを表示するかを設定できるようになりました。 【設定箇所】 [相殺消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「消込ができないデータの表示」
消込日付として初期表示する日付を設定できるようになりました。

<p>【設定箇所】 [相殺消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「相殺日付初期表示」</p>
<p>相殺日付が会計期間外だった場合に、特定の日付を初期値として表示できるようになりました。</p>
<p>【設定箇所】 [相殺消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「会計期間外の相殺日付表示」</p>
<p>[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。 また、[出力順2]ページで債権明細、債務明細の検索結果の並び順も設定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、[項目選択]ページ、[項目選択2]ページが追加されました。</p>
<p>【メイン画面の変更】</p>
<p>画面の上段に相殺伝票、下段に消込対象の債権明細、債務明細が表示されるようになりました。 上段で相殺伝票が選択できるようになり、複数の取引先または取引先グループの消込を一括で実行できるようになりました。</p>
<p>以下のとおり、項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「消込日付」→「相殺日付」 ・「相殺消込金額」→「消込金額」 ・「伝票番号」→「伝票No.」 ・「債権締日」、「債務締日」→「債権締日情報」、「債務締日情報」 ・「差額（債権 - 債務）」→「差額」 <p>○以下の項目は、債権、債務を区別できるように項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部門」→「債権部門」、「債務部門」、「売上部門」、「購入部門」 ・「補助科目」→「債権補助科目」、「債務補助科目」、「売上補助科目」、「購入補助科目」 ・「相殺消込金額合計」→「債権金額」、「債務金額」
<p>見出し部分に、集計範囲が表示されるようになりました。</p>
<p>消込金額に初期値として表示する金額を設定できるようになりました。</p>
<p>【設定箇所】 [相殺消込 - 設定]画面の[消込設定]ページの「消込金額の初期値」</p>
<p>消込実行後に[相殺伝票リスト]画面を表示して、作成する相殺伝票の確認・修正ができるようになりました。</p>
<p>【設定箇所】 [相殺消込 - 設定]画面の[消込設定]ページの「相殺消込後の伝票確認」</p>
<p>[自動選択]（F3キー）が廃止されました。 消込金額の初期値が「相殺可能額を使用する」の場合は、上段にチェックを付けると、自動的に下段の明細にも相殺可能額分のチェックが付きます。</p>
<p>【設定箇所】 [相殺消込 - 設定]画面の[消込設定]ページの「消込金額の初期値」</p>
<p>[摘要変更]（F7キー）は廃止され、[一括変更]（F7キー）から摘要変更するようになりました。</p>

※詳細は、操作説明の「相殺日付や摘要など、作成する相殺伝票の内容を一括で変更する」をご参照ください。

[印刷の変更]

メニューが統合されたため、いままでの[一括相殺消込]メニューの印刷形式でも印刷できるようになりました。

いままでの[個別相殺消込]メニューの印刷形式で印刷する場合は、[相殺消込 - 印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページの印刷形式を「消込単位リスト」に設定します。

※この変更に伴い、帳票タイトルの初期値が変更されました。

出力設定ができる項目が追加されました。

また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。

※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。

見出し部分に、集計単位、集計範囲が出力されるようになりました。

[転送の変更]

出力設定ができる項目が追加されました。

※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。

以下のとおり、項目名が変更されました。

- ・「消込日付」→「相殺日付」
- ・「相殺消込金額」→「消込金額」
- ・「債権締日」、「債務締日」→「債権締日情報」、「債務締日情報」

見出し部分に、集計単位、集計範囲が出力されるようになりました。

合計行を出力する場合のレイアウトが変更されました。

集計単位コード、集計単位名、合計列が出力された後に、明細列が出力されます。

合計行の前の空白行が出力されなくなりました。

金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。

Office連携サービスに対応し、Microsoft Outlookでメール送信したり、罫線や色を付けてExcelファイルに出力できるようになりました。

<「OMSS」/『奉行V ERP8』をお使いの場合>

《相殺消込修正》

※新メニュー名：[相殺消込]メニュー

[一括相殺消込]メニュー、[個別相殺消込]メニュー、[相殺消込修正]メニューが1つのメニューに統合され、消込と取消が1つのメニューで処理できるようになりました。

取消を行う場合は、[相殺消込 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで処理区分「取消」を選択します。

《相殺消込承認》

※新メニュー名：[相殺伝票承認]メニュー

[フローに関する変更]

承認取消機能が追加されました。

承認を行う場合は、[相殺伝票承認 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで処理区分「承認」を選択します。

相殺伝票承認（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[相殺基本設定]ページで設定）が「2：2段階承認」の場合に、1次承認権限者が1次承認済の伝票の承認を取り消せるようになりました。

<p>[条件設定画面の変更]</p> <p>検索対象の絞込条件が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、以下のとおり変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [基本条件] ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。 ・ [セグメント] ページ、[プロジェクト] ページは、[詳細条件] ページに統合されました。 ・ [摘要] ページ、[登録情報] ページ、[利用情報] ページが追加されました。
<p>[基本条件] ページで以下の項目が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「範囲指定」 ⇒ 「相殺伝票」に名称が変更されました。 ・ 「伝票日付」 ⇒ 「相殺日付」に名称が変更されました。 ・ 「承認状態」（相殺伝票承認（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[相殺基本設定]ページで設定）が「2：2段階承認」の場合） ⇒ 指定方法が変更されました。
<p>[詳細条件] ページで、部門・セグメント・プロジェクトの絞込指定ができる対象が増えました。</p> <p>いままでは、債権科目側・債務科目側だけが対象でしたが、借方・貸方・両方を対象にできるようになりました。</p> <p>※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。</p> <p>※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。</p>
<p>[表示設定] ページが追加され、小計を表示できるようになりました。</p>
<p>[出力順] ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。</p>
<p>[項目選択] ページが追加され、出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。</p>
<p>[メイン画面の変更]</p>
<p>Windows ファンクションの名称が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [相殺仕訳]（[F7] キー）→ [相殺伝票]（[F7] キー）
<p>以下のとおり、項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝票日付」→「相殺日付」 ・ 「対象承認件数」→「対象伝票件数」 ・ 「選択承認件数」→「選択伝票件数」 ・ 「承認状況」→「承認状態」 ・ 「相殺消込金額」→「消込金額」 ・ 「相殺消込可能額」→「相殺可能額」
<p>選択承認件数（新：選択伝票件数）の表示内容が変更されました。</p> <p>変更前 チェックを付けた伝票件数 + チェックを付けていない1次承認済の伝票件数</p> <p>変更後 チェックを付けた伝票件数</p>
<p>取引先、取引先グループの表示方法が変更されました。</p> <p>いままでは、取引先と取引先グループは同じ列に表示されていましたが、[項目選択] ページで出力する項目を設定できるようになったため、別々の列で表示されるようになりました。</p>
<p>画面下部に、[項目選択] ページで出力項目に設定した金額項目の合計金額が表示されるよう</p>

になりました。

※チェックを付けた伝票の合計金額が表示されます。

[印刷の変更]

印刷形式の名称が変更されました。

- ・「明細リスト」→「伝票リスト」
- ・「伝票リスト」→「未承認リスト」

承認取消機能が追加されたため、印刷形式に「承認済リスト」が追加されました。

【設定箇所】

[相殺伝票承認 - 条件設定]画面の[基本条件]ページの「処理区分」を「取消」に設定します。

出力設定ができる項目が追加されました。

また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。

※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコード、セグメント、プロジェクトの出力設定は[詳細設定]ページに集約されました。

※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。

※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。

明細リスト（新：伝票リスト）の変更

- ・小計を出力する際の項目名が変更されました。

変更前

小計を出力する

変更後

伝票計を印刷する

- ・消費税納税額の計算方法（メインメニューの[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの[基本設定]ページで設定）が「1：簡易課税」の場合に、事業区分が出力できるようになりました。
- ・整理仕訳の管理方法（メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）が「1：日常仕訳と区別する」の場合に、整理区分が出力できるようになりました。
- ・帳票タイトルは、半角20文字までは文字の大きさが自動調節されるようになりました。
- ・小計行の下に罫線が印字されるようになりました。

伝票リスト（新：未承認リスト）の変更

- ・[伝票日付]（新：相殺日付）の日付の形式が変更されました。

▼例

14/4/1 → 2014/ 4/ 1

- ・取引先・取引先グループの表示方法が変更されました。
- ・金額以外の項目は、タイトルが左詰めになりました。
- ・小計・合計・出力項目をそれぞれ1列に1項目で出力されるようになりました。
- ・以下のとおり、項目名が変更されました。
 - ・「伝票日付」→「相殺日付」
 - ・「承認状況」→「承認状態」
 - ・「相殺消込金額」→「消込金額」

単票相殺伝票の変更

- ・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクトが出力できるようになりました。

【設定箇所】

[相殺伝票承認 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページ

※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。

※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。

- ・整理仕訳（メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）の管理方法が「1：日常仕訳と区別する」の場合に、整理区分が出力できるようになりました。
- ・タイトル行の「借方取引先」「貸方取引先」が廃止されました。
- ・帳票タイトルが半角23文字以上でも出力できるようになりました。（文字の大きさが自動調節されます。）
- ・会社名が、半角39文字以上でも出力できるようになりました。（文字の大きさが自動調節されます。）
- ・会社名を印字する／しないに関わらず、会社名の下の罫線が出力されなくなりました。

【転送の変更】

出力する項目は、[相殺伝票承認 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで設定できるようになりました。

金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。

合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。

合計行の前の空白行が出力されなくなりました。

小計行、合計行の出力有無を、[相殺伝票承認 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで設定できるようになりました。

以下のとおり、項目名が変更されました。

- ・「取引先」→「取引先コード」
- ・「(取引先名1)」→「取引先名」

《相殺消込履歴》

相殺伝票の参照・取消は、[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニューで行えるようになったため、メニューが廃止されました。

また、承認だけを取り消す機能と、同時に消込まで取り消す機能は、別のメニューで実行できるようになり、取消範囲が明確になりました。

承認だけの取消⇒[相殺伝票承認]メニュー

承認+消込の取消⇒[随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[相殺伝票データ一括削除]メニュー

※[相殺伝票データ一括削除]メニューは今回のバージョンで追加されたメニューです。
使用するには、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

変更内容詳細

- **メニューの名称および構成が変更されました。**

相殺消込に関するメニューで、以下のとおりメニューの名称および構成が変更されました。

変更前	変更後
[債権管理]-[相殺処理] -[一括相殺消込]メニュー -[個別相殺消込]メニュー -[相殺消込修正]メニュー	[債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込]メニューに統合されました。 一括消込と個別消込、消込の取消が1つのメニューで処理できるようになりました。
[債権管理]-[相殺処理] -[相殺消込承認]メニュー	[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニューに名称が変更されました。
[債権管理]-[履歴管理] -[相殺消込履歴]メニュー	[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニューに統合されました。 また、承認だけの取り消しと、承認+消込の同時取り消しは、別のメニューで実行するようになり、 [随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[相殺伝票データ一括削除]メニューが追加されました。 ○承認だけを取り消す場合 [債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー ○承認と消込を同時に取り消す場合 [随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[相殺伝票データ一括削除]メニュー ※[相殺伝票データ一括削除]メニューは、今回のバージョンで追加されたメニューです。 使用するには、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

- **帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。**

以下の帳票について、初期値として表示するプリンタをメインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるようになりました。

これにより、[プリンタ設定]ページで初期値として表示される内容が、以下のとおり変更になります。

変更前	変更後
全項目とも、前回の印刷時に設定した内容 ※初回起動時は、「通常使うプリンタ」の内容が表示されます。	メインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューでプリンタが登録されているかによって、異なります。 ○登録済みの場合 全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容 ※帳票別プリンタ登録が利用者ごとの設定であれば、印刷時の「サイズ」

	<p>「印刷の向き」「余白・位置調整」「倍率」の変更は、帳票別プリンタ登録に反映します。</p> <p>○未登録の場合</p> <p>「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容</p> <p>「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容</p>
--	---

注意

この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した内容が初期値として表示されなくなります。

帳票を印刷する前に、メインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで初期値として表示するプリンタを登録してください。

※[帳票別プリンタ登録]メニューの登録をしない場合は、常に「通常使うプリンタ」が初期値として表示されます。

◀ 対象帳票 ▶

- ・相殺消込対象リスト（新：相殺伝票集計単位リスト・消込単位リスト[取引先別]（[債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込]メニュー））
- ・個別相殺消込対象リスト（新：消込単位リスト[明細別]（[債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込]メニュー））
- ・相殺伝票リスト（[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー）
- ・相殺未承認リスト（新：相殺伝票未承認リスト（[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー））
- ・相殺伝票（[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー）
- ・相殺消込履歴リスト（新：相殺伝票承認済リスト（[債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー））

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.13 >

変更内容一覧

【全般】
入金消込時に、差額を任意の科目で3つまで、入金伝票に計上できるようになりました（消込調整額）。 ※詳細は、4ページをご参照ください。
商品を入力しなくても、請求締処理が利用できるようになりました。 ※詳細は、4ページをご参照ください。 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞
各メニューで表示する商品の項目名を、「商品」「品目」のどちらにするかを設定できるようになりました。 【設定箇所】 [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[名称設定]ページ 【共通マスター名称設定】「商品」 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞
工事進行基準のプロジェクトの消費税額を、完成時に一括計上する場合の税区分に対応しました。 ※詳細は、4ページをご参照ください。 ＜『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合＞
クイックメニューにコピー機能（クリップボード）が追加されました。 ※詳細は、5ページをご参照ください。 ＜「OMSS」/『奉行V ERP8』をお使いの場合＞
【導入処理】
＜債権債務機能設定＞
画面構成を見直し、項目の配置が変更されました。 ○[科目設定]ページが分れ、[債権科目設定]ページと[入金科目設定]ページになりました。 ○[伝票設定]ページにあった、消費税差金・手数料の部門設定、明細設定が[入金科目設定]ページに移動しました。 ○[請求仕訳設定]ページの名称が、[締処理設定]ページに変更されました。
【債権管理】
＜債権データ抽出＞
部門やセグメント・プロジェクトなど、画面に表示できる項目が増えました。 ※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。 ※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。 【設定箇所】 [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページ 「債権データ抽出の表示形式」 「債権データ抽出の表示形式」を「1：選択形式」に設定すると、[債権データ抽出 - 条件設定]画面に[項目選択]ページが追加され、画面に表示する項目を自由に選択できるようになります。
回収予定日を一括変更できるようになりました。

<p>上述の「債権データ抽出の表示形式」が「1：選択形式」の場合に、[一括変更]（[F7]キー）で回収予定日を一括変更できます。</p>
<p>《締単位入金消込》</p>
<p>Windowsファンクションの配置が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [個別消込] [F7] キー→ [F9] キー ・ [一括変更] [F9] キー→ [F7] キー
<p>《一括入金消込》</p>
<p>以下の集計単位が追加されました。</p> <p>「セグメント1別」「セグメント2別」「プロジェクト別」「サブプロジェクト別」</p> <p>※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。</p> <p>※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。</p>
<p>検索対象の絞込条件が追加されました。</p> <p>○[基本条件]ページで、以下の絞込条件が追加されました。</p> <p>「証憑No.」「担当者」・「担当者区分」・「債権区分コード」・「債権区分名」・「任意項目コード」・「任意項目名」・「商品コード」・「商品名」・「商品区分1」・「商品区分2」・「商品区分3」・「商品区分4」・「商品区分5」</p> <p>○[詳細条件]ページで、以下の絞込条件が追加されました。</p> <p>「セグメント1」・「セグメント1グループ」・「セグメント2」・「セグメント2グループ」・「プロジェクト」・「プロジェクト区分」・「サブプロジェクト」・「サブプロジェクト区分」</p> <p>※セグメントは、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。</p> <p>※プロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。</p> <p>○[摘要]ページ、[登録情報]ページ、[利用情報]ページ、[付箋]ページ、[消費税]ページが追加されました。</p>
<p>Windowsファンクションの配置が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [個別消込] [F7] キー→ [F9] キー ・ [一括変更] [F9] キー→ [F7] キー
<p>《個別入金消込》</p>
<p>Windowsファンクションの配置が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [個別消込] [F7] キー→ [F9] キー <p>Windowsファンクションの名称と配置が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [摘要変更] [F9] キー→ [一括変更] [F7] キー
<p>《請求先元帳》</p>
<p>[条件設定画面の変更]</p>
<p>[基本条件]ページの集計範囲の条件項目がリストから選択する形式になりました。</p>
<p>[基本条件2]ページで、複数の債権科目を指定して集計できるようになりました。</p>
<p>[詳細条件]ページで設定していた債権明細、入金明細、計行の出力項目の設定は、[表示設定]ページに移動しました。</p>
<p>[表示設定]ページで設定していた表示順の設定は、[出力順]ページに移動しました。</p>
<p>[画面表示の変更]</p>
<p>見出し部分に、集計範囲の情報が出力されるようになりました。</p>
<p>各項目の列幅をマウス操作で変更できるようになりました。</p>

画面右上のアイコンをクリックし、明細の高さを「標準」「小」「最小」の中から選択できるようになりました。
【印刷の変更】
帳票別プリンタ登録ができるようになりました。 ※詳細は、6ページをご参照ください。
集計結果を画面表示した後で、[印刷等]（[F2]キー）から印刷した場合には、画面に表示されている請求先の集計結果だけが出力されるようになりました。
見出し部分に、集計範囲の情報が出力されるようになりました。
網掛け印刷、フォントサイズの指定、行間補正ができるようになりました。
会社名のフォントサイズが8→9に変更されました。
【転送の変更】
集計結果を画面表示した後で、[印刷等]（[F2]キー）から転送した場合には、画面に表示されている請求先の集計結果だけが出力されるようになりました。
見出し部分に、集計範囲の情報が出力されるようになりました。
見出しの出力順が変更されました。 変更前 「集計期間」→「会社名」 変更後 「会社名」→「集計期間」
『奉行V ERP8』をお使いで、「OMS S」にご加入の場合に、罫線や色を付けてExcelファイルに出力できるようになりました。
《債権残高確認書》
出力する請求先名を選択できるようになりました。 【設定箇所】 [債権残高確認書 - 印刷条件設定]画面の[出力設定]ページの「請求先名称」
【随時処理】
《処理制限期間設定》 ※新メニュー名：[処理期間制限]メニュー
メニュー名が変更されました。 変更前 [随時処理]-[処理制限期間設定]メニュー 変更後 [随時処理]-[処理期間制限]メニュー
別の利用者の制限を複写して設定できるようになりました。
利用者リストには、利用者ごとの制限が設定されている利用者だけが表示されるようになりました。
帳票別プリンタ登録ができるようになりました。 ※詳細は、6ページをご参照ください。
印刷、転送で、出力対象の利用者を絞り込めるようになりました。
印刷、転送で、すべての処理の制限内容を一度に出力できるようになりました。
操作ログの出力内容が変更されました。

変更内容詳細

- 入金消込時に、差額を任意の科目で3つまで、入金伝票に計上できるようになりました(消込調整額)。

入金消込時に、未入金金額(債権金額)と入金金額の差額を処理できる項目「消込調整額」が追加されました。割引がある場合や、一部の金額が差し引かれて入金される場合など、消込時の差額の処理に使用できます。消込調整額は、3つまで項目を追加でき、項目の名称も任意の名称に変更できます。

▼例

売上割引があったため、割引分が差し引かれて入金された場合

[一括入金消込]画面

未入金金額 (A-B-C)		入金合計 (D+E+F+G)			消込金額
プラス債権 (A)		入金金額 (D)			過入金 (入金-消込)
入金消金額 (B)	マイナス債権 (C)	手数料等 (E)	消費税差金 (F)	割引額 (G)	債権残 (未入金-消込)
	300,000			291,000	300,000
	300,000			291,000	-9,000
0	0	0	0	0	0



未入金金額 (A-B-C)		入金合計 (D+E+F+G)			消込金額
プラス債権 (A)		入金金額 (D)			過入金 (入金-消込)
入金消金額 (B)	マイナス債権 (C)	手数料等 (E)	消費税差金 (F)	割引額 (G)	債権残 (未入金-消込)
	300,000			300,000	300,000
				291,000	0
				9,000	0
0					0

割引額 (消込調整額)を入力して調整します。

以下のような入金伝票が作成できます。

借方		貸方	
当座預金 ※回収科目です。	291,000	売掛金 ※債権科目です。	300,000
売上割引 ※消込調整額科目-借方です。	9,000		

詳細は、操作説明の「消費税差金・消込調整額」をご参照ください。

- 商品を入力しなくても、請求締処理が利用できるようになりました。

＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞

いままでは請求締処理を利用するには商品の入力が必要でしたが、これからは商品を入力しなくても請求締処理が利用できるようになりました。

【設定箇所】

[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページ 「商品の利用有無」

参考

運用途中でも設定を変更できます。

『債権管理Proオプション』で商品を管理する必要がない場合は、商品の利用有無を「0: 利用しない」に設定してください。

「0: 利用しない」に設定すると、[導入処理]-[商品登録]-[商品登録]メニューなど、商品関連のメニューが表示されなくなります。

また、債権伝票で商品関連の項目が表示されなくなり、債権伝票に商品を入力する必要がなくなります。

なお、請求書を印刷する場合は、商品の入力が必要となります。

- 工事進行基準のプロジェクトの消費税額を、完成時に一括計上する場合の税区分に対応しました。

＜『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合＞

各メニューで、工事進行基準のプロジェクトの消費税額を、完成時に一括計上する場合専用の税区分が使用できるようになりました。

※工事進行基準のプロジェクトの消費税額を完成時に一括計上する場合専用の税区分の詳細は、

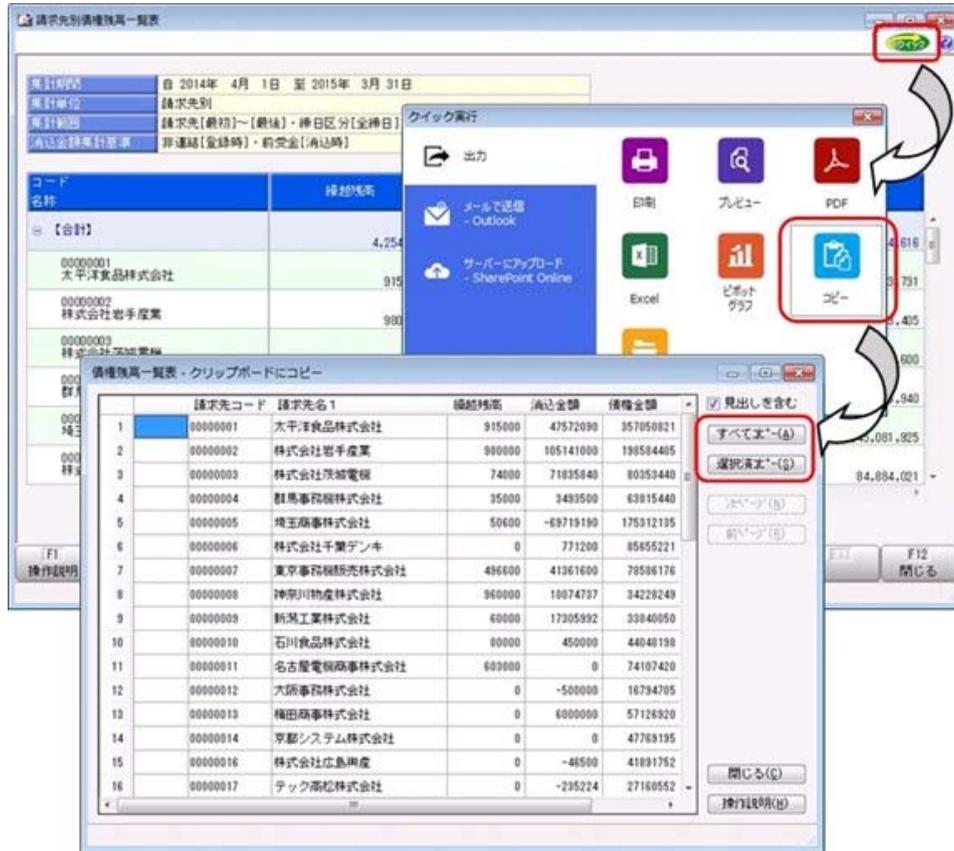
『勘定奉行[個別原価管理編]』の操作説明の「仕訳例: 工事進行基準適用時の消費税計上方法がプロジェクトの完成時に一括計上」をご参照ください。

《OMSS業務支援サービス》

- クイックメニューにコピー機能（クリップボード）が追加されました。
 <「OMSS」/『奉行V ERP8』をお使いの場合>

画面の表示内容をコピーして、企業独自のひな形（Excel）に貼り付けて利用できるようになりました。

▼イメージ図



企業独自のひな形（Excel）に、
コピーした内容を貼り付けます。



詳細は、操作説明の「画面の表示内容を企業独自のひな形（Excel）にコピーして利用する」をご参照ください。

● 帳票別プリンタ登録ができるようになりました。

以下の帳票について、初期値として表示するプリンタをメインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで、登録できるようになりました。

これにより、[プリンタ設定]ページで初期値として表示される内容が、以下のとおり変更になります。

◀ 対象帳票 ▶

- ・ 請求先元帳（[債権管理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニュー）
- ・ 処理期間制限リスト（[随時処理]-[処理期間制限]メニュー）

変更前	変更後
<p>全項目とも、前回の印刷時に設定した内容 ※初回起動時は、「通常使うプリンタ」の内容が表示されます。</p>	<p>メインメニューの[帳票別プリンタ登録]メニューでプリンタが登録されているかによって、異なります。</p> <p>○登録済みの場合 全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容 ※帳票別プリンタ登録が利用者ごとの設定であれば、印刷時の「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」「倍率」の変更は、帳票別プリンタ登録に反映します。</p> <p>○未登録の場合 「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容 「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容</p>

注 意

この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した内容が初期値として表示されなくなります。

帳票を印刷する前に、メインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで、初期値として表示するプリンタを登録してください。

※[帳票別プリンタ登録]メニューの登録をしない場合は、常に「通常使うプリンタ」が初期値として表示されます。

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.10 >

変更内容一覧

【メニュー体系】
メニューの名称および構成が変更されました。 ※詳細は、16ページをご参照ください。
【全般】
帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。 ※詳細は、18ページをご参照ください。
回収部門指定（[導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニューの[基本]ページで設定）の「1：固定値を指定する」「2：初期値を指定する」が統合され、「1：指定する」に変更されました。 ※「1：固定値を指定する」に設定していた場合は、指定した部門は、固定値ではなく初期値になります。 「2：初期値を指定する」に設定していた場合は、指定した部門は初期値のまま、「1：指定する」にコンバートされます。
【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">・ [導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニュー・ [導入処理]-[残高入力]-[前受金残高入力]メニュー・ [債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金情報作成]メニュー・ [債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー・ [債権管理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権入力]メニュー・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[決済方法データ作成]-[回収方法データ作成]メニュー・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[決済方法データ受入]-[回収方法データ受入]メニュー・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[残高データ作成]-[前受金残高データ作成]メニュー・ [[随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[入金情報データ受入]メニュー・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行入金情報データ受入]メニュー
入金消込の取消時に、部門がクリアされる範囲が変更されました。 ステータスが「1：入金」で、部門が空欄の入金情報については、入金消込時に相手債権の1行目の部門がセットされます。 この入金消込を取り消した場合は、入金情報にセットされた部門もクリアされます。 しかし、いままでは、入金承認時に入金仕訳にジャンプして部門を手修正した場合は、この入金消込を取り消しても入金情報の部門はクリアされませんでした。 これからは、この場合も部門がクリアされるようになりました。
汎用データ作成で、処理日時を出力した際に不要なスペースが出力されなくなりました。 ▼例 変更前 2014 / 04 / 17 10 : 50 : 45 変更後

2014/04/17 10:50:45

【対象項目】

- ・新規登録日時
- ・修正登録日時
- ・1次承認日時
- ・最終承認日時

【関連メニュー】

- ・[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[残高データ作成]-[債権残高データ作成]メニュー
- ・[[随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[債権伝票データ作成]メニュー
- ・[自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行債権伝票データ作成]メニュー

Office連携サービスの機能が強化されました。(テンプレート・パスワード)
＜「OMSS」/『奉行V ERP8』をお使いの場合＞
※詳細は、19ページをご参照ください。

【債権管理】

《FB入金受信データ受入》

一部の全角文字が含まれていても受け入れできるようになるなど、受け入れできるデータの条件が緩和されました。

《FB入金外部ファイル受入》

一部の全角文字が含まれていても受け入れできるようになるなど、受け入れできるデータの条件が緩和されました。

《入金情報登録》

ステータスが「1：入金」の入金情報でも、セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクトを入力できるようになりました。

ステータスが「1：入金」「3：非連結」「5：対象外」で、入金金額が0円の入金情報を登録できるようになりました。

《締単位入金消込》

[フローに関する変更]

前受金での消込ができるようになりました。

[条件設定画面の変更]

検索対象の絞込条件が追加されました。

※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。

[自動消込設定]ページの設定は、[締単位入金消込 - 設定]画面の[全選択設定]ページに移動しました。

[表示設定]ページで、以下の項目が変更されました。

- ・摘要反映
⇒ [設定] ([F3] キー) [締単位入金消込 - 設定]画面の[消込設定]ページに移動しました。
- ・マイナス請求書抽出
⇒項目が廃止されました。
[基本条件]ページで請求金額の指定ができるようになりました。
マイナス請求書を抽出しない場合は、請求金額の範囲を「0～」と指定してください。
- ・名称項目の拡張表示

⇒項目が廃止され、必ず拡張表示されるようになりました。
<p>ステータスが「3：非連結」の入金情報での消込について、作成する入金伝票の伝票日付の初期値を設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [締単位支払消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「入金日付設定」</p>
<p>請求先が所属する取引先グループを表示するかを設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [締単位支払消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「取引先グループ表示」</p>
<p>取引先グループを使用している場合でも、債権計上の請求先以外の入金情報では消込ができないようにすることができるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [締単位支払消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「入金情報の選択方法」</p>
<p>[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。</p>
<p>[項目選択]ページが追加され、表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるようになりました。</p>
<p>【メイン画面の変更】</p>
<p>項目名、項目の配置が変更されました。</p>
<p>自動消込の機能は、[自動消込]（[F7]キー）ではなく、[全選択]（[F5]キー）で実行できるようになりました。</p>
<p>いままでは、[全選択]と[全解除]は[F5]キーと[F6]キーとに分かれていましたが、[F5]キー1つになり、押すたびに[全選択]と[全解除]が切り替わるようになりました。</p>
<p>[設定]（[F3]キー）が追加され、摘要の反映方法や、一部入金や過入金を認めるかどうかなど、消込条件を消込画面で切り替えられるようになりました。</p>
<p>一部入金の債権にチェックを付けた場合に、いままでは消込金額の初期値として、未入金金額が表示されていましたが、入金合計を表示できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [締単位入金消込 - 設定]画面の[消込設定]ページの「消込金額初期設定」</p>
<p>【印刷・転送の変更】</p>
<p>出力設定ができる項目が追加されました。 また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。</p>
<p>帳票タイトルの初期値が変更されました。 「請求書未入金リスト」→「未消込請求書リスト」</p>
<p>転送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。 ・合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。 ・以下の項目の名称が変更されました。 ・請求先 → 請求先名1／請求先名2／請求先略称のいずれか（[項目選択]ページで設定された名称が表示されます。）
<p>《一括入金消込》</p>
<p>【フローに関する変更】</p>

前受金での消込ができるようになりました。
[条件設定画面の変更]
指定できる集計単位が追加されました。 また、集計単位の組み合わせを指定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。
検索対象の絞込条件が追加されました。 ※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。 また、[詳細条件]ページが追加されました。
[自動消込設定]ページの設定は、[一括入金消込 - 設定]画面の[全選択設定]ページに移動しました。
[表示設定]ページで、以下の項目が変更されました。 ・ 摘要反映 ⇒ [設定]（[F3]キー）[一括入金消込 - 設定]画面の[消込設定]ページに移動しました。 ・ マイナス債権抽出 ⇒ 項目が廃止されました。 [基本条件]ページで債権金額の指定ができるようになりました。 マイナス債権を抽出しない場合は、債権金額の範囲を「0～」と指定してください。 ・ 消込不可データ表示 ⇒ 「消込ができないデータの表示」に名称が変更されました。 ・ マイナス債権のみでの消込 ⇒ 廃止され、必ずマイナス債権だけでの消込ができるようになりました。 ・ 自動選択時入金情報指定 ⇒ [設定]（[F3]キー）[一括入金消込 - 設定]画面の[全選択設定]ページに移動しました。 また、「複数入金情報がある債権の選択」に名称が変更されました。 ・ 一括消込表示 ⇒ [基本条件]ページの集計単位に移動しました。 ・ 集計単位（請求先別／取引先グループ別） ⇒ [基本条件]ページの集計単位に移動しました。（請求先別／優先取引先別） ・ 名称項目の拡張表示 ⇒ 項目が廃止され、必ず拡張表示されるようになりました。
ステータスが「3：非連結」の入金情報での消込について、作成する入金伝票の伝票日付の初期値を設定できるようになりました。 【設定箇所】 [一括入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「入金日付設定」
請求先が所属する取引先グループを表示するかを設定できるようになりました。 【設定箇所】 [一括入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「取引先グループ表示」
取引先グループを使用している場合でも、債権計上の請求先以外に入金情報では消込ができないようにすることができるようになりました。 【設定箇所】 [一括入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「入金情報の選択方法」
[表示設定2]ページの設定は、[表示設定]ページに移動しました。

[出力順] ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。
[項目選択] ページが追加され、表示する請求先名を「請求先名 1」「請求先名 2」「請求先名 1・2」「請求先略称」から選択できるようになりました。
[メイン画面の変更]
項目名、項目の配置が変更されました。
未入金金額・入金合計の計算方法が、個別入金消込と統一されました。 変更前 <ul style="list-style-type: none"> ・未入金金額 = プラス債権 - 入金済金額 ・入金金額合計 = 入金金額 + 手数料等 + 消費税差金 + マイナス債権 変更後 <ul style="list-style-type: none"> ・未入金金額 = プラス債権 - 入金済金額 - マイナス債権 ・入金金額合計 = 入金金額 + 手数料等 + 消費税差金 ※マイナス債権金額が、入金金額合計ではなく、未入金金額の対象になりました。
自動消込の機能は、[自動消込]（[F7] キー）ではなく、[全選択]（[F5] キー）で実行できるようになりました。
いままでは、[全選択] と [全解除] は [F5] キーと [F6] キーとに分かれていましたが、[F5] キー 1 つになり、押すたびに [全選択] と [全解除] が切り替わるようになりました。
[設定]（[F3] キー）が追加され、摘要の反映方法や、一部入金や過入金を認めるかどうかなど、消込条件を消込画面で切り替えられるようになりました。
一部入金の債権にチェックを付けた場合に、いままでは消込金額の初期値として、未入金金額が表示されていましたが、入金合計を表示できるようになりました。 【設定箇所】 [一括入金消込 - 設定]画面の[消込設定]ページの「消込金額初期設定」
[印刷・転送の変更]
出力設定ができる項目が追加されました。 また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、[詳細設定] ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定] ページに移動しました。
帳票タイトルの初期値が変更されました。 「未入金集計リスト」→「未消込債権集計リスト」
転送 <ul style="list-style-type: none"> ・金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。 ・合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に 1 列移動しました。 ・以下の項目の名称が変更されました。 <ul style="list-style-type: none"> ・請求先 → 請求先名 1/請求先名 2/請求先略称のいずれか（[項目選択] ページで設定された名称が表示されます。）
《個別入金消込》
[フローに関する変更]
消込の修正・取消機能が追加されました。
前受金での消込ができるようになりました。
[条件設定画面の変更]
検索対象の絞込条件が追加されました。 ※この機能追加に伴い、[基本条件] ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式にな

<p>りました。</p> <p>また、[詳細条件] ページ、[摘要] ページ、[登録情報] ページ、[利用情報] ページ、[付箋] ページ、[消費税] ページが追加されました。</p>
<p>[表示設定] ページで、以下の項目が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 摘要反映 ⇒ [設定] ([F 3] キー) [個別入金消込 - 設定] 画面の [消込設定] ページに移動しました。 ・ マイナス債権抽出 ⇒ 項目が廃止されました。 [基本条件] ページで債権金額の指定ができるようになりました。 マイナス債権を抽出しない場合は、債権金額の範囲を「0～」と指定してください。 ・ グループ間消込 ⇒ 「入金情報の選択方法」に名称が変更されました。 グループ間消込を使用しない場合は「請求先単位」に、グループ間消込を使用する場合は「取引先グループ単位」に設定します。 ・ 名称項目の拡張表示 ⇒ 項目が廃止され、必ず拡張表示されるようになりました。 ・ 過入金消込時のメッセージ表示 ⇒ 項目が廃止され、必ずメッセージが表示されるようになりました。
<p>ステータスが「3：非連結」の入金情報での消込について、作成する入金伝票の伝票日付の初期値を設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [個別入金消込 - 条件設定] 画面の [表示設定] ページの「入金日付設定」</p>
<p>[表示設定 2] ページの設定は、[表示設定] ページに移動しました。</p>
<p>[出力順] ページで、債権伝票の表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能が追加されました。</p> <p>また、入金情報の並び順を設定できるようになりました。</p>
<p>[項目選択] ページが追加され、以下の設定ができるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入金情報について、表示する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。 ・ 債権伝票について、任意項目や商品などを消込画面に表示できるようになりました。 ・ 表示する請求先名を「請求先名 1」「請求先名 2」「請求先名 1・2」「請求先略称」から選択できるようになりました。 <p>※この機能追加に伴い、セグメント 1・セグメント 2・プロジェクト・サブプロジェクトの出力は、[項目選択] ページで設定できるようになりました。</p>
<p>【メイン画面の変更】</p>
<p>項目名、項目の配置が変更されました。</p>
<p>自動選択の機能は、[自動選択] ([F 3] キー) ではなく、[全選択] ([F 5] キー) で実行できるようになりました。</p>
<p>[設定] ([F 3] キー) が追加され、摘要の反映方法など、消込条件を消込画面で切り替えられるようになりました。</p>
<p>消込実行後に [仕訳処理] 画面を表示して、作成する仕訳伝票の確認・修正ができるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [個別入金消込 - 設定] 画面の [消込設定] ページの「入金消込後の伝票確認」</p>
<p>【印刷・転送の変更】</p>

帳票タイトルの初期値が変更されました。

「未入金リスト」→「未消込債権明細リスト」

印刷レイアウトが[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニューの債権伝票リストと同等のレイアウトになりました。

出力設定ができる項目が追加されました。

また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。

※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。

未消込入金情報リストが印刷できるようになりました。

※[個別入金消込 - 条件設定]画面の[基本条件]ページにある「抽出基準」によって、印刷する帳票が切り替わります。

いままでの未入金リスト（新：未消込債権明細リスト）を印刷する場合は、抽出基準を「債権伝票」に設定します。

新しく追加された未消込入金情報リストを印刷する場合は、抽出基準を「入金情報」に設定します。

転送

- ・ 金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。
- ・ 合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。
- ・ 以下の項目の名称が変更されました。
 - ・ 請求先 → 請求先名1／請求先名2／請求先略称のいずれか（[項目選択]ページで設定された名称が表示されます。）
 - ・ 伝票No. → 伝票No.
 - ・ 勘定科目コード → 債権科目コード
 - ・ 勘定科目名 → 債権科目名
 - ・ 補助科目コード → 債権補助科目コード
 - ・ 補助科目名 → 債権補助科目名

《入金消込修正》

[フローに関する変更]

前受金消込の修正・取消ができるようになりました。

ステータスが「2：仮受金」「3：非連結」「4：前受金」で、未承認の入金情報の取消機能が廃止されました。

※ステータスが「2：仮受金」「3：非連結」「4：前受金」で、未承認の入金情報の取消は、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで行います。

※この変更は、仮受金/非連結入金/前受金（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定）が「1：承認する」の場合に影響がある変更です。

[条件設定画面の変更]

検索対象の絞込条件が追加されました。

※この機能追加に伴い、以下のとおり変更されました。

- ・ [基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。
- ・ [セグメント]ページ、[プロジェクト]ページは、[詳細条件]ページに統合されました。
- ・ [基本条件2]ページ、[摘要]ページ、[利用情報]ページが追加されました。

[基本条件]ページで、以下の項目が変更されました。

- ・ 「範囲指定」
⇒ 「入金伝票」に名称が変更されました。
- ・ 消込日付

⇒「入金日付」に名称が変更されました。
[出力順] ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。
[項目選択] ページが追加され、出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。
[メイン画面の変更]
消込対象の債権伝票の情報も表示されるようになりました。 ※この機能追加に伴い、債権伝票にジャンプする際の操作は、対象の債権伝票を選択して [債権伝票] ([F 9] キー) を押すようになりました。
[入金伝票] ([F 8] キー) が追加され、作成する仕訳伝票の確認・修正ができるようになりました。
マイナス債権だけの消込の回収方法の表示が変更されました。 変更前 「マイナス債権」 変更後 「 - 」 ※[項目選択] ページで、「マイナス債権」を出力項目に設定することで、消込したマイナス債権金額を確認できるようになりました。
《入金承認》 ※新メニュー名：[入金伝票承認]メニュー
[フローに関する変更]
承認取消機能が追加されました。
入金伝票承認([導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定) が「2：2段階承認」の場合に、1次承認権限者が1次承認済の伝票の承認を取り消せるようになりました。
[条件設定画面の変更]
検索対象の絞込条件が追加されました。 ※この機能追加に伴い、以下のとおり変更されました。 ・ [基本条件] ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。 ・ [セグメント] ページ、[プロジェクト] ページは、[詳細条件] ページに統合されました。 ・ [基本条件2] ページ、[摘要] ページ、[登録情報] ページ、[利用情報] ページが追加されました。
[基本条件] ページで、以下の項目が変更されました。 ・ 「範囲指定」 ⇒「入金伝票」に名称が変更されました。 ・ 「伝票日付」 ⇒「入金日付」に名称が変更されました。 ・ 「承認状態」 (入金伝票承認([導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定) が「2：2段階承認」の場合) ⇒指定方法が変更されました。
[出力順] ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。
[項目選択] ページが追加され、出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。
[メイン画面の変更]
1件の伝票情報は、すべての項目が2行で横並びに表示されるようになりました。

<p>Windowsファンクションの名称が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [入金仕訳] ([F8] キー) → [入金伝票] ([F8] キー)
<p>表示項目の「伝票種類」が廃止されました。</p> <p>新しく追加された表示項目、「入金ステータス」と「登録区分」で確認ができるようになりました。</p>
<p>入金伝票承認([導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定)が「2:2段階承認」の場合に、画面の右上に表示される「選択承認件数」の表示が変更されました。</p> <p>変更前 チェックを付けた明細件数 + チェックを付けていない1次承認済の明細件数</p> <p>変更後 チェックを付けた明細件数</p>
<p>前受金消込の入金伝票には、「入金金額」に 前受金の入金金額が表示されていましたが、表示されなくなりました。</p>
<p>仕訳伝票のシステム自動付番(メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定)が「0:使用しない」の場合に、作成する仕訳伝票の伝票No.の付番方法を指定できるようになりました。</p>
<p>作成する入金伝票について、部門別税区分表示機能に対応しました。</p>
<p>マイナス債権だけの消込の回収方法の表示が変更されました。</p> <p>変更前 「マイナス債権消込」</p> <p>変更後 「-」</p> <p>※[項目選択]ページで、「マイナス債権」を出力項目に設定することで、消込したマイナス債権金額を確認できるようになりました。</p>
<p>[印刷・転送の変更]</p>
<p>印刷形式の名称が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「明細リスト」 → 「伝票リスト」 ・ 「伝票リスト」 → 「未承認リスト」
<p>印刷形式に「承認済リスト」が追加されました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[入金伝票承認 - 条件設定]画面の[基本条件]ページの「処理区分」を「取消」に設定します。</p>
<p>出力設定ができる項目が追加されました。</p> <p>また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。</p>
<p>明細リスト(新:伝票リスト)の印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費税納税額の計算方法(メインメニューの[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの[基本設定]ページで設定)が「1:簡易課税」の場合に、事業区分が出力できるようになりました。 ・ 整理仕訳の管理方法(メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定)が「1:日常仕訳と区別する」の場合に、整理区分が出力されるようになりました。 ・ 帳票タイトルは、半角20文字までは文字の大きさが自動調節されるようになりました。

- ・小計行の下に罫線が印字されるようになりました。
- ・内税の場合に、消費税金額の前に付く括弧の位置が変更されました。

伝票リスト（新：未承認リスト）の印刷

- ・日付の表記が変更されました。
- ・「伝票日付」→「入金日付」に名称が変更されました。
- ・「伝票種類」→項目が廃止され、「入金ステータス」「登録区分」が出力されるようになりました。
- ・「承認状況」→「承認状態」に名称が変更されました。
- ・入金日付・回収方法・請求先は、タイトルが左詰めになりました。
- ・入金日付・回収方法・請求先は、小計単位ごとに最初の行にだけ出力されていましたが、すべての行に出力されるようになりました。
- ・入金日付・回収方法・請求先は、[出力順]ページで優先されている項目順に出力されるようになりました。

単票入金伝票の印刷

- ・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクトが出力できるようになりました。
- 【設定箇所】
- [入金伝票承認 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページ
- ・消費税納税額の計算方法（メインメニューの[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの[基本設定]ページで設定）が「1：簡易課税」の場合に、事業区分が出力できるようになりました。
 - ・整理仕訳の管理方法（メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）が「1：日常仕訳と区別する」の場合に、整理区分が出力されるようになりました。
 - ・税区分・事業区分・税率の出力有無によって、勘定科目と補助科目の印字可能領域が変わるようになりました。
 - ・タイトル行の「借方 請求先」「貸方 請求先」が廃止されました。
 - ・帳票タイトルが半角23文字以上でも出力できるようになりました。（文字の大きさが自動調節されます。）
 - ・会社名が、半角39文字以上でも出力できるようになりました。（文字の大きさが自動調節されます。）
 - ・会社名を印字する／しないに関わらず、会社名の下に罫線が出力されなくなりました。
 - ・内税の場合に、消費税金額の前に付く括弧の位置が変更されました。

転送

- ・出力する項目は、[入金伝票承認 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで設定できるようになりました。
- ・金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。
- ・合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。
- ・合計行の前の空白行が出力されなくなりました。
- ・小計行、合計行の出力有無を、[入金伝票承認 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで設定できるようになりました。

《仮受金処理》

※新メニュー名：[仮受金振替]メニュー

[フローに関する変更]

ステータスが「2：仮受金」の入金情報の取消機能が廃止されました。

※ステータスが「2：仮受金」の入金情報の取消は、以下のメニューで行います。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮受金/非連結入金/前受金が「0：承認しない」の場合⇒[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで行います。 ・ 仮受金/非連結入金/前受金が「1：承認する」の場合⇒ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニューで承認を取り消してから、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで行います。
仮受金振替の取消機能が追加されました。
[条件設定画面の変更]
<p>検索対象の絞込条件が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、以下のとおり変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。 ・ [詳細条件]ページの設定方法が変更されました。 ・ [登録情報]ページ、[摘要]ページが追加されました。
<p>[基本条件]ページで、以下の項目が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「作成区分」 ⇒[登録情報]ページに移動しました。
[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。
[項目選択]ページが追加され、出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。
[メイン画面の変更]
<p>以下のとおり、項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「処理内容」→「振替区分」 ・ 「処理日付」→「振替日付」 ・ 「処理金額」→「振替金額」 ・ 「貸方勘定科目名」→「振替科目」 ・ 「貸方補助科目名」→「振替補助科目」
「他科目振替」→「他科目」に名称が変更されました。
<p>振替区分（返金／次月充当／他科目振替）の指定方法が変更されました。</p> <p>変更前 振替区分ごとの入力欄（3行）が表示され、使用する振替区分の入力欄に振替内容を入力していました。</p> <p>変更後 振替区分初期表示（[仮受金振替 - 条件設定]画面の[表示設定]ページで設定）で設定した振替区分の入力欄（1行）だけが表示されます。 他の振替区分を使用する場合は、振替区分を変更して振替内容を入力します。 複数の振替区分を使用する場合は、1つ目の振替区分の振替金額を入力すると、自動的に行が追加され、次の振替区分の入力欄が表示されます。</p>
振替対象が明確になるように、振替対象には選択欄にチェックを付けてから振替内容を入力するようになりました。
複数の振替区分を使用する場合は、次に入力する振替区分の振替金額に、入力済みの振替内容と仮受金金額の差額が初期表示されるようになりました。
<p>[仮受金仕訳]（[F8]キー）を押して[仕訳処理]画面を開かなくても、メイン画面に以下の項目を表示して入力できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振替部門 ・ 振替セグメント1／振替セグメント2 ・ 振替プロジェクト／振替サブプロジェクト

<p>・振替摘要</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[仮受金振替 - 条件設定]画面の[項目選択]ページ</p>
<p>他科目振替の場合に、複数明細の他科目振替をする際の操作方法が変更されました。</p> <p>変更前</p> <p> [仮受金仕訳]（[F8]キー）を押して[仕訳処理]画面を開き、[仕訳処理]画面で明細を追加していました。</p> <p>変更後</p> <p> メイン画面で1つ目の振替明細の振替金額を入力すると、自動的に行が追加され、次の振替明細を入力できるようになりました。</p>
<p>次月充当の場合に、[仮受金仕訳]（[F8]キー）を押して[仕訳処理]画面を開かなくても、メイン画面上で振替科目を変更できるようになりました。</p>
<p>以下のWindowsファンクションが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [差額]（[F6]キー） ・ [入金伝票]（[F7]キー） ・ [一括変更]（[F9]キー）
<p>Windowsファンクションの名称が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [仮受金仕訳]（[F8]キー）→ [振替伝票]（[F8]キー）
<p>画面の右上に、以下の項目が表示されるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「対象件数」：検索結果の仮受金の件数 ・ 「選択件数」：振替対象として、選択欄にチェックを付けた仮受金の件数
<p>仕訳伝票のシステム自動付番（メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）が「0：使用しない」の場合に、作成する仕訳伝票の伝票No.の付番方法を指定できるようになりました。</p>
<p>[印刷・転送の変更]</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[仮受金振替 - 条件設定]画面の[項目選択]ページ</p>
<p>出力する項目が多い場合に、1明細を2段で印刷できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[仮受金振替 - 印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ</p>
<p>出力設定ができる項目が追加されました。</p> <p>また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。</p>
<p>処理内容コードは、出力されなくなりました。</p>
<p>以下の印刷オプションが指定できるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 網掛け印刷する ・ 間隔を補正する
<p>複数明細の他科目振替をした場合に、すべての明細の振替内容が出力されるようになりました。</p>
<p>転送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。 ・ 合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計行の前の空白行が出力されなくなりました。 ・ 小計行、合計行の出力有無を、[仮受金振替 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで設定できるようになりました。
<p>《前受金消込》</p>
<p>通常の入金と同様に、以下のメニューから消込ができるようになったため、メニューが廃止されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [債権管理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー <p>※前受金消込リストの印刷・転送は、[個別入金消込]メニューで抽出基準（[個別入金消込 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで設定）を「入金情報」、入金種類（[個別入金消込 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで設定）を「前受金」に設定して行います。</p>
<p>《前受金消込修正》</p>
<p>通常の入金と同様に、[債権管理]-[入金処理]-[入金消込修正]メニューで修正できるようになったため、メニューが廃止されました。</p>
<p>《債権伝票履歴》</p>
<p>以下のとおり、項目名が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「債権勘定科目コード」→「債権科目コード」 ・ 「債権勘定科目名」→「債権科目名」 ・ 「売上勘定科目コード」→「売上科目コード」 ・ 「売上勘定科目名」→「売上科目名」
<p>Ver. 2.04以前のバージョンと同様のレイアウトで印刷できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[債権伝票履歴 - 印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページの「形式選択」を「債権伝票履歴リスト」に設定します。</p> <p>※債権伝票表示単位（[債権伝票履歴 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで設定）が「伝票単位」の場合にだけ設定できます。</p>
<p>入金伝票について、以下の項目を出力できるようになりました。</p> <p>手数料等・新規登録日時・新規登録者名・修正登録日時・修正登録者名・1次承認日時・1次承認者名・最終承認日時・最終承認者名</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[項目選択]ページ</p>
<p>《入金情報履歴》</p>
<p>入金情報の履歴は、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで参照できるようになったため、メニューが廃止されました。</p> <p>ステータスが「3：非連結」「4：前受金」の入金情報の取消は、以下のメニューで行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮受金/非連結入金/前受金が「0：承認しない」の場合⇒[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで行います。 ・ 仮受金/非連結入金/前受金が「1：承認する」の場合⇒ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニューで承認を取り消してから、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで行います。
<p>《入金消込履歴》</p> <p>※新メニュー名：[入金伝票履歴]メニュー</p>
<p>[フローに関する変更]</p>

入金消込の承認取消機能が廃止されました。
 また、承認だけを取り消す機能と、同時に消込まで取り消す機能は、別のメニューで実行するようになり、取消範囲が明確になりました。
 承認だけの取消⇒ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
 承認+消込の取消⇒ [随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[入金伝票データ一括削除]メニュー
 ※[入金伝票データ一括削除]メニューは今回のバージョンで追加されたメニューです。
 使用するには、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

[条件設定画面の変更]

以下の絞込条件項目が廃止されました。

- ・ 債権伝票日付
- ・ 債権伝票No.
- ・ 債権科目の部門
- ・ 債権科目のセグメント1/セグメント2
- ・ 債権科目のプロジェクト/サブプロジェクト

※[債権伝票履歴]メニューで、上記の絞込条件を指定できます。

検索対象の絞込条件が追加されました。
 ※この機能追加に伴い、以下のとおり変更されました。

- ・ [基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。
- ・ [詳細条件]ページの設定方法が変更されました。
- ・ [登録情報]ページ、[摘要]ページが追加されました。

[利用情報]ページの「処理内容」の検索対象が変更されました。

変更前
 「最終承認」を付与することで作成された仕訳伝票の処理内容

変更後
 入金消込の処理内容

※これにより、消込者、承認者(一次承認・最終承認)などを指定して絞り込めるようになりました。
 ただし、作成された仕訳伝票の修正に関する条件は指定できなくなりました。

[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。
 ※この機能追加に伴い、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。

[項目選択]ページが追加され、出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。

[メイン画面の変更]

消込対象の債権伝票も表示されるようになりました。

集計対象に以下のデータが追加されました。

- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[債権振替相殺処理]メニューで振替済みのマイナス債権

表示項目の「伝票種類」と「消込区分」が統合され、名称が「登録区分」に変更されました。

変更前

- ・ 伝票種類 (非連結消込/前受金)
- ・ 消込区分 (通/締)

変更後

- ・ 登録区分 (個別・一括消込/締単位消込/前受金消込/相殺消込/債権振替相殺処理)

マイナス債権だけの消込の回収方法の表示が変更されました。

変更前

「マイナス債権消込」

変更後

「-」

※[項目選択]ページで、「マイナス債権」を出力項目に設定することで、消込したマイナス債権金額を確認できるようになりました。

[印刷・転送の変更]

消込対象の債権伝票も出力されるようになりました。

※いままでのレイアウトで印刷・転送する場合は、[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニューで処理区分を「取消」に設定して行います。

「債権出力設定」が廃止されました。

※必ず債権情報が出力されるようになりました。

転送で、金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。

《仮受金処理履歴》

仮受金処理履歴の参照・取消は、[債権管理]-[入金処理]-[仮受金振替]メニューで行えるようになったため、メニューが廃止されました。

変更内容詳細

- メニューの名称および構成が変更されました。

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

以下のとおり、各メニューに機能が追加されました。

[債権管理]-[入金処理] -[締単位入金消込]メニュー	前受金消込ができるようになりました。
[債権管理]-[入金処理] -[一括入金消込]メニュー	前受金消込ができるようになりました。
[債権管理]-[入金処理] -[個別入金消込]メニュー	前受金消込ができるようになりました。 また、消込の修正と取消ができるようになりました。
[債権管理]-[入金処理] -[入金消込修正]メニュー	前受金消込の修正と取消ができるようになりました。
[債権管理]-[入金処理] -[入金承認]メニュー	承認の取消ができるようになりました。
[債権管理]-[入金処理] -[仮受金処理]メニュー	仮受金処理の取消ができるようになりました。
[債権管理]-[履歴管理] -[入金消込履歴]メニュー	消込対象の債権伝票が参照できるようになりました。

このため、以下のとおりメニューの名称および構成が変更されました。

変更前	変更後
[債権管理]-[前受金処理] -[前受金消込]メニュー	メニューが廃止されました。 前受金での消込も、通常入金と同様に、以下のいずれかのメニューで行えるようになりました。 ・ [債権管理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー また、前受金消込リストの印刷は、[債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニューで行えるようになりました。
[債権管理]-[前受金処理] -[前受金消込修正]メニュー	メニューが廃止されました。 前受金での消込も、通常入金と同様に、[債権管理]-[入金処理]-[入金消込修正]メニューで行えるようになりました。
[債権管理]-[入金処理] -[入金承認]メニュー	[債権管理]-[入金処理] -[入金伝票承認]メニューに名称が変更されまし

	た。
[債権管理]-[入金処理] -[仮受金処理]メニュー	[債権管理]-[入金処理] -[仮受金振替]メニューに名称が変更されました。 また、ステータス「2：仮受金」の入金情報の取消機能は廃止され、以下のメニューで行えるようになりました。 ○仮受金/非連結入金/前受金が「0：承認しない」の場合 ⇒[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー ○仮受金/非連結入金/前受金が「1：承認する」の場合 ⇒[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニューで承認を取り消してから、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューでステータスを取り消します。
[債権管理]-[入金処理] -[自動入金消込設定]メニュー	[債権管理]-[入金処理] -[入金消込設定]メニューに名称が変更されました。
[債権管理]-[履歴管理] -[入金情報履歴]メニュー	メニューが廃止されました。 入金情報の履歴は、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで参照できます。 また、ステータス「3：非連結」「4：前受金」の入金情報の取消は、以下のメニューで行えるようになりました。 ○仮受金/非連結入金/前受金が「0：承認しない」の場合 ⇒[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー ○仮受金/非連結入金/前受金が「1：承認する」の場合 ⇒[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニューで承認を取り消してから、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューでステータスを取り消します。
[債権管理]-[履歴管理] -[入金消込履歴]メニュー	[債権管理]-[履歴管理] -[入金伝票履歴]メニューに名称が変更されました。 消込の取消機能は廃止されました。 取消は、以下のメニューで行えるようになりました。 ○承認だけを取り消す場合 [債権管理]-[入金処理] -[入金伝票承認]メニュー ○承認と消込を同時に取り消す場合 [随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]

	<p>-[入金伝票データ一括削除]メニュー</p> <p>※[随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[入金伝票データ一括削除]メニューは、今回のバージョンで追加されたメニューです。</p> <p>使用するには、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。</p> <p>また、入金消込履歴リストの印刷は、[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニューで行えるようになりました。</p>
[債権管理]-[履歴管理]-[仮受金処理履歴]メニュー	<p>メニューが廃止されました。</p> <p>仮受金処理履歴の参照と取消は、[債権管理]-[入金処理]-[仮受金振替]メニューで行えるようになりました。</p>

● 帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。

以下の帳票について、初期値として表示するプリンタをメインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるようになりました。

これにより、[プリンタ設定]ページで初期値として表示される内容が、以下のとおり変更になります。

変更前	変更後
<p>全項目とも、前回の印刷時に設定した内容</p> <p>※初回起動時は、「通常使うプリンタ」の内容が表示されます。</p>	<p>[帳票別プリンタ登録]メニューでプリンタが登録されているかによって、異なります。</p> <p>○登録済みの場合</p> <p>全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容</p> <p>※帳票別プリンタ登録が利用者ごとの設定であれば、印刷時の「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」「倍率」の変更は、帳票別プリンタ登録に反映します。</p> <p>○未登録の場合</p> <p>「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容</p> <p>「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容</p>

注意

この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した内容が初期値として表示されなくなります。

帳票を印刷する前に、[帳票別プリンタ登録]メニューで初期値として表示するプリンタを登録してください。

※[帳票別プリンタ登録]メニューの登録をしない場合は、常に「通常使うプリンタ」が初期値として表示されます。

◀ 対象帳票 ▶

- ・請求書未入金リスト（新：未消込請求書リスト（[債権管理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー））
- ・未入金集計リスト（新：未消込債権集計リスト（[債権管理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー））
- ・未入金リスト（新：未消込債権明細リスト（[債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー））
- ・前受金消込リスト（新：未消込入金情報リスト（[債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー））
- ・入金伝票リスト（[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー）
- ・入金未承認リスト（[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー）
- ・入金伝票（[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー）
- ・入金消込履歴リスト（新：入金承認済リスト（[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー））
- ・仮受金リスト（新：仮受金振替リスト（[債権管理]-[入金処理]-[仮受金振替]メニュー））
- ・仮受金処理履歴リスト（新：仮受金振替リスト（[債権管理]-[入金処理]-[仮受金振替]メニュー））

- Office連携サービスの機能が強化されました。（テンプレート・パスワード）
◀「OMSS」/『奉行V ERP8』をお使いの場合▶

参考

○「OMSS」や「業務支援サービス」の詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.obc.co.jp/click/omss/>

○「業務支援サービス」は、「OMSS」の契約期間中に利用できるサービスです。

「OMSS」の契約期間が終了した時点で、「業務支援サービス」も利用できなくなりますので、ご注意ください。

○Excelピボットグラフのテンプレート機能

ピボットグラフを作成した後、分析しやすいようにExcel上でデザインを変更した場合に、次回以降も同じデザインで作成できます。

当システムでは、同じメニューの同条件で作成したピボットグラフのファイルをテンプレートとして指定すると、毎回独自のデザインでピボットグラフが作成できます。

◀ 関連メニュー ▶

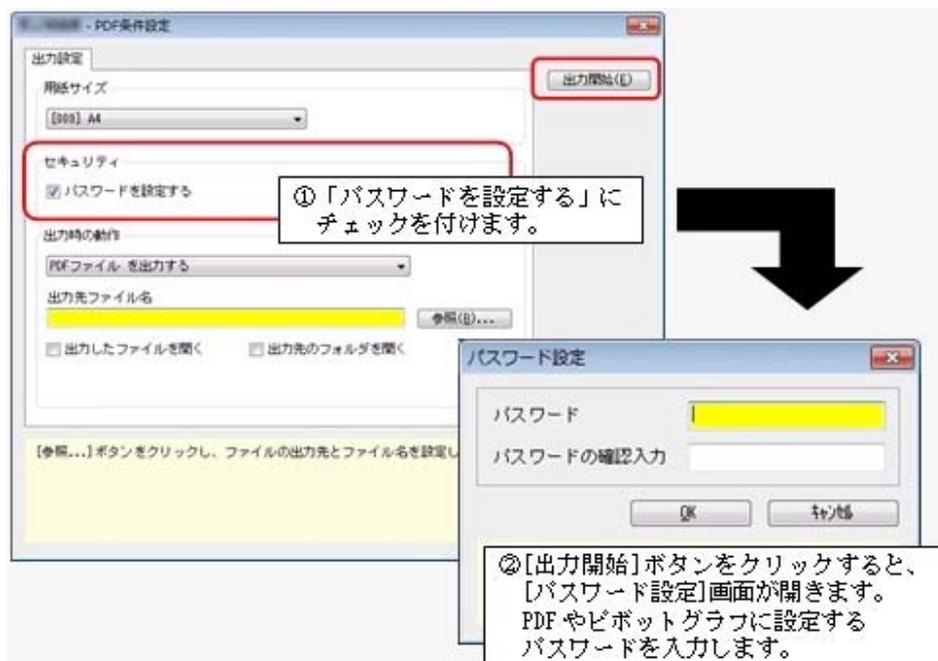
- ・[債権管理]-[管理帳票]-[滞留債権年齢表]メニュー

○Outlookメールのテンプレート機能

当システムでは、作成したPDFやピボットグラフをMicrosoft Outlookのメールに添付して送信する際に、宛先や件名、メール本文が毎回同じ場合は、Microsoft Outlookで保存したテンプレートを利用できます。

○パスワード機能

当システムでは、作成したPDFやピボットグラフにパスワードを設定できます。



財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.09 >

《FB入金処理》	
受入元のFBデータと同じ並び順で、FB入金データを表示できるようになりました。	2
受入元のFBデータと同じ並び順で、FB入金データを受け入れできるようになりました。	2
FB入金データを受け入れる際に、マッチングできないデータについても仮の請求先を割り当てて、すべての入金情報を作成できるようになりました。	2
FB入金処理で作成した入金情報の請求先について、[入金情報登録]メニューで別の請求先に変更した際に、変更後の請求先のマッチング情報を更新できるようになりました。	3

《FB入金処理》

- 受入元のFBデータと同じ並び順で、FB入金データを表示できるようになりました。

[出力順]ページが追加され、FB入金データの並び順を詳細に設定できるようになりました。

表示基準の「登録順」を一番上に設定することで、受入元のFBデータと同じ並び順で表示することができます。

《 関連メニュー 》

- ・ [債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金情報作成]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金データ確認表]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金データ削除]メニュー

- 受入元のFBデータと同じ並び順で、FB入金データを受け入れできるようになりました。

※この機能は、[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金処理設定]メニューの[基本設定]ページの「入金情報作成方法」が「1：確認せずに作成する」の場合に有効な機能です。

いままでは、必ず、日付別会社銀行別に、請求先順(口座番号順・振込依頼人名順)に並べ替えて受け入れられていましたが、FBデータと同じ並び順のまま受け入れができるようになりました。

【設定方法】：[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金処理設定]メニューの[基本設定]ページで、「FB入金データ受入順」を「1：FB入金データ順」に設定します。

- FB入金データを受け入れる際に、マッチングできないデータについても仮の請求先を割り当てて、すべての入金情報を作成できるようになりました。

※この機能は、[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金処理設定]メニューの[基本設定]ページの「入金情報作成方法」が「1：確認せずに作成する」の場合に有効な機能です。

いままでは、マッチングできないデータについては、[マッチング失敗データ一覧]画面または[入金情報登録 - 入金情報未作成FBデータ一覧]画面で、1つずつ請求先を手動で割り当てて入金情報を作成する必要がありました。

これからは、仮の請求先を自動的に一括で割り当てて入金情報を作成できるようになりました。

これにより、マッチング失敗による入金情報の作成漏れが防げるようになりました。

【設定方法】：[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金処理設定]メニューの[基本設定]ページで、「請求先スポット割り当て」を「1：使用する」に設定します。

- F B入金処理で作成した入金情報の請求先について、[入金情報登録]メニューで別の請求先に変更した際に、変更後の請求先のマッチング情報を更新できるようになりました。

[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで、F B入金処理で作成した入金情報の請求先を別の請求先に変更した際に、変更後の請求先の請求先振込情報（[導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニューの[請求先振込]ページ）に、F B入金データの口座番号・振込依頼人名(カナ)を自動で追加できるようになりました。

これにより、前述の「請求先スポット割り当て」を使用している場合に、次回以降の受入時には変更後の請求先にマッチングできるようになります。

【設定方法】：[入金情報登録 - 設定]画面の[運用設定]ページで、「請求先振込の自動更新」を「使用する」に設定します。

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.07 >

《法改正情報》	
平成26年4月施行消費税8%改正に対応しました。	2
《入金情報登録》	
[入金情報登録]メニューで、「手数料等」が入力できるようになりました。	2
入金情報の未処理金額が参照できるようになりました。	3
《商蔵奉行連動》	
メニューの構成が変更されました。	3

《法改正情報》

- 平成26年4月施行消費税8%改正に対応しました。

平成26年4月施行消費税8%改正に伴い、下記の項目に対応しました。

債権伝票・入金伝票・汎用データ受入

- 新税率の施行日（平成26年4月1日）を基準とし、伝票日付から消費税率8%と5%を自動判定します。
- 消費税率引き上げ後でも、旧税率5%が適用される「経過措置」にも対応しています。

納品書

- 税率を印字することで、経過措置にもとづく返品処理や、取引先への適用税率の通知に対応しています。

請求書

＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞

- 税率を印字することで、経過措置にもとづく返品処理や、取引先への適用税率の通知に対応しています。
- 施行日前後の取引が混在する請求書に、税率ごとの課税対象額と消費税額を印字できます。

《入金情報》

- [入金情報登録]メニューで、「手数料等」が入力できるようになりました。

[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページにあった「入金情報登録手数料入力」の設定が廃止されました。

変更前	変更後
項目「入金情報登録手数料入力」 設定値「0：入力しない」「1：入力する」	項目を廃止 必ず、「1：入力する」の設定で動作するようになります。 ※したがって、以前のバージョンで「0：入力しない」に設定していた場合にだけ、今回の変更の影響があります。

これにより、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューでは、必ず「手数料等」欄が表示され、前受金・仮受金・非連結の入金伝票にも振込手数料を計上できるようになりました。

さらに、[入金情報登録 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで設定する出力項目に「入金合計額」が追加され、「入金金額」+「手数料等」の金額を参照することもできるようになりました。

この変更に伴い、[債権管理]-[履歴管理]-[入金情報履歴]メニューでは、「入金金額」ではなく、「入金合計」が表示されるようになりました。

「入金合計」には、入金消込時に入力した「手数料等」の金額が含まれます。

● **入金情報の未処理金額が参照できるようになりました。**

[入金情報登録 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで設定する出力項目に「未処理金額」が追加され、未消込の入金金額を参照できるようになりました。

検索条件にも「未処理金額」が追加され、「未処理金額」で入金情報を抽出することもできます。

◀ **関連メニュー** ▶

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[入金情報データ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行入金情報データ作成]メニュー

◀ **商蔵奉行連動** ▶

● **メニューの構成が変更されました。**

◀ 『債権管理Proオプション』をお使いの場合 ▶

『資金管理オプション』の[商蔵奉行連動]メニューと区別するために、中間メニューの表示が追加されました。

変更前	変更後
[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[連動初期設定]メニュー	[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[連動初期設定]メニュー
[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[売上伝票データ受入]メニュー	[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[売上伝票データ受入]メニュー
[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[入金伝票データ作成]メニュー	[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[入金伝票データ作成]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.06 >

【全般】	
「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス」の「業務支援サービス」に対応しました。	2
電子記録債権の管理ができるようになりました。	8
取引先の検索条件が追加されました。	9
データ領域の環境構築をする際の操作方法が変わりました。	9

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

- 「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス」の「業務支援サービス」に対応しました。

「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス（以下、OMSS）」にご加入いただいているお客様向けに、当システムを活用して業務生産性や情報活用の向上を支援する「業務支援サービス」をご用意しました。

また、新たに「OMSS+」というサービスも用意しています。「OMSS」にご加入いただいているお客様が、製品や業務カテゴリごとに、さらに充実した便利さを追求いただくにあたり、お客様が選択できるサービスです。

「OMSS」や「業務支援サービス」の詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.obc.co.jp/click/omss/>

注意

- 「業務支援サービス」は、「OMSS」の契約期間中に利用できるサービスです。
「OMSS」の契約期間が終了した時点で、「業務支援サービス」も利用できなくなりますので、ご注意ください。
- 「OMSS+」は、「OMSS」にご加入いただいているお客様が、別途、追加料金によってご利用いただけるサービスです。

当システムでは、以下の「業務支援サービス」について利用できます。

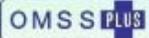
参考

操作説明（ヘルプ）では、以下のように記載しています。

- 「OMSS」の「業務支援サービス」で提供する機能

 または『OMSS』

- 「OMSS+」の「業務支援サービス」で提供する機能

 または『OMSS+』

■Office連携サービス

<「OMSS」／『奉行V ERP8』をお使いの場合>

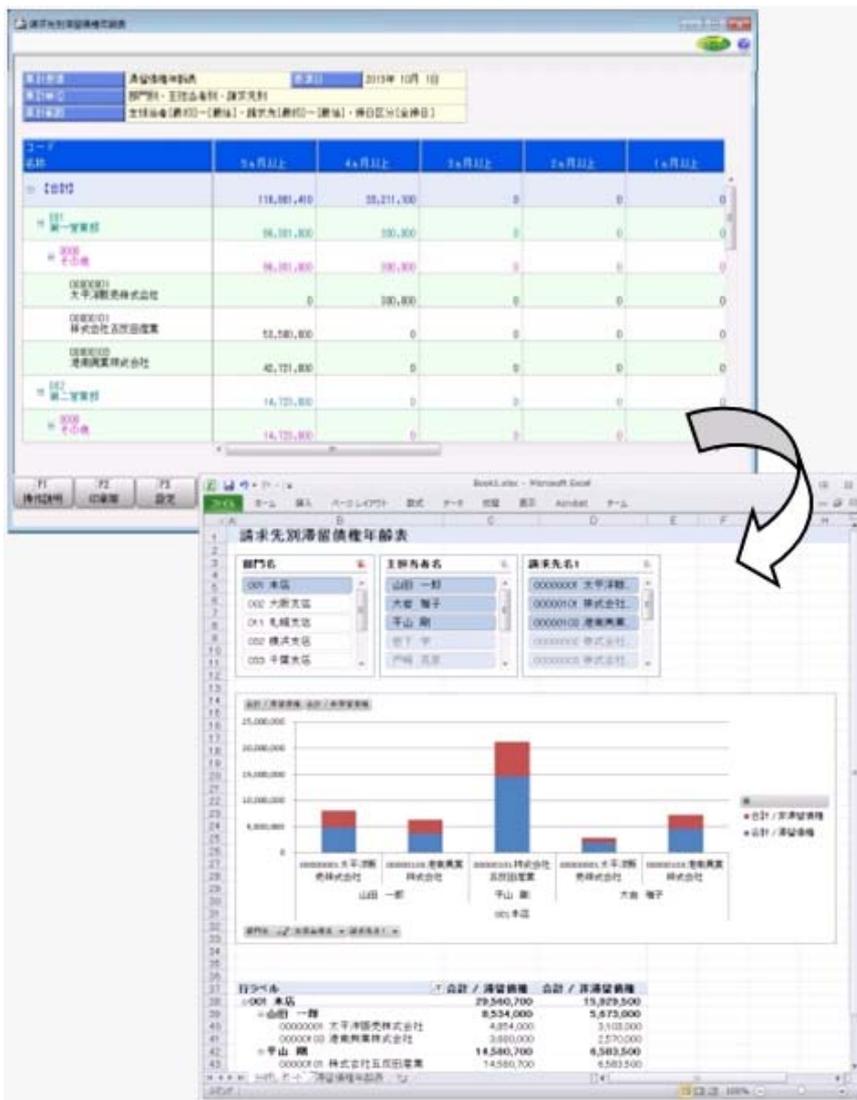
当システムから「Microsoft Office」に、シームレスに連携する機能を利用できるサービスです。当システムの基幹データを円滑に情報共有・分析でき、全社的な情報活用による業務生産性の向上を支援します。

○Excelピボットグラフ連携

当システムの基幹データをもとに、業務情報の集計表（ピボットテーブル）やグラフ（ピボットグラフ）に出力でき、ピボット分析ができます。

Excelの専門知識がなくても、簡単な操作だけで次々と切り口を切り換えたり（スライサー）、関心項目の詳細まで絞り込み（ドリルダウン）して視覚的に分析することで、情報の傾向や問題点を見つけ出すことができます。

※Microsoft Excel 2010以上が必要です。



『OMSS』にご加入の場合に、
 [ピボット表...] ボタンをクリックして、
 業務情報の集計表やグラフに出力でき、
 ピボット分析ができます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[管理帳票]-[滞留債権年齢表]メニュー

○Excelへの罫線出力機能

各帳票をExcelに出力する際に、自動で罫線や項目を色付けして、見やすい資料を作成できます。



○PDF出力機能

各帳票の印刷物を、PDFファイルとして出力できます。

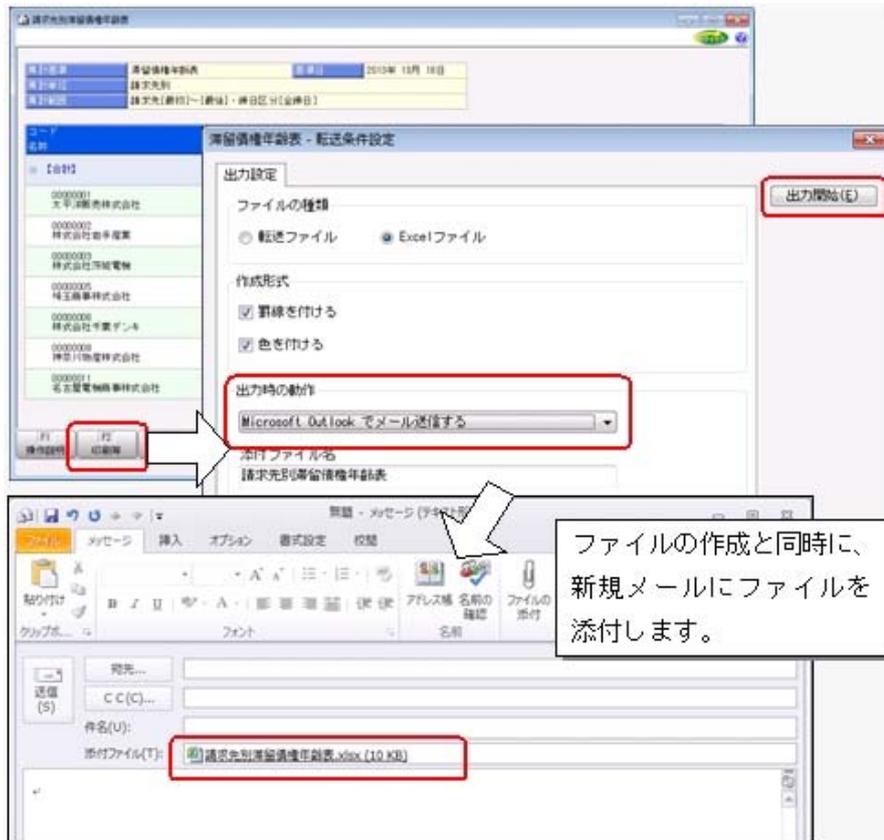


○Outlook 連携

自動的にOutlookを起動して、Excel出力した集計表やPDF化した管理資料のファイルを添付して、送信できます。

「ファイルを作成・保存してから、メールに添付して送信する」といった、一連の手間を省くことができます。

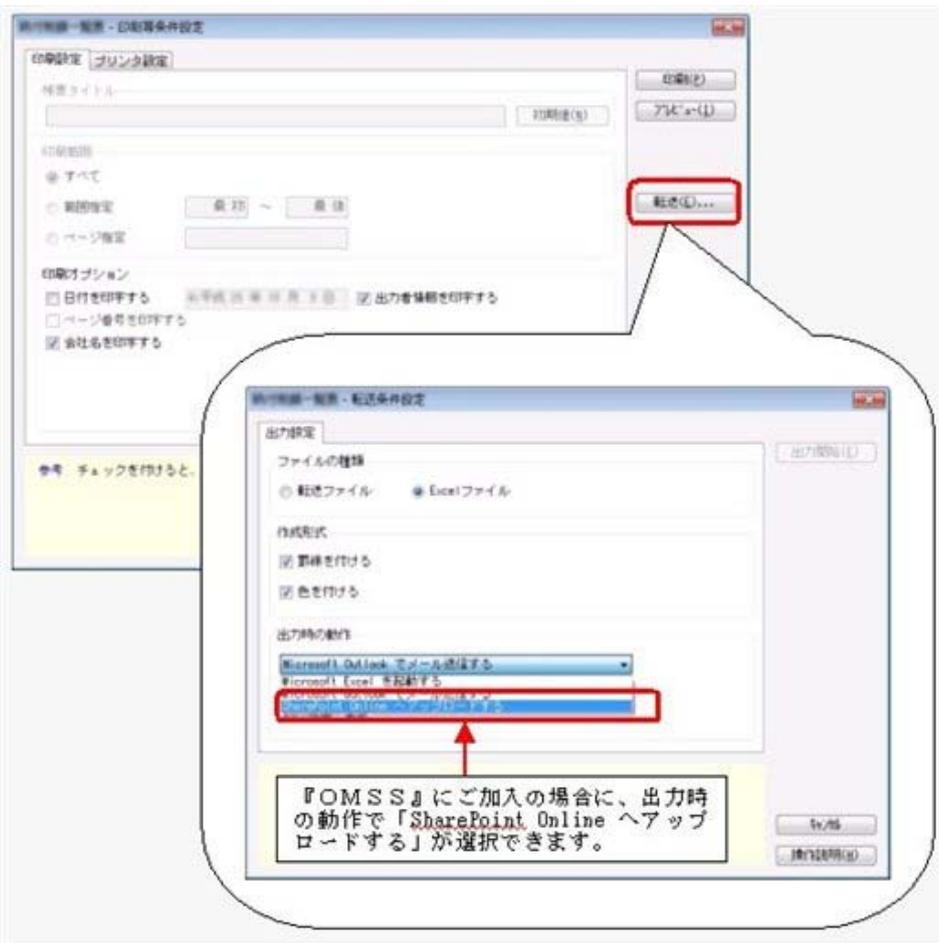
※Microsoft Outlook 2007以上が必要です。



○SharePoint Online 連携

直接「SharePoint Online」のライブラリを指定して、Excel出力した集計表やPDF化した管理資料のファイルを保存できます。

基幹情報を簡単にクラウド上のサイトで共有でき、利用者は時間や場所にとらわれずに、情報を活用できます。



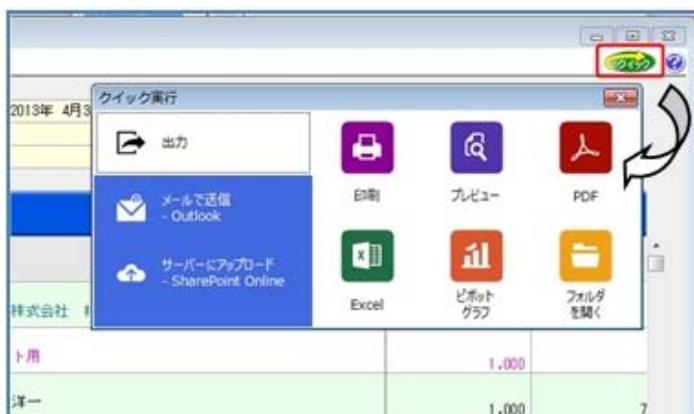
○ダイレクト出力機能（クイックメニュー）

画面表示した帳票を、クイックメニューからワンタッチでダイレクト印刷できます。

また、前述の「Excelピボットグラフ連携」「Excel罫線付出力」「PDF出力」「Outlook連携」「SharePoint Online連携」についても、ワンタッチでダイレクト出力できます。

出力形式が決まっている帳票は、印刷・転送の条件設定画面を經由せずに直接出力できるため、よりスピーディーに出力できます。

よって、『参照専用ライセンス』を利用している経営者や営業なども、ワンタッチの簡単な操作で、基幹情報をすぐに取り出せます。



上記、「業務支援サービス」の利用期間を確認できる、メインメニューの[管理ツール]-[ライセンス一覧]メニューが追加されました。

当システムで使用できる「業務支援サービス」について、利用期間を一覧で確認できます。

また、ライセンス情報（登録番号やライセンスキー等）も一覧で確認できます。

※利用期間やライセンス情報の最新情報は、以下の方法で取得できます。

【インターネット接続環境のコンピュータで、当システムをお使いの場合】
常に最新情報が表示されます。

【インターネットに接続されていないコンピュータで、当システムをお使いの場合】
O M S Sにご加入いただいたお客様がダウンロードできる「O M S Sライセンスファイル」
を、メインメニューの[管理ツール]-[ライセンス一覧]メニューで読み込むことで最新情報を
表示できます。

※[ライセンス一覧]メニューは、管理者だけに表示されます。

● 電子記録債権の管理ができるようになりました。

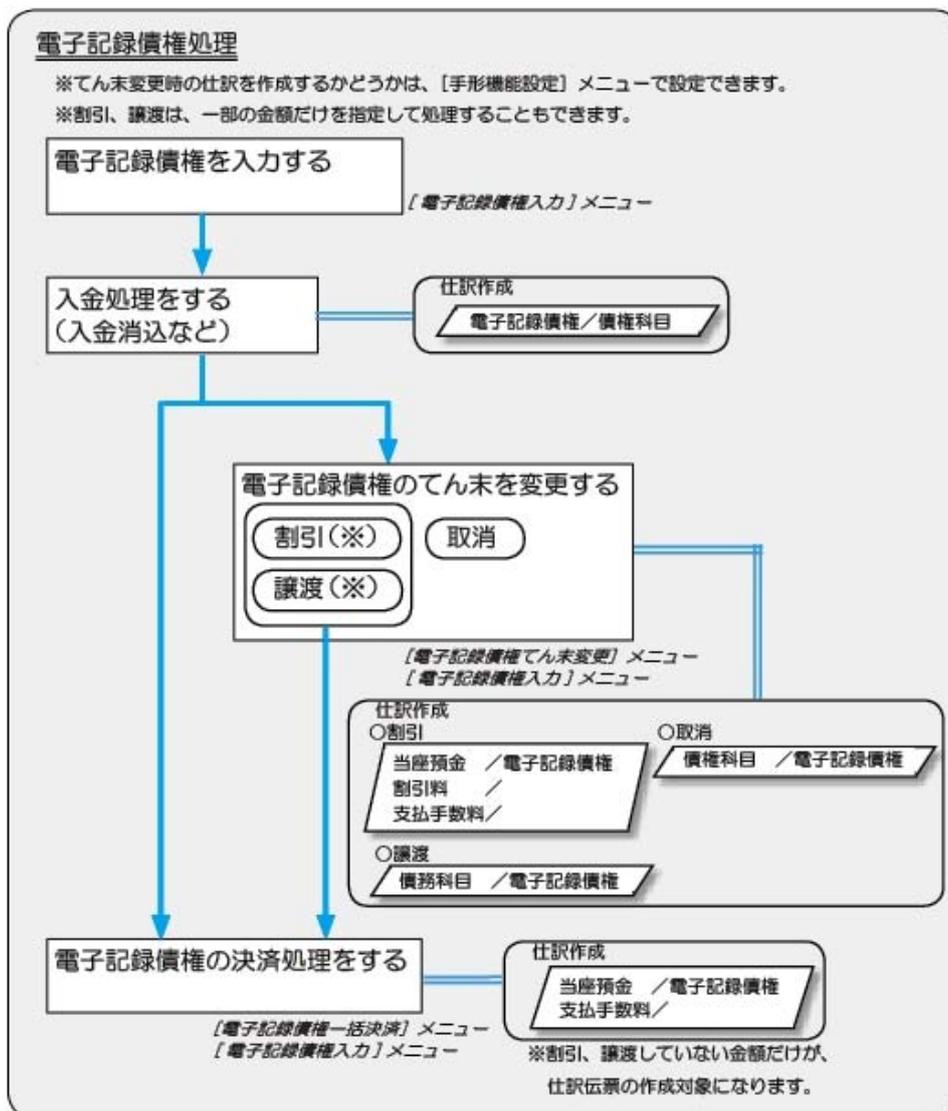
[導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニューの[基本]ページで回収種別に「8：電子記録債権」が追加され、電子記録債権を登録できるようになりました。

電子記録債権を登録すると、同時に入金情報が作成されます。

作成した入金情報について、「1：入金」「2：仮受金」「3：非連結」「4：前受金」のステータスを指定することで、債権との消込管理や、入金伝票（仕訳伝票）の作成ができます。

また、割引や譲渡など、てん末管理、および仕訳作成もできます。

■ 電子記録債権処理

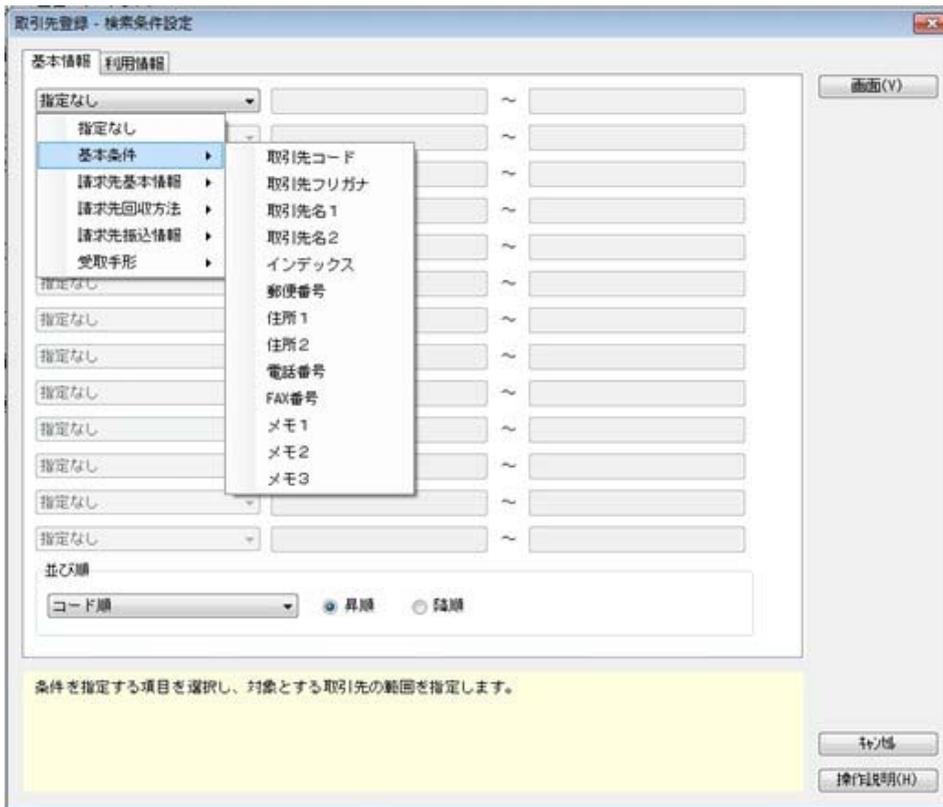


◀ 新規メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権一括決済]メニュー

● 取引先の検索条件が追加されました。

取引先を検索する際の絞込条件が追加されました。



◀ 関連メニュー ▶

- ・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニュー
 - ・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニュー
 - ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[取引先データ作成]-[取引先データ作成]メニュー
- ※以下のメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行取引先データ作成]メニュー

● データ領域の環境構築をする際の操作方法が変わりました。

以下の処理をする際に、データ領域の環境構築をする操作方法が変わりました。

○旧バージョンのプログラムで作成した、バックアップデータの読み込み

バックアップデータを読み込んだ後に、オプションのメニューを開こうとすると、以下のメッセージが表示されます。

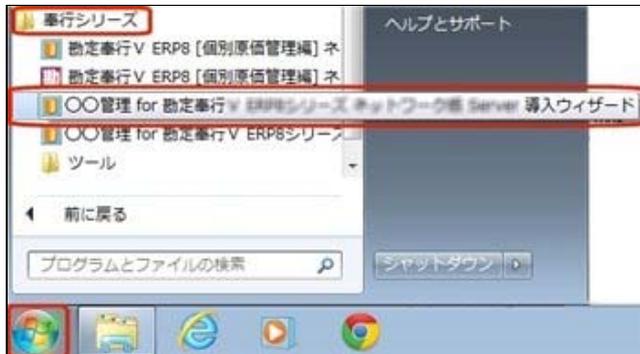
そのまま、[OK] ボタンをクリックして、環境構築を開始してください。



○今までオプションの運用をしていなかったデータ領域で、オプションの運用開始

[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [奉行シリーズ] (- [ツール]) から、導入ウィザードを起動します。

※ネットワーク版をお使いの場合は、サーバープログラムがセットアップされているコンピュータで行います。

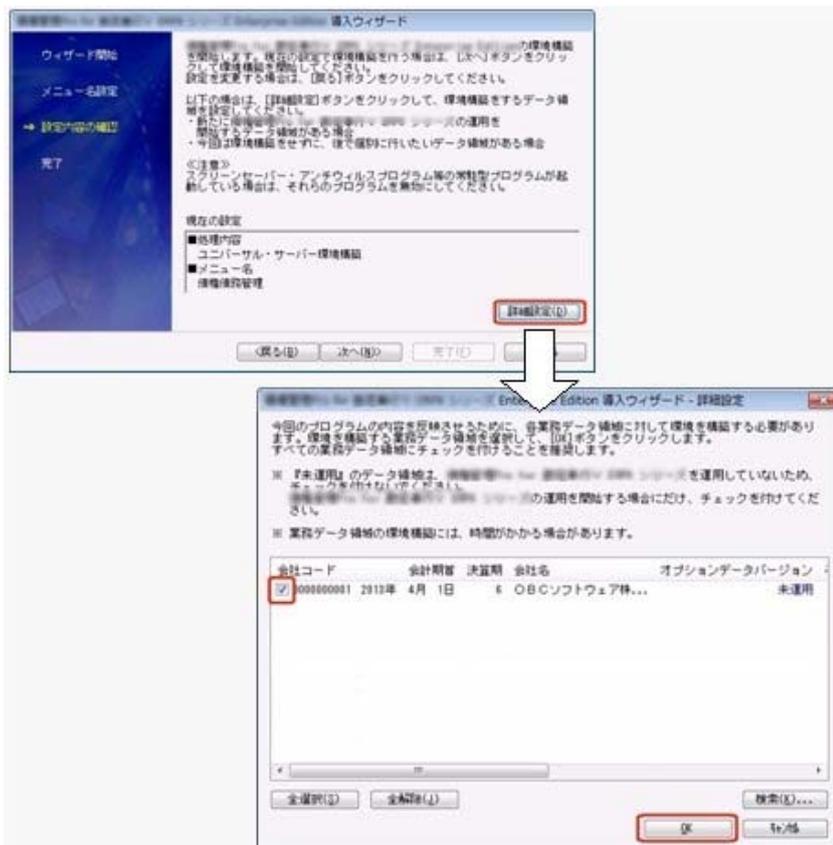


[次へ] ボタンで、進めます。



設定内容の確認画面で [詳細設定] ボタンをクリックします。

オプションの運用を開始するデータ領域にチェックを付けて、[OK] ボタンをクリックします。



設定内容の確認画面に戻りますので、そのまま [次へ] ボタンをクリックして、環境構築を開始します。

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.05 >

変更内容一覧

【メニュー体系】
メニューの名称および構成が変更されました。 ※詳細は、6ページをご参照ください。
【全般】
帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。 ※詳細は、6ページをご参照ください。
伝票の検索条件に、以下の絞込条件が追加されました。 「仕訳伝票No.」 【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニュー・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー・ [債権管理]-[相殺処理]-[債権振替相殺処理]メニュー・ [債権管理]-[相殺処理]-[債務振替相殺処理]メニュー・ [債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニュー・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[債権伝票データ作成]メニュー・ [随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[債権伝票データ一括削除]メニュー・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行債権伝票データ作成]メニュー
伝票の検索条件に、以下の絞込条件が追加されました。 「締日区分」「請求先名2」「請求先略称」 【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">・ [導入処理]-[残高入力]-[債権残高入力]メニュー・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニュー・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー・ [債権管理]-[相殺処理]-[債権振替相殺処理]メニュー・ [債権管理]-[相殺処理]-[債務振替相殺処理]メニュー・ [債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニュー・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[残高データ作成]-[債権残高データ作成]メニュー・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[債権伝票データ作成]メニュー・ [随時処理]-[データ一括削除]-[マスターデータ一括削除]-[債権残高データ一括削除]メニュー・ [随時処理]-[データ一括削除]-[債権データ一括削除]-[債権伝票データ一括削除]メニュー・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行債権伝票データ作成]メニュー
転送で、合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に2列移動しました。 【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末変更]メニュー・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形一括決済]メニュー・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権てん末変更]メニュー・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権一括決済]メニュー
【債権管理】

<p>《債権伝票入力》</p> <p>納品書・請求書の印刷で、1段目と2段目のタイトルをそれぞれ設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [債権伝票入力 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページの「用紙タイトル」</p>
<p>納品書・請求書の印刷で、合計金額に印刷する金額を、「ページごとの合計金額」と「債権伝票ごとの合計金額」から選択できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [債権伝票入力 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページの「合計金額」</p>
<p>《債権伝票承認》</p>
<p>承認取消機能が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニューの承認取消機能は廃止されました。</p>
<p>1次承認権限者が1次承認を取り消せるようになりました。</p>
<p>検索対象の絞込条件が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目は、リストから選択する形式になりました。</p>
<p>債権伝票承認([導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定)が「2: 2段階承認」の場合に、承認状態の指定方法が変更されました。</p> <p>※項目の配置も[登録情報]ページ→[基本条件]ページに移動しました。</p>
<p>[消費税]ページで、税率の指定方法が変更されました。</p>
<p>[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。</p>
<p>画面に出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[項目選択]ページが追加されました。</p>
<p>債権伝票の登録履歴、承認履歴を出力できるようになりました。</p>
<p>[債権伝票承認 - 条件設定]画面で前回指定した条件が保持されるようになりました。</p>
<p>消込済みで取り消せない伝票など、実行できない伝票については、あらかじめ警告が表示され、チェックが付けられなくなりました。</p>
<p>承認権限がない利用者が画面を開いた際には、承認のチェック欄が表示されなくなりました。</p>
<p>仕訳作成単位([導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定)が「2: 期間単位」の場合、または仕訳伝票の付番方法が「2: 手入力」の場合に、実行時の仕訳伝票に関する設定画面が統合され、1つの画面で設定できるようになりました。</p>
<p>仕訳伝票の重複チェック(メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定)が「1: 月度単位チェック」「2: 年度単位チェック」で、重複時登録処理が「1: 登録確認表示」の場合に、「伝票No. が重複してもそのまま登録する」のチェックで前回指定した条件が保持されるようになりました。</p>
<p>[債権伝票承認 - 未処理データ一覧]画面に、以下の表示項目が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 請求日付 ・ 金額
<p>印刷・転送で、出力設定できる項目が追加されました。</p> <p>また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコード、セグメント、プロジ</p>

<p>エクトの出力設定は、[詳細設定]ページに集約されました。</p>
<p>印刷形式の名称が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明細リスト」→「伝票リスト」 ・「伝票リスト」→「未承認リスト」
<p>印刷形式に「承認済リスト」（旧バージョンの[債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニューと同様のレイアウト）が追加されました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[債権伝票承認 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ</p> <p>※「処理区分」を「取消」に設定すると印刷できます。</p>
<p>明細リスト（新：伝票リスト）の印刷で、以下の設定が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「税率・税区分を印刷する」 「税率だけ印刷」、「税区分だけ印刷」、「税率・税区分を印刷」を指定可能 ※消費税の計算方法（メインメニューの[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの【消費税申告書設定】で設定）が「簡易課税」の場合は、以下の設定です。 「税率・税区分・事業区分を印刷する」 「税率だけ印刷」、「税区分・事業区分だけ印刷」、「税率・税区分・事業区分を印刷」 ・「履歴を印刷する」 ・「日付と利用者の他に時間も印刷する」
<p>明細リスト（新：伝票リスト）の印刷で、小計出力設定の項目の名称が変更されました。</p> <p>「小計を出力する」→「伝票計を印刷する」</p>
<p>明細リスト（新：伝票リスト）の印刷で、以下の表示形式が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスターコードが左詰めに変更されました。 ・[伝票日付]・[請求日付]・[回収予定]の日付の形式が変更されました。 <p>▼例</p> <p>平成25年 4月 5日 → 平成25/ 4/ 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証憑No. にファイルが添付されている場合は、ファイル名が表示されるようになりました。
<p>伝票リスト（新：未承認リスト）の印刷で、行の縦幅が縮小され、1ページに印刷できる明細数が増えました。</p>
<p>伝票リスト（新：未承認リスト）の印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者が「0：その他」の場合でも印刷されるようになりました。 ・回収方法コードを印刷できるようになりました。 ・証憑No. にファイルが添付されている場合は、ファイル名が表示されるようになりました。
<p>単票債権伝票の印刷で、印刷するページを指定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[債権伝票承認 - 印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページ</p>
<p>単票債権伝票の印刷で、以下の情報を印刷できるようになりました。</p> <p>プロジェクト・サブプロジェクト・セグメント1・セグメント2</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[債権伝票承認 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページ</p>
<p>単票債権伝票の印刷で、以下の設定が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「税率・税区分を印刷する」 「税率だけ印刷」、「税区分だけ印刷」、「税率・税区分を印刷」を指定可能 ※消費税の計算方法（メインメニューの[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの【消費税申告書設定】で設定）が「簡易課税」の場合は、以下の設定です。 「税率・税区分・事業区分を印刷する」 「税率だけ印刷」、「税区分・事業区分だけ印刷」、「税率・税区分・事業区分を印刷」

<p>転送で、出力する項目は、[債権伝票承認 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで設定できるようになりました。</p>
<p>転送で、金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。 ※この機能追加に伴い、日付の表示形式も変更されました。</p> <p>変更前 債権伝票承認：2013/04/01 債権伝票履歴：2013年04月01日</p> <p>変更後 債権伝票承認：2013/4/1</p>
<p>転送で、合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。</p>
<p>転送で、以下の項目のタイトルが変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伝票No.」→「伝票No.」 ・「証憑No.」→「証憑No.」 ・「決算月」→「整理区分」 ・「取引先」→「請求先コード」 ・「(取引先名1)」→「請求先名1」 ・「回収方法」→「回収方法名」 <p>※「回収方法コード」も出力されるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「担当者」→「担当者コード」 ・「(担当者名)」→「担当者名」
<p>《債務振替相殺処理》</p>
<p>振替取消機能が追加されました。 ※この機能追加に伴い、[債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニューの振替取消機能は廃止されました。</p>
<p>マイナス債務の振替状態の参照機能が追加されました。</p>
<p>検索対象の絞込条件が追加されました。 ※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目はリストから選択する形式に変更され、[詳細条件]ページの設定方法が変更されました。 また、[摘要]ページ、[登録情報]ページ、[利用情報]ページ、[付箋]ページ、[消費税]ページが追加されました。</p>
<p>[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。</p>
<p>振替画面の項目名、項目の配置が変更されました。</p>
<p>債権区分や債権科目を一括変更できる機能が追加されました。 ※この機能追加に伴い、債権日付を一括変更する際の操作方法が変更されました。</p>
<p>印刷、転送で、合計行の出力設定ができるようになりました。 【設定箇所】 [債務振替相殺処理 - 印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ</p>
<p>印刷・転送で、支払先コードの出力設定ができるようになりました。 また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。</p>
<p>転送で、合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。</p>
<p>《ファクタリング債権入力》</p>
<p>印刷・転送で、合計行の出力設定ができるようになりました。 【設定箇所】</p>

[ファクタリング債権入力 - 印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ
《債権伝票履歴》
集計対象に以下のデータが追加されました。 ・ 債権残高 ・ 未承認の債権伝票
入金消込済みで、入金伝票に「最終承認」が付与されている債権伝票については、入金伝票も出力されるようになりました。 ※この機能追加に伴い、印刷レイアウト・転送レイアウトを変更も変更されました。
集計対象の絞込条件項目が追加されました。 ※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目はリストから選択する形式になりました。
債権伝票承認([導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定)が「1: 1段階承認」「2: 2段階承認」の場合の承認取消機能が廃止されました。 ※承認の取消は、[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニューで行うようになりました。
[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。
出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、[項目選択]ページが追加されました。
【随時処理】
《伝票データ一括削除》(伝票設定: 債権残高データ) ※新メニュー名: [債権残高データ一括削除]メニュー
[導入処理]-[残高入力]-[債権残高入力]メニューと同様の絞込条件を指定できるようになりました。
《伝票データ一括削除》(伝票設定: 債権伝票データ) ※新メニュー名: [債権伝票データ一括削除]メニュー
[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニューと同様の絞込条件を指定できるようになりました。

- メニューの名称および構成が変更されました。

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

○伝票データ一括削除メニューの分割

[随時処理]-[データ一括削除]-[伝票データ一括削除]メニューは、削除対象の伝票ごとにメニューが分割されました。

変更前	変更後
[随時処理]-[データ一括削除] -[伝票データ一括削除]メニュー	[随時処理]-[データ一括削除] ○債権残高 -[マスターデータ一括削除] -[債権残高データ一括削除]メニュー ○債権伝票 -[債権データ一括削除] -[債権伝票データ一括削除]メニュー

- 帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。

以下の帳票について、初期値として表示するプリンタをメインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるようになりました。

これにより、[プリンタ設定]ページで初期値として表示される内容が、以下のとおり変更になります。

変更前	変更後
全項目とも、前回の印刷時に設定した内容 ※初回起動時は、「通常使うプリンタ」の内容が表示されます。	[帳票別プリンタ登録]メニューでプリンタが登録されているかによって、異なります。 ○登録済みの場合 全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容 ※帳票別プリンタ登録が利用者ごとの設定であれば、印刷時の「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」「倍率」の変更は、帳票別プリンタ登録に反映します。 ○未登録の場合 「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容 「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容

注意

この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した内容が初期値として表示されなくなります。

帳票を印刷する前に、メインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで初期値として表示するプリンタを登録してください。

※[帳票別プリンタ登録]メニューの登録をしない場合は、常に「通常使うプリンタ」が初期値として表示されます。

◀ 対象帳票 ▶

- ・ 債権伝票リスト（[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー）
- ・ 債権伝票未承認リスト（[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー）
- ・ 債権伝票（[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー）
- ・ 振替相殺明細リスト（[債権管理]-[相殺処理]-[債務振替相殺処理]メニュー）
- ・ 債権伝票履歴リスト（[債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニュー）

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.2.04 >

変更内容一覧

【全般】
帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。 ※詳細は、7ページをご参照ください。
【導入処理】
《債権残高入力》
[請求先情報]（[F7]キー）を押すと開く[請求先情報]画面で以下の項目が追加されました。 ・「与信残高金額」 また、与信額計算対象（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定）が「0：手形債権含める」の場合は、「現在債権科目残高」が「現在債権残高」と「現在手形債権残高」に分れて表示されるようになりました。
【債権管理】
《債権伝票入力》
[請求先情報]（[F7]キー）を押すと開く[請求先情報]画面で以下の項目が追加されました。 ・「与信残高金額」 また、与信額計算対象（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定）が「0：手形債権含める」の場合は、「現在債権科目残高」が「現在債権残高」と「現在手形債権残高」に分れて表示されるようになりました。
《入金情報登録》
以下の絞込条件項目が追加されました。 [基本条件]ページ ・伝票No. [登録情報]ページ ※ページが追加されました。 ・伝票区分 ・承認状態 ・消込状態 ・仮受金処理状態
[基本条件]ページの「登録区分」は[登録情報]ページに移動しました。
[項目選択]ページの選択項目に、以下の項目が追加されました。 ・承認状態 ・消込状態 ・仮受金処理状態
印刷・転送で、出力設定ができる項目が追加されました。 ※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページの設定方法が変更されました。 また、[セグメント]ページ、[プロジェクト]ページは、[詳細設定]ページに統合されました。
《締単位入金消込》
回収予定確定基準（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページで設定）が「1：伝票単位」の場合は、当メニューが表示されなくなりました。
《債権振替相殺処理》

<p>振替取消機能が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[債務伝票履歴]メニューの振替取消機能は廃止されました。</p>
<p>マイナス債権の振替状態の参照機能が追加されました。</p>
<p>検索対象の絞込条件が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目はリストから選択する形式に変更され、[詳細条件]ページの設定方法が変更されました。</p> <p>また、[摘要]ページ、[登録情報]ページ、[利用情報]ページ、[付箋]ページ、[消費税]ページが追加されました。</p>
<p>[出力順]ページで、検索結果の並び順を詳細に設定できるようになりました。</p>
<p>振替画面の項目名、項目の配置が変更されました。</p>
<p>債務区分や債務科目を一括変更できる機能が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、債務日付を一括変更する際の操作方法が変更されました。</p>
<p>印刷、転送で、合計行の出力設定ができるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[債権振替相殺処理 - 印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ</p>
<p>印刷・転送で、請求先コードの出力設定ができるようになりました。</p> <p>また、印刷時のフォントサイズを指定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページが追加され、マスターコードの出力設定は[詳細設定]ページに移動しました。</p>
<p>転送で、合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。</p>
<p>《受取手形てん末変更》</p>
<p>処理選択の名称が変更されました。</p> <p>「取消」→「てん末取消」</p>
<p>《受取手形一括決済》</p>
<p>処理選択の名称が変更されました。</p> <p>「取消」→「てん末取消」</p>
<p>《ファクタリング債権てん末変更》</p>
<p>処理選択の名称が変更されました。</p> <p>「取消」→「てん末取消」</p>
<p>《ファクタリング債権一括決済》</p>
<p>処理選択の名称が変更されました。</p> <p>「取消」→「てん末取消」</p>
<p>《滞留債権年齢表》</p>
<p>集計結果の画面表示機能が追加されました。</p>
<p>集計条件のパターン登録機能が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。</p> <p>このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。</p>
<p>「債権残高年齢表」を出力できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[滞留債権年齢表 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ</p> <p>「集計基準」</p>
<p>年齢の間隔や、集計する年齢の範囲を指定できるようになりました。</p>

<p>また、最大12期間分を集計できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[滞留債権年齢表 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ 「年齢基準」</p>
<p>指定できる集計単位が追加されました。</p> <p>また、集計単位の組み合わせを指定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。</p>
<p>集計対象の絞込条件項目が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目はリストから選択する形式に変更されました。</p> <p>また、[基本条件2]ページ、[セグメント]ページ、[プロジェクト]ページ、[摘要]ページ、[付箋]ページが追加されました。</p>
<p>[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できるようになりました。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[項目選択]ページが追加されました。</p>
<p>印刷・転送設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層形式のレイアウトで出力する機能が追加されました。 ・計行の出力設定は、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動しました。 ・部門以外の集計単位でも改ページできるようになりました。
<p>印刷、転送で、回収予定サイト（「翌月月末」など）や締日区分名（「月末締め」など）を出力するかを選択できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[滞留債権年齢表 - 印刷等条件設定]画面の[詳細条件]ページの「拡張設定」</p>
<p>網掛け印刷など、指定できる印刷オプションが追加されました。</p>
<p>印刷で、用紙サイズの初期値が変更されました。</p> <p>「B4」→「A4」</p>
<p>印刷、転送で、基準日の表示が変更されました。</p> <p>「年月日現在」→「年月日」</p>
<p>《仮受金一覧表》</p>
<p>集計条件のパターン登録機能が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。</p> <p>このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。</p>
<p>集計日付の制限が廃止されました。</p> <p>変更前 選択会計期間だけ</p> <p>変更後 選択会計期間、および選択会計期間より前の日付</p>
<p>[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できるようになりました。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[項目選択]ページが追加されました。</p>
<p>表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から</p>

選択できるようになりました。
印刷・転送設定 ・計行の出力設定は、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動しました。
印刷で、日付項目の書式が変更されました。 西暦：2012/02/01 → 2012/ 2/ 1 和暦：24/02/01 → 24/ 2/ 1
転送で、日付項目の書式が変更されました。 西暦：2012/02/01 → 2012/2/1 和暦：平成24年02月01日 → 平成24年2月1日
《前受金残高一覧表》
集計結果の画面表示機能が追加されました。
集計条件のパターン登録機能が追加されました。 ※この機能追加に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。 このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。
指定できる集計単位が追加されました。 また、集計単位の組み合わせを指定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。
集計対象の絞込条件項目が追加されました。 ※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目はリストから選択する形式になりました。
集計日付の制限が廃止されました。 変更前 選択会計期間だけ 変更後 選択会計期間、および選択会計期間より前の日付
[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できるようになりました。
出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。 ※この機能追加に伴い、[項目選択]ページが追加されました。
表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるようになりました。
印刷・転送設定 ・階層形式のレイアウトで出力する機能が追加されました。 ・計行の出力設定は、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動しました。 ・部門以外の集計単位でも改ページできるようになりました。
印刷・転送レイアウト ・集計条件の表示が変更されました。 ・帳票タイトルにはパターン名が出力されるようになりました。 ・転送で、計行の出力レイアウトが変更されました。 ・転送で、金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるようになりました。
《与信残高一覧表》
集計結果の画面表示機能が追加されました。

<p>集計条件のパターン登録機能が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。</p> <p>このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。</p>
<p>指定できる集計単位が追加されました。</p> <p>また、集計単位の組み合わせを指定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。</p>
<p>集計対象の絞込条件項目が追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[基本条件]ページの絞込条件項目はリストから選択する形式になりました。</p>
<p>集計日付の制限が廃止されました。</p> <p>変更前 選択会計期間だけ</p> <p>変更後 選択会計期間、および選択会計期間より前の日付</p>
<p>[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、表示基準の優先順位や、表示順(昇順/降順)を自由に設定できるようになりました。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[項目選択]ページが追加されました。</p>
<p>与信額計算対象 ([導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定)が「0:手形債権含める」の場合に、債権残高を「債権残高」と「手形債権残高」に分けて出力できるようになりました。</p>
<p>未承認、承認済の金額の出力方法が変更されました。</p> <p>変更前 「債権残高(合計)」「債権残高(未承認)」「債権残高(承認済)」を出力</p> <p>変更後 「債権残高」だけを出し、「債権残高に未承認の債権金額も含める」のチェックによって集計対象を切替</p>
<p>表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるようになりました。</p>
<p>印刷・転送設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層形式のレイアウトで出力する機能が追加されました。 ・計行の出力設定は、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動しました。 ・部門以外の集計単位でも改ページできるようになりました。
<p>前受金、非連結入金、仮受金の計上するタイミングを指定できるように変更</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[与信残高一覧表 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ</p> <p>「消込金額集計基準」</p> <p>「仮受金を消込金額として集計する」</p>
<p>【随時処理】</p>
<p>◀入金情報データ作成▶</p>
<p>以下の絞込条件項目が追加されました。</p> <p>[基本設定]ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝票No.

<p>[登録情報] ページ ※ページが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝票区分 ・承認状態 ・消込状態 ・仮受金処理状態
<p>[基本条件] ページの「登録区分」は[登録情報] ページに移動しました。</p>
<p>[項目選択] ページの選択項目に、以下の項目が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・承認状態 ・消込状態 ・仮受金処理状態
<p>【自動実行管理】</p>
<p>《自動実行入金情報データ作成》</p>
<p>以下の絞込条件項目が追加されました。</p> <p>[基本設定] ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝票No. <p>[登録情報] ページ ※ページが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝票区分 ・承認状態 ・消込状態 ・仮受金処理状態
<p>[基本設定] ページの「登録区分」は[登録情報] ページに移動しました。</p>
<p>[項目選択] ページの選択項目に、以下の項目が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・承認状態 ・消込状態 ・仮受金処理状態

● **帳票別プリンタ登録できる帳票が追加されました。**

以下の帳票について、初期値として表示するプリンタをメインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるようになりました。

これにより、[プリンタ設定]ページで初期値として表示される内容が、以下のとおり変更になります。

変更前	変更後
<p>全項目とも、前回の印刷時に設定した内容</p> <p>※初回起動時は、「通常使うプリンタ」の内容が表示されます。</p>	<p>[帳票別プリンタ登録]メニューでプリンタが登録されているかによって、異なります。</p> <p>○登録済みの場合</p> <p>全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容</p> <p>※帳票別プリンタ登録が利用者ごとの設定であれば、印刷時の「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」「倍率」の変更は、帳票別プリンタ登録に反映します。</p> <p>○未登録の場合</p> <p>「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容</p> <p>「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容</p>

注意

この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した内容が初期値として表示されなくなります。

帳票を印刷する前に、メインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで初期値として表示するプリンタを登録してください。

※[帳票別プリンタ登録]メニューの登録をしない場合は、常に「通常使うプリンタ」が初期値として表示されます。

◀ 対象帳票 ▶

- ・振替相殺明細リスト（[債権管理]-[相殺処理]-[債権振替相殺処理]メニュー）
- ・滞留債権年齢表（[債権管理]-[管理帳票]-[滞留債権年齢表]メニュー）
- ・仮受金一覧表（[債権管理]-[管理帳票]-[仮受金一覧表]メニュー）
- ・前受金残高一覧表（[債権管理]-[管理帳票]-[前受金残高一覧表]メニュー）
- ・与信残高一覧表（[債権管理]-[管理帳票]-[与信残高一覧表]メニュー）

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

債権管理 *Pro* / 債権管理オプション
< Ver.2.03/Ver.2.02/Ver.2.01/Ver.2.00 >



OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.

変更内容一覧

【メニュー体系】
メニューの名称および構成を変更 ※詳細は、10ページをご参照ください。
【全般】
帳票別プリンタ登録に対応 ※詳細は、10ページをご参照ください。
ファクタリングや期日現金の場合でも、過入金での入金消込、ステータス「2：仮受金」「4：前受金」の処理ができるように変更 ※以下のように「ファクタリング会社」を設定して、請求先とファクタリング会社を区別している入金情報については、過入金での入金消込、ステータス「2：仮受金」「4：前受金」の処理はできません。 ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニューで、請求先とは別の取引先を「ファクタリング会社」に設定した入金情報 ・ 請求先とは別の取引先が「ファクタリング会社」に設定されている回収方法の入金情報
【関連メニュー】 ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー
ファクタリング債権のてん末の名称を変更 「裏書」→「譲渡」
【導入処理】
《債権債務運用設定》
[請求支払設定]ページに「御入金額の集計基準」を追加 「1：消込基準」に設定すると、請求書の御入金額を入金消込金額をもとに集計可能
《回収方法登録》
ファクタリングと期日現金の回収種別を分離 変更前 「6：ファクタリング・期日現金」 変更後 「6：ファクタリング」 「7：期日現金」 ※以前のバージョンで「6：ファクタリング・期日現金」に設定して登録した回収方法は、「6：ファクタリング」にコンバートされます。 また、「6：ファクタリング」でも、今までどおり期日現金の処理ができます。
回収種別が「6：ファクタリング」の場合に「ファクタリング会社」を設定できるように変更
《債権残高入力》
以下のマスター登録画面へのジャンプ機能を追加 ・ 請求先 ・ 担当者 ・ 回収方法 ・ 債権区分

・任意項目
残高伝票を検索する際の詳細条件（[債権残高入力 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページ）に、部門グループなどの検索対象を追加
明細行の間隔は、画面の右上のアイコンで設定するように変更
◀前受金残高入力▶
[出力順]ページを追加し、並び順を詳細に設定できるように変更
以下のマスター登録画面へのジャンプ機能を追加 ・請求先 ・回収方法
前受金残高を検索する際の詳細条件（[前受金残高入力 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページ）で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更 ※この変更に伴い、[詳細条件]ページの設定方法が変更されました。
【債権管理】
◀債権伝票入力▶
以下のマスター登録画面へのジャンプ機能を追加 ・請求先 ・担当者 ・回収方法 ・商品 ・債権区分 ・任意項目
債権伝票を検索する際の詳細条件（[債権伝票入力 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページ）に、部門グループなどの検索対象を追加
明細行の間隔は、画面の右上のアイコンで設定するように変更
◀債権伝票No. 自動付番設定▶
初期No.（会計期首や月初など、最初の伝票に付番する伝票No.）を設定できるように変更
◀債権データ抽出▶
以下のマスター登録画面へのジャンプ機能を追加 ・回収方法 ・商品
◀回収予定変更▶
画面の固定位置は、[出力設定]ページの「--固定位置--」で設定するように変更
表示単位が「債権伝票」の場合に、仕訳伝票No. を指定して検索できるように変更 【設定箇所】 [回収予定変更 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページ
◀請求書発行▶
ファクタリングと期日現金の回収種別の分離に伴い、回収方法の表示を変更 変更前 「ファクタリング・期日現金」 変更後 「ファクタリング」 「期日現金」
請求書の御入金額を入金消込金額をもとに集計できるように変更

<p>【設定箇所】 [債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページの「1：消込基準」</p>
<p>《FBデータ取込》 ※新メニュー名：[FB入金外部ファイル受入]メニュー</p>
<p>受入時のチェック内容を変更 ※詳細は、11ページをご参照ください。</p>
<p>以下の設定の設定箇所を変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「同一請求先かつ同一日付のFBデータに対応する処理」 ・「請求先マッチング方法」 <p>【設定箇所】 [FB入金処理設定]メニューの「同一入金日データの作成方法」「マッチングキー項目」 ※[FB入金処理設定]メニューは、新しく追加されたメニューのため、利用者のメニュー権限を設定する必要があります。</p> <p>【設定保持単位】 利用者ごと→利用者共通</p>
<p>ファイル種類が自動判定されるように変更 ※ファイル種類を指定して受け入れることもできます。</p> <p>【設定箇所】 [FB入金外部ファイル受入 - 受入条件設定]画面の「詳細設定」ボタン</p>
<p>振込入金通知のフォーマットBのファイルも受け入れられるように変更</p>
<p>《入金情報登録》</p>
<p>集計対象の絞込条件項目を追加 ※この変更に伴い、[基本条件]ページ、[詳細条件]ページの設定方法が変更されました。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるように変更 ※この変更に伴い、[項目選択]ページが追加されました。</p>
<p>並び順を詳細に設定できるように変更 ※この変更に伴い、[出力順]ページの設定方法が変更されました。</p>
<p>参照機能を追加し、すべての入金情報を参照できるように変更 ※この変更に伴い、絞込条件として、[摘要]ページ、[付箋]ページが追加されました。</p>
<p>ステータス「2：仮受金」「3：非連結」「4：前受金」「5：対象外」の取消機能を追加</p>
<p>入力項目を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セグメント、プロジェクト
<p>ステータス「2：仮受金」「3：非連結」「4：前受金」の場合に、仮受金/非連結/前受金の部門など、詳細を入力できるように変更</p>
<p>ステータスの名称を変更 また、登録区分が「汎用」「手入力」の場合にもステータス「5：対象外」を設定できるように変更 「5：期日現金」→「5：対象外」</p>
<p>マッチングできなかったFB入金データに請求先を指定する際の方法を変更 ※マッチングできなかったFB入金データがある場合は、[未作成FB]（F11）が表示されず、[未作成FB]（F11）で[入金情報登録 - 入金情報未作成FBデータ一覧]画面を開き、請求先を指定します。</p>
<p>付箋機能を追加</p>
<p>関連データの参照機能を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受取手形

<ul style="list-style-type: none"> ・ファクタリング ・期日現金 ・領収証
ステータスが「0：未確定」であれば、入金金額が0円でも登録できるように変更
一括削除の操作方法を変更
ステータス、入金日付の一括変更の操作方法を変更
以下のマスター登録画面へのジャンプ機能を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・請求先 ・回収方法
《受取手形入力》
受取手形を検索する際の日付条件の指定方法を変更
受取手形を検索する際の詳細条件で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更
備考の入力方法を変更
《受取手形てん末変更》
受取手形を検索する際の日付条件の指定方法を変更
受取手形を検索する際の詳細条件で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更
画面の固定位置は、[出力設定]ページの「--固定位置--」で設定するように変更
《受取手形一括決済》
受取手形を検索する際の日付条件の指定方法を変更
受取手形を検索する際の詳細条件で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更
画面の固定位置は、[出力設定]ページの「--固定位置--」で設定するように変更
《ファクタリング債権入力》
ファクタリング会社が設定されている回収方法を入力した場合は、ファクタリング会社が初期表示されるように変更
ファクタリングと期日現金の回収種別の分離に伴い、回収方法を入力する際に、処理区分（ファクタリング／期日現金）に応じた回収種別の回収方法が検索されるように変更 処理区分「ファクタリング」の場合は、回収種別「6：ファクタリング」の回収方法 処理区分「期日現金」の場合は、回収種別「6：ファクタリング」「7：期日現金」の回収方法
ファクタリング債権を検索する際の日付条件の指定方法を変更
ファクタリング債権を検索する際の詳細条件で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更
備考の入力方法を変更
《ファクタリング債権てん末変更》
ファクタリング債権を検索する際の日付条件の指定方法を変更
ファクタリング債権を検索する際の詳細条件で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更
画面の固定位置は、[出力設定]ページの「--固定位置--」で設定するように変更
《ファクタリング債権一括決済》
ファクタリング債権を検索する際の日付条件の指定方法を変更
ファクタリング債権を検索する際の詳細条件で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更

画面の固定位置は、[出力設定]ページの「--固定位置--」で設定するように変更
《回収予定表》
<p>集計条件のパターン登録機能を追加</p> <p>※この変更に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。</p> <p>このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。</p>
<p>指定できる集計単位を追加</p> <p>また、集計単位の組み合わせを指定できるように変更</p> <p>※この変更に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。</p>
<p>集計対象の絞込条件項目を追加</p> <p>※この変更に伴い、絞込条件項目はリストから選択する形式に変更されました。</p>
<p>集計日付の制限を廃止</p>
<p>表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できるように変更</p> <p>※この変更に伴い、[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、設定方法も変更されました。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるように変更</p> <p>※この変更に伴い、[項目選択]ページが追加されました。</p>
<p>表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるように変更</p>
<p>集計結果の画面表示で以下の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レイアウトを表形式から階層形式に変更 ・列の幅をマウスで調整できるように変更 ・集計条件の表示を変更
<p>印刷・転送の設定で以下の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層形式のレイアウトで出力する機能を追加 ・計行の出力設定を、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動 ・部門以外の集計単位でも改ページできるように変更
<p>印刷・転送で以下の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集計条件の表示を変更 ・帳票タイトルにはパターン名が出力されるように変更 ・転送で、計行の出力レイアウトを変更 ・転送で、金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるように変更
<p>絞込条件として、複数の債権科目を同時に指定できるように変更</p> <p>※この変更に伴い、債権科目は[回収予定表 - 条件設定]画面の[基本条件2]ページで設定するように変更されました。</p>
<p>未入金金額と債権金額を同時に集計できるように変更</p>
<p>全額消込済みの債権明細も集計できるように変更</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[回収予定表 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページ</p>
<p>絞込条件として、摘要と付箋を指定できるように変更</p> <p>※この変更に伴い、[摘要]ページ、[付箋]ページが追加されました。</p> <p>※回収予定確定基準（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページで設定）が「0：請求書単位」の場合は指定できません。</p>
<p>整理仕訳の管理方法（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設</p>

<p>定]ページで設定)が「1:日常仕訳と区別する」の場合は、常に「振戻仕訳・整理仕訳を集計しない」を指定できるように変更</p>
<p>部門権限による制限を緩和 ※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。</p>
<p>網掛け印刷など、指定できる印刷オプションを追加</p>
<p>印刷の向き「縦方向」やA3などA4以上の用紙サイズに対応</p>
<p>回収予定確定基準（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページで設定）が「0:請求書単位」の場合の集計条件「仮発行の請求書を含める」の設定箇所を変更 【設定箇所】 [回収予定表 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページ</p>
<p>日付項目の書式を変更 西暦: 12/02/29 → 2012/ 2/29 和暦: 24/02/29 → 24/ 2/29</p>
<p>印刷、転送で、回収予定サイト（「翌月月末」など）や締日区分名（「月末締め」など）を出力するかを選択できるように変更 【設定箇所】 [回収予定表 - 印刷等条件設定]画面の[詳細条件]ページの「拡張設定」</p>
<p>《入金集計表》</p>
<p>集計条件のパターン登録機能を追加 ※この変更に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。 このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。</p>
<p>指定できる集計単位を追加 また、集計単位の組み合わせを指定できるように変更 ※この変更に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。</p>
<p>集計対象の絞込条件項目を追加 ※この変更に伴い、絞込条件項目はリストから選択する形式に変更されました。</p>
<p>集計日付の制限を廃止</p>
<p>表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できるように変更 ※この変更に伴い、[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、設定方法も変更されました。</p>
<p>出力する項目、項目の並び順を設定できるように変更 ※この変更に伴い、[項目選択]ページが追加されました。</p>
<p>表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるように変更</p>
<p>印刷・転送の設定で以下の変更 ・階層形式のレイアウトで出力する機能を追加 ・計行の出力設定を、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動 ・部門以外の集計単位でも改ページできるように変更</p>
<p>印刷・転送で以下の変更 ・集計条件の表示を変更 ・帳票タイトルにはパターン名が出力されるように変更 ・転送で、計行の出力レイアウトを変更</p>

・転送で、金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるように変更
集計結果の画面表示機能を追加
入金情報登録手数料入力が「1：入力する」の場合に、入金金額に手数料を含めて集計できるように変更
《債権残高一覧表》
集計条件のパターン登録機能を追加 ※この変更に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。 このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。
指定できる集計単位を追加 また、集計単位の組み合わせを指定できるように変更 ※この変更に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。
集計対象の絞込条件項目を追加 ※この変更に伴い、絞込条件項目はリストから選択する形式に変更されました。
集計日付の制限を廃止
表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できるように変更 ※この変更に伴い、[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、設定方法も変更されました。
出力する項目、項目の並び順を設定できるように変更 ※この変更に伴い、[項目選択]ページが追加されました。
表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるように変更
集計結果の画面表示で以下の変更 ・レイアウトを表形式から階層形式に変更 ・列の幅をマウスで調整できるように変更 ・集計条件の表示を変更
印刷・転送の設定で以下の変更 ・階層形式のレイアウトで出力する機能を追加 ・計行の出力設定を、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動 ・部門以外の集計単位でも改ページできるように変更
印刷・転送で以下の変更 ・集計条件の表示を変更 ・帳票タイトルにはパターン名が出力されるように変更 ・転送で、計行の出力レイアウトを変更 ・転送で、金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるように変更
前受金、非連結入金、仮受金の計上するタイミングを指定できるように変更 【設定箇所】 [債権残高一覧表 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ
《債権残高確認書》
集計条件のパターン登録機能を追加 ※この変更に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。 このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。

<p>表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できるように変更 ※この変更に伴い、[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、設定方法も変更されました。</p>
<p>印字内容の設定箇所をまとめ、設定しやすいように変更 【設定箇所】 [債権残高確認書 - 印刷条件設定]画面の[出力設定]ページおよび[印刷設定]ページ ※この変更に伴い、[債権残高確認書 - 印刷条件設定]画面と[債権残高確認書 - 条件設定]画面が統合されました。</p>
<p>《入金情報履歴》</p>
<p>仕訳伝票No. を指定して検索できるように変更 【設定箇所】 [入金情報履歴 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ</p>
<p>【随時処理】</p>
<p>《回収方法データ作成》</p>
<p>ファクタリングと期日現金の回収種別を分離に伴い、回収種別の表示を変更 変更前 「6：ファクタリング・期日現金」 変更後 「6：ファクタリング」 「7：期日現金」</p>
<p>《債権残高データ作成》</p>
<p>マスターや区分など、値で設定する項目について、数値だけでなく、その内容も出力するように変更</p>
<p>出力形式が「カンマ区切り」または「タブ区切り」の場合に、「入金済金額」「未入金金額」など、出力項目を追加</p>
<p>集計対象の絞込条件項目を追加 ※この変更に伴い、[セグメント]ページ、[プロジェクト]ページは、[詳細条件]ページに統合され、[基本設定]ページおよび[詳細条件]ページの設定方法が変更されました。 また、[摘要]ページ、[登録情報]ページ、[利用情報]ページ、[付箋]ページが追加されました。</p>
<p>[出力順]ページを追加し、並び順を設定できるように変更</p>
<p>残高データが未登録でもメニューを起動できるように変更</p>
<p>摘要だけ、付箋だけの明細行も出力できるように変更</p>
<p>《前受金残高データ作成》</p>
<p>[詳細設定]ページで、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更</p>
<p>出力形式が「カンマ区切り」または「タブ区切り」の場合に、出力項目に「取引先グループ」を追加</p>
<p>[出力順]ページを追加し、並び順を詳細に設定できるように変更</p>
<p>《債権伝票データ作成》</p>
<p>[詳細条件]ページに、部門グループなどの検索対象を追加</p>
<p>《入金情報データ作成》</p>
<p>集計対象の絞込条件項目を追加 ※この変更に伴い、[基本設定]ページの設定方法が変更されました。 また、[詳細条件]ページ、[摘要]ページ、[付箋]ページが追加されました。</p>

《回収方法データ受入》
<p>ファクタリングと期日現金の回収種別を分離に伴い、回収種別の表示を変更</p> <p>変更前 「6：ファクタリング・期日現金」</p> <p>変更後 「6：ファクタリング」 「7：期日現金」</p>
受入項目に「ファクタリング会社」追加
《債権残高データ受入》
実行結果を出力できるように変更
摘要だけ、付箋だけの明細行も受入できるように変更
<p>操作ログの内容を変更</p> <p>変更前 伝票日付、請求先コード、取引先名1、取引先名2</p> <p>変更後 伝票日付、請求先コード、請求先略称</p>
《入金情報データ受入》
受入項目に「セグメント1コード」「セグメント2コード」「プロジェクトコード」「サブプロジェクトコード」「付箋色コード」「付箋メモ」を追加
《入金伝票データ作成》
<p>絞込条件として、仕訳伝票の伝票区分を指定できるように変更</p> <p>※この変更に伴い、[登録情報]ページが追加されました。</p>
【自動実行管理】
《自動実行入金情報データ作成》
<p>集計対象の絞込条件項目を追加</p> <p>※この変更に伴い、[基本設定]ページの設定方法が変更されました。 また、[詳細条件]ページ、[摘要]ページ、[付箋]ページが追加されました。</p>
《自動実行入金情報データ受入》
受入項目に「セグメント1コード」「セグメント2コード」「プロジェクトコード」「サブプロジェクトコード」「付箋色コード」「付箋メモ」を追加
【管理ツール】
《登録件数情報》
<p>入金情報の登録件数を追加</p> <p>また、[データタイプバージョン]ページ、[ユニットタイプバージョン]ページを追加</p>

変更内容詳細

● メニューの名称および構成を変更

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

○[取引先一括登録]メニューの追加

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニューが追加されました。

○[FB入金処理]メニューの追加

『OFFICE BANK21』など、エレクトロニックバンキングシステムでのFB入金データ受信に対応しました。これに伴い、[FB入金処理]メニューとして以下のメニューが追加されました。

※[FB入金処理]メニューの概要は、操作説明の「FB入金処理とは」をご参照ください。

- ・[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金受信データ受入]メニュー
- ・[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金情報作成]メニュー
- ・[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金データ確認表]メニュー
- ・[債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金データ削除]メニュー

また、いままでの[FBデータ取込]メニューの名称が変更されました。

変更前	変更後
[債権管理]-[入金処理] -[FBデータ取込]メニュー	[債権管理]-[入金処理] -[FB入金処理] -[FB入金外部ファイル受入]メニュー

○[マスターデータ一括削除]メニューの追加

[随時処理]-[データ一括削除]-[マスターデータ一括削除]メニューが追加され、以下のメニューが追加されました。

- ・[担当者データ一括削除]メニュー
- ・[債権区分データ一括削除]メニュー
- ・[商品データ一括削除]メニュー
- ・[回収方法データ一括削除]メニュー
- ・[取引先データ一括削除]メニュー
- ・[取引先グループデータ一括削除]メニュー
- ・[任意項目データ一括削除]メニュー

これに伴い、[伝票データ一括削除]メニューの位置が変更されました。

変更前	変更後
[随時処理] -[伝票データ一括削除]メニュー	[随時処理]-[データ一括削除] -[伝票データ一括削除]メニュー

● 帳票別プリンタ登録に対応

以下の帳票について、初期値として表示するプリンタを勘定奉行の[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるようになりました。

これにより、[プリンタ設定]ページで初期値として表示される内容が、以下のとおり変更になります。

変更前	変更後
全項目とも、前回の印刷時に設定した内容 ※初回起動時は、「通常使うプリンタ」の内容が表示されます。	[帳票別プリンタ登録]メニューでプリンタが登録されているかによって、異なります。 ○登録済みの場合 全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容 ※帳票別プリンタ登録が利用者ごとの設定であれば、印刷時の「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」「倍率」の変更は、帳票別プリンタ登録に反映します。 ○未登録の場合 「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容 「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容

注意

この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した内容が初期値として表示されなくなります。

帳票を印刷する前に、[帳票別プリンタ登録]メニューで初期値として表示するプリンタを登録してください。

※[帳票別プリンタ登録]メニューの登録をしない場合は、常に「通常使うプリンタ」が初期値として表示されます。

◀ 対象帳票 ▶

- ・入金情報リスト（[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー）
- ・回収予定表（[債権管理]-[管理帳票]-[回収予定表]メニュー）
- ・入金集計表（[債権管理]-[管理帳票]-[入金集計表]メニュー）
- ・債権残高一覧表（[債権管理]-[管理帳票]-[債権残高一覧表]メニュー）
- ・勘定残高確認書（[債権管理]-[管理帳票]-[債権残高確認書]メニュー）

● F Bデータ取込時のチェック内容を変更

[F Bデータ取込]メニュー（新：[F B入金外部ファイル受入]メニュー）で、取込できるF Bデータのチェック内容が変更されました。

◀ 振込入金通知 ▶

項目	変更前	変更後
【共通の内容】		
文字項目	全角文字を含んでも受入可能	全角文字を含むデータは受入不可
	以下の全銀不許可文字はそのまま受入 ①句点「。」 ②中黒「・」 ③読点「、」 ④長音「-」 ⑤英小文字「a～z」 ⑥カタカナ小文字「アィウエオヤヨヅ」	以下のとおり変換して受入 ①ピリオド「.」 ②ピリオド「.」 ③カンマ「,」 ④ハイフン「-」 ⑤英大文字「A～Z」 ⑥カタカナ大文字「アィウエオヤヨヅ」
改行コード	改行コードはあってもなくても受入可能	改行コードの有無を指定して受入 【設定箇所】 [F B入金外部ファイル受入]画面の「CR・LF(改行コード)」
【ヘッダーレコード】		
銀行名	空でも受入可能	空での受入不可
	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可
支店名	空でも受入可能	空での受入不可
	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可
【データレコード】		
勘定日	空でも受入可能	空での受入不可
	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可
預入日	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可
金額	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可
振込依頼人コード	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可 ※値がない場合は受入可能
振込依頼人名	空でも受入可能	空での受入不可
	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可
EDI情報	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可

◀ 入出金明細 ▶

項目	変更前	変更後
【共通の内容】		
文字項目	全角文字を含んでも受入可能	全角文字を含むデータは受入不可
	以下の全銀不許可文字はそのまま受入 ①句点「。」 ②中黒「・」 ③読点「、」 ④長音「-」 ⑤英小文字「a～z」 ⑥カタカナ小文字「ｱｲｳｴｵｾﾞｯｼﾞ	以下のとおり変換して受入 ①ピリオド「.」 ②ピリオド「.」 ③カンマ「,」 ④ハイフン「-」 ⑤英大文字「A～Z」 ⑥カタカナ大文字「ｱｲｳｴｵｾﾞｯｼﾞ
改行コード	改行コードはあってもなくても受入可能	改行コードの有無を指定して受入 【設定箇所】 [F B入金外部ファイル受入]画面の「CR・LF(改行コード)」
【ヘッダーレコード】		
銀行名	空でも受入可能	空での受入不可
	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可
支店名	空でも受入可能	空での受入不可
	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可
【データレコード】		
勘定日	空でも受入可能	空での受入不可
	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可
預入日	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可
取引区分	「11：振込」のみ受入可能	以下の取引区分を受入可能 「10：現金」 「11：振込」 「12：他店券入金」 「13：交換 (取立入金および交換払)」 「14：振替」 「18：その他」 「19：訂正」 【設定箇所】 [F B入金外部ファイル受入 - 受入条件設定]画面の「詳細設定」ボタン ※初期値では「11：振込」のみ受入可能
金額	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可
手形・小切手番号	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可
振込依頼人コード	前0なしでも受入可能	前0なしでは受入不可 ※値がない場合は受入可能
振込依頼人名	空でも受入可能	空での受入不可
	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可
摘要内容	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可
EDI情報	全銀不許可文字の場合でも受入可能	変換対象外の全銀不許可文字の場合は受入不可

● 画面の固定値の設定方法を変更

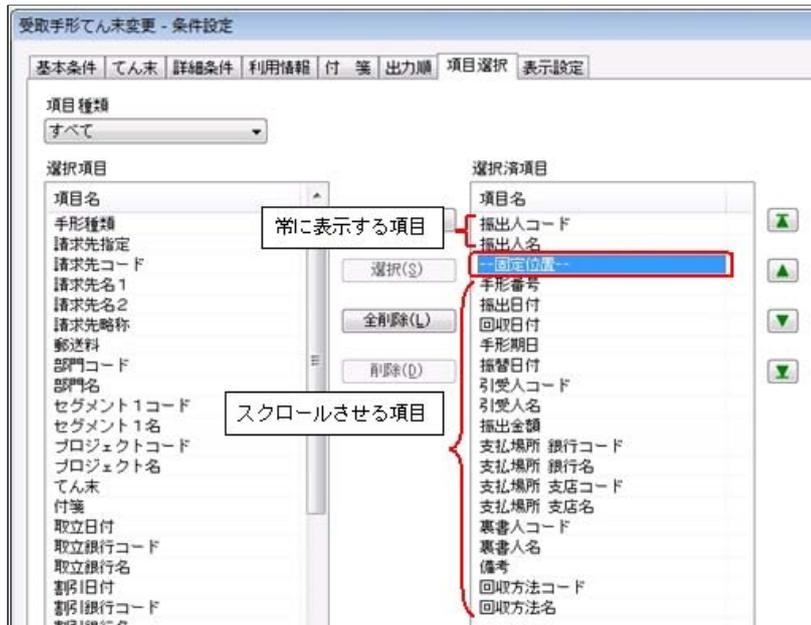
画面の固定位置は、[出力設定]ページの「--固定位置--」で設定するように変更されました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[回収予定変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形一括決済]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権一括決済]メニュー

▼例

[受取手形てん末変更 - 条件設定]画面



● 受取手形、ファクタリング債権を検索する際の日付条件の指定方法を変更

以下のとおり変更されました。

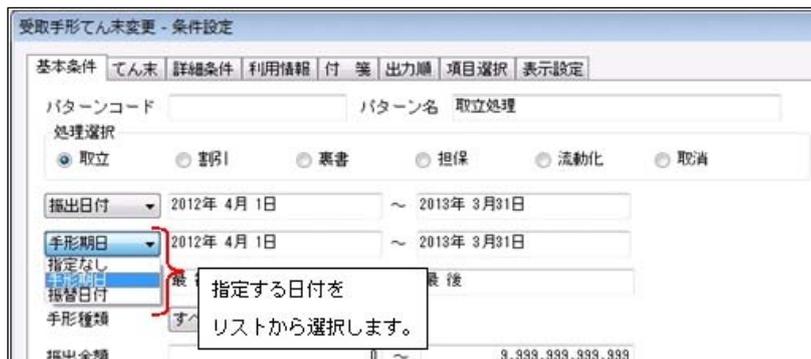
- 日付を指定するかどうかは、リストで選択するように変更
- [月範囲] ボタンを廃止
- 年月は、手入力するように変更
- 指定できる日付の制限を廃止
変更前：選択会計期間 + 前後 1 年間
変更後：1980/1/1~2079/12/31

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形一括決済]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権一括決済]メニュー

▼例

[受取手形てん末変更 - 条件設定]画面



- 受取手形、ファクタリング債権を検索する際の詳細条件で、部門の範囲指定や複数指定ができるように変更
以下のとおり変更されました。

○部門を範囲指定できるように変更

○部門、セグメント1・2、プロジェクト、サブプロジェクトの範囲を複数指定できるように変更

○各種別に属するグループ(区分)を複数指定できるように変更

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形一括決済]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権一括決済]メニュー

▼例

[受取手形てん末変更 - 条件設定]画面

検索対象	検索範囲(開始)	検索範囲(終了)	種別
部門	001	002	
部門	051	051	

- 受取手形、ファクタリング債権の備考の入力方法を変更

コード入力欄と文字入力欄に分かれました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー

▼例

[受取手形入力]画面

[↑] キー・[↓] キーを押すと、
コード入力・文字入力を切り替えられます。

● 管理帳票の機能を強化

○ 集計条件のパターン登録機能を追加

※この変更に伴い、いままでは利用者ごとに前回条件を保持していましたが、これからはパターンごとに前回条件を保持するようになりました。

このため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した集計条件が初期化されます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [回収予定表]メニュー
- ・ [入金集計表]メニュー
- ・ [債権残高一覧表]メニュー
- ・ [債権残高確認書]メニュー

▼例

[回収予定表 - パターン選択]画面

パターンコード	パターン名
1	回収予定日別予定表
2	請求先別予定表
3	回収方法別予定表
4	回収予定日別請求先別予定表
5	請求先別回収予定日別予定表
6	回収予定日別回収方法別請求先別予定表
7	請求先別回収予定日別回収方法別予定表
8	回収方法別回収予定日別請求先別予定表

○ 指定できる集計単位を追加

また、集計単位の組み合わせを指定できるように変更

※この変更に伴い、集計単位の設定方法が変更されました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [回収予定表]メニュー
- ・ [入金集計表]メニュー
- ・ [債権残高一覧表]メニュー

▼例

[回収予定表 - 条件設定]画面

○ 集計対象の絞込条件項目を追加

※この変更に伴い、絞込条件項目はリストから選択する形式に変更されました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [回収予定表]メニュー
- ・ [入金集計表]メニュー
- ・ [債権残高一覧表]メニュー

▼例

[回収予定表 - 条件設定]画面

○集計日付の制限を廃止

変更前：選択会計期間 + 前後2年間

変更後：制限なし

※[入金集計表]メニュー、[債権残高一覧表]メニューは、選択中の会計期間より後の日付は指定できません。

◀ 関連メニュー ▶

- ・[回収予定表]メニュー
- ・[入金集計表]メニュー
- ・[債権残高一覧表]メニュー

○表示基準の優先順位や、表示順(昇順/降順)を自由に設定できるように変更

※この変更に伴い、[表示設定]ページは、名称が[出力順]ページに変更され、設定方法も変更されました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・[回収予定表]メニュー
- ・[入金集計表]メニュー
- ・[債権残高一覧表]メニュー
- ・[債権残高確認書]メニュー

▼例

[回収予定表 - 条件設定]画面

並び順	集計単位	表示基準	表示順	
1	第一項目 回収予定日別	回収予定日順	昇順	古いものから
2	第二項目 回収方法別	回収方法コード順	昇順	小さいものから
3	第三項目 請求先別	請求先コード順	昇順	小さいものから
4		請求先インデックス順	昇順	小さいものから
5		請求先フリガナ順	昇順	小さいものから

○出力する項目、項目の並び順を設定できるように変更

※この変更に伴い、[項目選択]ページが追加されました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・[回収予定表]メニュー
- ・[入金集計表]メニュー
- ・[債権残高一覧表]メニュー

○表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるように変更

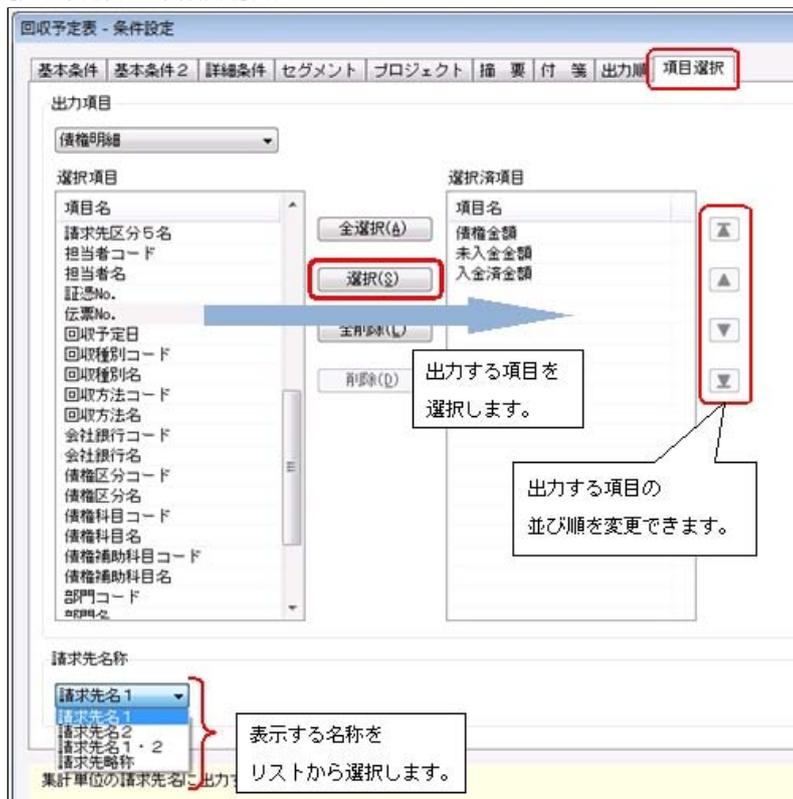
※請求先別に集計する際に、集計単位の表示に使用される請求先名です。

◀ 関連メニュー ▶

- ・[回収予定表]メニュー
- ・[入金集計表]メニュー
- ・[債権残高一覧表]メニュー

▼例

[回収予定表 - 条件設定]画面



○集計結果の画面表示で以下の変更

- ・レイアウトを表形式から階層形式に変更
- ・列の幅をマウスで調整できるように変更
- ・集計条件の表示を変更

◀ 関連メニュー ▶

- ・[回収予定表]メニュー
- ・[債権残高一覧表]メニュー

▼例

[回収予定表]画面



○印刷・転送の設定で以下の変更

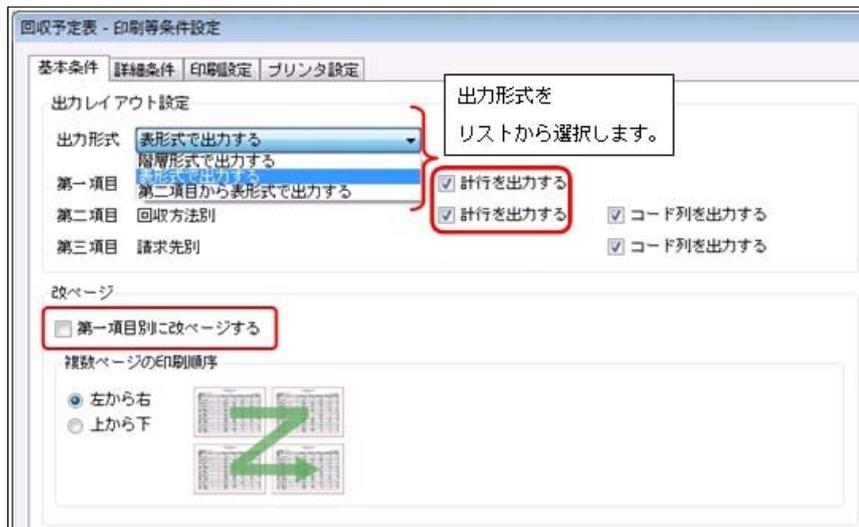
- ・階層形式のレイアウトで出力する機能を追加
- ・計行の出力設定を、[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページに移動
- ・部門以外の集計単位でも改ページできるように変更

◀ 関連メニュー ▶

- ・[回収予定表]メニュー
- ・[入金集計表]メニュー
- ・[債権残高一覧表]メニュー

▼例

[回収予定表 - 印刷等条件設定]画面



○印刷・転送で以下の変更

- ・集計条件の表示を変更
- ・帳票タイトルにはパターン名が出力されるように変更
- ・転送で、計行の出力レイアウトを変更
- ・転送で、金額は「数値」、日付は「日付」の書式で出力されるように変更

◀ 関連メニュー ▶

- ・[回収予定表]メニュー

- ・[入金集計表]メニュー
- ・[債権残高一覧表]メニュー

▼例

[回収予定表]メニュー印刷イメージ

回収予定日別回収方法別請求先別予定表					
OBソフトウェア株式会社					
【集計単位】 回収予定日別・回収方法別・請求先別					
【集計範囲】 回収予定日[指定なし]・回収方法[最初]～[最後]・請求先[最初]～[最後]・締日区分[全締日]					
回収予定日	回収方法	回収方法名	請求先コード	請求先名	債権金額
2012/1/15	0003	振込(三菱東京UFJ)	00000001	太平洋食品株式会社	5,300,000
[0003 振込(三菱東京UFJ)計]	0003	振込(三菱東京UFJ)			5,300,000
<2012/1/15計>					
2012/2/5	0003	振込(三菱東京UFJ)	00001024	株式会社大森商会	1,930,000
[0003 振込(三菱東京UFJ)計]	0003	振込(三菱東京UFJ)			1,930,000
<2012/2/5計>					

[回収予定表]メニュー転送イメージ

	A	B	C	D	E	F	G
1	パターンコード						
2	パターン名	回収予定日別回収方法別請求先別予定表					
3	会社名	OBソフトウェア株式会社(債権債務管理Pro)					
4	集計単位	回収予定日別・回収方法別・請求先別					
5	集計範囲	回収予定日[指定なし]・回収方法[最初]～[最後]・請求先[最初]～[最後]・締日区分[全締日]					
6		回収予定日	回収方法コード	回収方法名	請求先コード	請求先名1	債権金額
7		2012/1/15	0003	振込(三菱東京UFJ)	00000001	太平洋食品株式会社	5300000
8	【回収方法計】	2012/1/15	0003	振込(三菱東京UFJ)			5300000
9	【回収予定日計】	2012/1/15					5300000
10		2012/2/5	0003	振込(三菱東京UFJ)	00001024	株式会社大森商会	1930000
11	【回収方法計】	2012/2/5	0003	振込(三菱東京UFJ)			1930000
12	【回収予定日計】	2012/2/5					1930000
13		2012/2/20	0001	現金回収	00000000	株式会社岩手産業	3630000

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

債権管理 *Pro* / 債権管理オプション
< Ver.1.65/Ver.1.64/Ver.1.62 >



OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.

目次

【債権管理Proオプション、債権管理オプション】	
[債権伝票入力]メニューが部門別税区分表示機能に対応	2
[入金消込履歴]メニューの転送で、出力する債権情報を追加	2

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

債権管理Proオプション、債権管理オプション

- **[債権伝票入力]メニューが部門別税区分表示機能に対応**
平成23年度消費税法改正（平成24年4月1日以降に適用）に伴い、勘定奉行に追加された部門別税区分表示機能に、[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニューが対応しました。
[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[部門別税区分表示設定]メニューの設定が、[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニューでも有効になります。
- **《 関連メニュー 》**
 - ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[債権伝票データ受入]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行債権伝票データ受入]メニュー
- **[入金消込履歴]メニューの転送で、出力する債権情報を追加**
[債権管理]-[履歴管理]-[入金消込履歴]メニューで、「債権情報出力する（[入金消込履歴 - 印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページで設定）」にチェックを付けて転送する際に、債権伝票の以下の項目も出力されるようになりました。
 - ・ 証憑No.
 - ・ 伝票日付
 - ・ 請求日付
 - ・ 請求先コード
 - ・ 請求先名

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

債権管理 *Pro* / 債権管理オプション
< Ver.1.61 / Ver.1.60 >



OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.

変更内容一覧

【メニュー体系】
メニューの名称および構成を変更 ※詳細は、21ページをご参照ください。
【全般】
[条件設定]画面の項目の配置を変更 ※詳細は、21ページをご参照ください。
仕訳伝票の 重複チェックが「1：月度単位チェック」または「2：年度単位チェック」の場合に、各処理で作成される仕訳伝票の伝票No. も重複チェックするように変更
「0：その他」マスターの出力順序を変更 ○変更前 コード順：0, 1, 2, 3 ○変更後 コード順：1, 2, 3, 0
ジャンプに関するファンクションキーの名称の統一 ○これから作成する仕訳伝票を編集する[仕訳処理]画面へのジャンプ → [〇〇仕訳] ○作成済みの仕訳伝票を参照する[仕訳処理]画面へのジャンプ → [〇〇伝票] 【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">・ [債権管理]-[入金処理]-[仮受金処理]メニュー・ [債権管理]-[履歴管理]-[入金消込履歴]メニュー・ [債権管理]-[履歴管理]-[入金情報履歴]メニュー・ [債権管理]-[履歴管理]-[仮受金処理履歴]メニュー・ [債権管理]-[履歴管理]-[相殺消込履歴]メニュー
各履歴メニューの取消処理をする際に、仕訳伝票がすでに承認済・転記済だった場合の処理を以下のとおり変更 ○変更前 取消方法が「伝票削除」の場合でも、必ず反対仕訳を作成して取消を実行 ○変更後 取消方法が「伝票削除」の場合は、削除できない旨のメッセージを表示し、取消を実行しない (この場合は、取消方法で「反対仕訳」を選択することで取消を実行します)
以下のメニュー（帳票）について、初期値として表示するプリンタを勘定奉行の [帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるように変更 ○変更前 全項目とも、前回の印刷時に設定した内容 ○変更後 [帳票別プリンタ登録]メニューでプリンタが登録されているかによって、異なります。 <登録済みの場合> 全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容 <未登録の場合> 「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容

<p>「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容</p> <p>【関連メニュー】</p> <p>[債権債務機能設定]メニュー／[手形機能設定]メニュー／[会社銀行登録]メニュー／[会社銀行科目設定]メニュー／[債権区分登録]メニュー／[回収方法登録]メニュー／[債権残高入力]メニュー／[前受金残高入力]メニュー／[債権伝票入力]メニュー／[請求書発行]メニュー／[請求書再発行]メニュー／[請求一覧表]メニュー／[自動入金消込設定]メニュー／[受取手形入力]メニュー／[受取手形てん未変更]メニュー／[受取手形一括決済]メニュー／[ファクタリング債権入力]メニュー／[ファクタリング債権てん未変更]メニュー／[ファクタリング債権一括決済]メニュー</p>
<p>監査用のアカウント（読み取り専用アカウント）でログインしたときに、当オプションのメニューも表示されるように変更（データの閲覧と更新をするメニューは、自動的に閲覧だけに制限された状態で表示）</p>
<p>以下のマスターについて、新規登録または修正した内容を翌会計期間に反映できるように変更</p> <p>債権区分・回収方法</p>
<p>以下のマスターの会計期間ごとに保持している項目について、修正した内容を翌会計期間に反映できるように変更</p> <p>商品・取引先</p>
<p>【導入処理】</p>
<p>《債権債務運用設定》</p>
<p>相殺伝票設定は、入金伝票設定とは分離して、[債権債務運用設定]メニューの[相殺基本設定]ページで設定するように変更</p>
<p>《債権債務機能設定》</p>
<p>[債権管理]ページ・[債務管理]ページを追加</p> <p>ページを追加することで、『債権管理Proオプション』+『債務管理Proオプション』の組み合わせ、『債権管理オプション』+『債務管理オプション』の組み合わせでお使いの場合に、設定が混在して煩雑になるのを防止</p> <p>ページの名称も一部変更</p> <p>[基本仕訳設定]ページ→[科目設定]ページ</p> <p>[請求支払設定]ページ→[請求仕訳設定]ページ</p> <p>→[支払仕訳設定]ページ</p>
<p>選択項目の入力方法を、ラジオボタンで選択する方法から、数字を入力して選択する方法に変更</p>
<p>[債権管理]-[伝票設定]ページに、「伝票修正時の再付番」を追加</p> <p>「1：する」に設定すると、伝票日付や伝票区分を修正した際に、付番方法や付番基準をもとに伝票の伝票No.を再付番可能</p>
<p>[債権管理]-[伝票設定]ページの「消費税差金」-「部門」および「手数料」-「部門」の選択肢の名称を変更</p> <p>「1：回収方法」→「1：入金明細」</p>
<p>《手形機能設定》</p>
<p>[受取手形処理]ページ・[支払手形処理]ページ・[ファクタリング債権処理]ページ・[ファクタリング債務処理]ページを追加</p> <p>ページを追加することで、『債権管理Proオプション』+『債務管理Proオプション』の組み合わせ、『債権管理オプション』+『債務管理オプション』の組み合わせでお使いの場合に、設定が混在して煩雑になるのを防止</p>

選択項目の入力方法を、ラジオボタンで選択する方法から、数字を入力して選択する方法に変更
手形の返却時に仕訳伝票を作成するかの設定を追加 【設定箇所】 [受取手形処理]-[てん末仕訳設定]ページの【返却】の「てん末処理仕訳」
《会社銀行登録》
預金種目に「4：貯蓄預金」を設定できないように変更
《会社銀行科目設定》
割引限度額適用日付の「年」を4桁に変更
《商品登録》
商品を新規登録または修正した場合に、その内容を翌会計期間に反映できるように変更 債権区分
《回収方法登録》
入金管理せずに、てん末管理だけをする受取手形・ファクタリング債権の設定（「てん末管理のみ行う」チェックボックス）を追加
回収種別が「3：手形」「6：ファクタリング・期日現金」の場合の貸方科目として、すべての勘定科目を設定できるように変更
《取引先登録》
取引先を新規登録または修正した場合に、その内容を翌会計期間に反映できるように変更 取引先名（取引先名1、取引先名2、取引先名カナ）・回収方法・分割回収方法
勘定奉行に取引先区分別の集計機能が追加されたことに伴い、入力項目に取引先区分を追加
《債権残高入力》
債権残高伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権残高入力 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更
債権残高伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権残高入力 - 条件設定]画面の[登録情報]ページ）で、検索条件として、入金状態（未入金・一部入金・入金済）を複数指定できるように変更
債権残高伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権残高入力 - 条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加 ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「取引先グループコード順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」「回収予定日順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能
入力作業の効率化を図るため、矢印キーによるカーソルの移動を一部変更
消込メニューや履歴メニューの検索条件や、他のアプリケーションに貼り付けて使用できるように、請求先コードをクリップボードにコピーする機能を追加
伝票日付・伝票No.・商品など、残高入力では使用しない項目を無効化ではなく表示しないように変更
《前受金残高入力》
前受金残高を検索する際の集計範囲（[前受金残高入力 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更
当メニューでの転送を廃止 転送は、[前受金残高データ作成]メニューで実行

<p>《承認権限登録》</p>
<p>入金伝票から独立して、相殺伝票に対して承認権限を設定できるように機能を追加</p>
<p>【債権管理】</p>
<p>《債権伝票入力》</p>
<p>勘定奉行の部門権限に準拠する場合に制限される処理内容を変更 ※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。</p>
<p>伝票日付や伝票区分を修正した際に、付番方法や付番基準をもとに債権伝票を再付番できるよう変更 【設定箇所】 [債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[伝票設定]ページの「伝票修正時の再付番」</p>
<p>債権伝票を修正した際に、仕訳伝票No. 指定の設定をもとに仕訳伝票の伝票No. も修正するように変更 【設定箇所】 [債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[伝票設定]ページの「仕訳伝票No. 指定」</p>
<p>仕訳伝票の重複チェックが「1：月度単位チェック」または「2：年度単位チェック」の場合に、債権伝票から作成する仕訳伝票の伝票No. も重複チェックするように変更</p>
<p>[科目別マスター入力設定]メニューで自動表示する部門が設定されている場合は、債権伝票の入力時にもその設定内容が有効になるように変更 また、この変更にともない、部門コード欄が空欄のまま [Enter] キーが押された場合に「0：その他」部門が自動表示されないように変更</p>
<p>カーソル移動を短縮できる項目を追加 また、カーソル移動を短縮する項目の設定方法を変更 【設定箇所】 [債権伝票入力 - 設定]画面の[移動設定]ページの「短縮設定」</p>
<p>債権伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権伝票入力 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更</p>
<p>[債権伝票入力]画面から、作成された仕訳伝票にジャンプできる機能を追加 ※債権伝票を表示させた状態で、一度 [Ctrl] キーを押し、[仕訳伝票]（[F6]キー）を押すとジャンプできます。</p>
<p>単票債権伝票の印刷で、以下の情報を印刷できるように変更 プロジェクト・サブプロジェクト セグメント1・セグメント2</p>
<p>仕訳伝票摘要指定が「1：伝票No. +摘要」の場合に、仕訳伝票にセットされる摘要を以下のように変更 ○変更前 「債権伝票 伝票No. 000001」 ○変更後 「債権伝票No. 000001」 【設定箇所】 [債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[伝票設定]ページの「仕訳伝票摘要指定」</p>
<p>請求日付を修正した際に、回収予定日を再計算するように変更</p>
<p>取引先の名称表示欄のレイアウトを変更 ・取引先コード桁数が10桁以下と11桁以上の時で請求先コード入力欄の幅を変更 ・締日を表示する欄の幅を短く変更</p>

<p>債権伝票を入力する際に、勘定科目・補助科目のコード欄に[Enter]キーでカーソルを移動できるように変更</p> <p>※移動するには、[債権伝票入力 - 設定]画面の[移動設定]ページで短縮しない項目に設定する必要があります。</p>
<p>各入力項目のコード欄で最大桁まで入力した場合に、自動的に次の項目に移動させるか、[Enter]キーを押してから移動させるのかを選択できる機能を追加</p> <p>【設定箇所】 [債権伝票入力 - 設定]画面の[移動設定]ページの「コード最大入力時の移動機能」</p>
<p>日付欄に移動した際のカーソルの位置を、「年」「月」「日」から選択できる機能を追加</p> <p>【設定箇所】 [債権伝票入力 - 設定]画面の[移動設定]ページの「カーソル初期位置」</p>
<p>参照明細区分が「2：値引」の債権区分が入力された場合は、金額欄に自動でマイナス符号を表示するように変更</p>
<p>部門が登録されていない場合は、債権伝票の部門欄が表示されないように変更</p>
<p>ファンクションボタンの名称を一部変更</p> <p>[伝発行]（[F 2]キー）→ [印刷] [反対仕]（[F 8]キー）→ [反対仕訳] [取引先情報]（[F 11]キー）→ [請求先情報]</p>
<p>[仕訳処理]メニューと操作性が同様になるように、ファンクションキーの配置を変更できる機能を追加</p> <p>【設定箇所】 [債権伝票入力 - 設定]画面の[運用設定]ページの「ファンクションキーの配置」</p>
<p>債権伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権伝票入力 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ）に、「消費税金額」を追加</p>
<p>債権伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権伝票入力 - 条件設定]画面の[登録情報]ページ）で、検索条件として、入金状態（未入金・一部入金・入金済）を複数指定できるように変更</p>
<p>承認した利用者、承認した処理日時で検索できるように、債権伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権伝票入力 - 条件設定]画面の[利用情報]ページ）に、処理内容として「1次承認」「最終承認」を追加</p>
<p>債権伝票を入力する際に、請求先コードが未入力の場合は、担当者・回収予定日・回収方法にカーソルが移動しないように変更</p>
<p>すでに摘要が入力されている摘要欄に移動した際に、[仕訳処理]メニューと同様に、摘要の文字の先頭にカーソルを合わせるように変更</p>
<p>「消費税合計」（[債権伝票入力]画面の右下）を、請求締処理の利用有無が「0：利用しない」の場合も表示するように変更</p> <p>【設定箇所】 [債権債務運用設定]メニューの[債権管理]-[請求支払設定]ページの「請求締処理の利用有無」</p>
<p>入力作業の効率化を図るため、矢印キーによるカーソルの移動を一部変更</p>
<p>摘要コードを指定した際に、入力済みの摘要を削除して追加するか、入力済みの摘要の後ろに追加するかを選択できる機能を追加</p> <p>【設定箇所】 [債権伝票入力-設定]画面の[運用設定]ページの「摘要内容の追加方法」</p>
<p>文字を入力する欄で、Windowsの日本語IMEの「初期入力モード」が反映するように変更</p>

<p>摘要が、入力時も参照時も同様に「21文字」で折り返されるように変更</p>
<p>請求日付に請求書発行済みの期間を入力した場合でも、カーソルが移動するように変更</p>
<p>仕訳伝票が承認済・転記済の債権伝票を修正・削除する際に、作成する反対仕訳の内容（伝票No.・伝票日付・整理区分・伝票区分）を指定できるように変更</p>
<p>債権伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権伝票入力 - 条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「取引先グループコード順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」「回収予定日順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能
<p>債権伝票を検索する際の検索条件設定画面（[債権伝票入力 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ）で、請求日付・回収予定日に会計期間外の日付を指定できるように変更 また、過去年度の伝票をすべて検索できるように変更</p>
<p>印刷対象として、「発行後に修正した伝票」を指定できるように変更 この変更にともない、選択肢をリストから選択する形式に変更 【設定箇所】 [債権伝票入力 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの「発行済印刷伝票設定」</p>
<p>納品書・請求書を印刷する際のフォームの指定方法を変更 ※納品書・請求書を印刷する際は、[債権伝票入力-印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの「印刷形式」で「納品書」を選択し、「納品書フォーム」でフォームを指定します。</p>
<p>単票債権伝票の印刷で、整理区分の印字方法を変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ○変更前 発行日の右側に「戻」または「整」 ○変更後 発行日の右側に「振戻仕訳」または「整理仕訳」
<p>納品書および請求書の印刷レイアウトを変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・請求先の住所および名称をヘッダーの左側にだけ印字するように変更（文字数が多い場合は縮小して表示） ・請求先の情報が印字されていたヘッダーの右側に、差出名を印字するように変更 ・担当者名の左側に「担当者：」と項目名を印字するように変更 ・印鑑欄の枠のサイズを拡大 ・基本のフォントサイズをこれまでより大きく「9」に変更 ・上段と下段（控と控ではない方）が、切り取り線で切った時にちょうど重なるように印字位置を調整 ・切り取り線を実線から点線に変更
<p>単票債権伝票の印刷で、空白行を印刷するように変更</p>
<p>[債権伝票入力 - 印刷条件設定]画面の項目の配置を変更</p>
<p>納品書・請求書のタイトルをそれぞれ指定できるように変更 【設定箇所】 [債権伝票入力 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページの「用紙タイトル」</p>
<p>前年度の伝票を出力した場合は、仕訳伝票と同様に、部門やセグメントなど、年度別にコードや名称を保持しているマスターは前年度の情報で出力するように変更</p>
<p>消込メニューや履歴メニューの検索条件や、他のアプリケーションに貼り付けて使用できるように、請求先コード・証憑No.・伝票No.をクリップボードにコピーする機能を追加</p>

《債権伝票承認》

以下の利用者也、当メニューを起動できるように変更

- ・承認権限は付与されていないが、「参照」以上のメニュー権限が1つでも設定されている利用者

仕訳伝票摘要指定が「1：伝票No.+摘要」の場合に、仕訳伝票にセットされる摘要を以下のように変更。

○変更前

「債権伝票 伝票No. 000001」

○変更後

「債権伝票No. 000001」

【設定箇所】

[債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[伝票設定]ページの「仕訳伝票摘要指定」

《債権データ抽出》

債権データ抽出をする際に作成される債権伝票の伝票No. を任意に設定できるように変更

※債権データ抽出を実行すると、[伝票作成設定]画面が表示され、債権伝票の伝票No. を設定できます。

債権データ抽出をする際の検索条件([債権データ抽出 - 条件設定]画面の[基本条件]ページ)で、入金状態(未入金・一部入金・入金済)を複数指定できるように変更

債権データ抽出をする際の検索条件([債権データ抽出 - 条件設定]画面の[詳細設定]ページ)に、補助科目(債権科目側)を追加

《請求書発行》

会計期間をまたぐ請求期間で請求書を発行できるように機能を追加

相殺処理・振替処理を行っている場合の、回収予定金額の集計方法を変更

▼例

請求期間

- ・2011/4/1~2011/4/30 分割基準 3,000

債権の発生日付

- ・2011/4/10 10,000

相殺日付

- ・2011/4/20 1,000

債権の発生日付と、相殺日付が同一締期間(2011/4/1~2011/4/30)に含まれている。

<結果>

○変更前

分割対象金額 10,000

回収予定1 3,000 (入金済み 1,000)

回収予定2 7,000

○変更後

分割対象金額 10,000-1,000 = 9,000

(債権の発生金額 - 相殺消込された金額)

回収予定1 3,000

回収予定2 6,000

請求期間をチェックする機能を追加

指定した締日区分と請求期間の指定日が一致しているかを確認し、一致していない場合は警告メッセージを表示

<p>請求書の回収方法項目に回収方法名を表示するように変更</p> <p>○変更前 単票明細請求書 「会社銀行の情報」</p> <p>○変更後 単票明細請求書 「手形の支払」 + 「会社銀行の情報」</p>
<p>回収予定確定基準が「0：請求書単位」の場合は、相殺処理・振替処理の金額を印字するように変更</p>
<p>単票伝票請求書の入金情報行の備考に、回収方法の情報を印字するように変更</p>
<p>回収予定確定基準が「0：請求書単位」で分割回収する場合の、御支払期日の印字方法を変更</p> <p>○変更前 1つ目の回収予定日を印字する</p> <p>○変更後 2つの回収予定日が異なる場合は印字しない</p>
<p>請求書の合計行の前の空白行を1行に変更</p>
<p>[請求書発行 - 出力項目]画面の設定項目の名称を変更</p> <p>「納品書上の合計金額」 → 「伝票計」 「納品書上の注文No.」 → 「注文No.」 「納品書上の回収方法情報」 → 「回収方法情報」 「納品書上の取引先情報」 → 「取引先情報」</p>
<p>[請求書発行 - 条件設定]画面の[出力設定]ページの設定項目の名称を変更</p> <p>「開始請求No.」 → 「請求No.」</p>
<p>[請求書発行 - 条件設定]画面の[基本設定]ページの集計範囲詳細について、範囲指定されたコードは前回条件を保持しないように変更</p>
<p>消費税自動計算が「しない」で、消費税を別段で入力している場合も、消費税一括伝票を作成する際の計算対象にするように変更</p> <p>▼例</p> <p>以下の債権が登録されている場合 10000円（消費税自動計算が「しない」） 300円（消費税商品）</p> <p><結果></p> <p>○変更前 外税消費税 300円 一括消費税 500円</p> <p>○変更後 外税消費税 300円 一括消費税 200円</p>
<p>請求No.の付番方法を変更</p> <p>○変更前 A-999 → A-001</p> <p>○変更後 A-999 → A-1000</p>
<p>画面表示で、西暦の場合の日付の「年」を4桁に変更 （印刷は変更なし）</p>
<p>手形を返却した場合の入金額の計上方法を変更</p>

<p>▼例</p> <p>4/10 債権伝票 10,000</p> <p>↓</p> <p>4月分の締処理を実行</p> <p>↓</p> <p>5/25 手形で入金 10,000</p> <p>↓</p> <p>5月分の締処理を実行</p> <p>↓</p> <p>6/25日に手形の返却</p> <p>6月分の締処理の結果</p> <p>○変更前 入金額に-10,000を計上(手形の返却分をマイナス計上)</p> <p>○変更後 入金額は0のまま(手形の返却分は計上しない)</p>
<p>取引先で改ページ([請求書発行 - 出力項目]画面の[明細請求書・伝票請求書])の設定は、取引先グループ単位で印刷する場合だけ有効になるように変更</p>
<p>消費税一括税額について、税区分ごとに明細を分けて消費税伝票を作成する機能を追加</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[請求書発行 - 条件設定]画面の[詳細設定]ページの「税区分別に明細を分ける」</p> <p>※この機能は、Ver. 1.61で追加されました。</p>
<p>≪請求書再発行≫</p>
<p>請求書の回収方法項目に回収方法名を表示するように変更</p> <p>○変更前 単票明細請求書 「会社銀行の情報」</p> <p>○変更後 単票明細請求書 「手形の支払」 + 「会社銀行の情報」</p>
<p>回収予定確定基準が「0：請求書単位」の場合は、相殺処理・振替処理の金額を印字するように変更</p>
<p>単票伝票請求書の入金情報行の備考に、回収方法の情報を印字するように変更</p>
<p>回収予定確定基準が「0：請求書単位」で分割回収する場合の、御支払期日の印字方法を変更</p> <p>○変更前 1つ目の回収予定日を印字する</p> <p>○変更後 2つの回収予定日が異なる場合は印字しない</p>
<p>請求書の合計行の前の空白行を1行に変更</p>
<p>[請求書再発行 - 出力項目]画面の設定項目の名称を変更</p> <p>「納品書上の合計金額」 → 「伝票計」</p> <p>「納品書上の注文No.」 → 「注文No.」</p> <p>「納品書上の回収方法情報」 → 「回収方法情報」</p> <p>「納品書上の取引先情報」 → 「取引先情報」</p>
<p>取引先で改ページ([請求書再発行 - 出力項目]画面の[明細請求書・伝票請求書])の設定は、取引先グループ単位で印刷する場合だけ有効になるように変更</p>
<p>≪請求一覧表≫</p>

請求先出力（[請求一覧表 - 条件設定]画面の[基本設定]ページ）で、請求先の名称を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1+請求先名2」「請求先略称」から選択できるように変更
画面表示で、合計行の表示を最上行から最下行に変更 （画面表示と印刷で相違があったため、統一）
転送で、Excelに出力する際、すべて「文字列」になっていたデータの属性を、金額は「数値」、処理日は「日付」に変更
印刷する際の条件を設定する画面（[請求一覧表 - 印刷等条件設定]画面）が追加され、[請求一覧 - 条件設定]画面の[印刷設定]ページ・[プリンタ設定]ページで設定していた内容を[請求一覧表 - 印刷等条件設定]画面に移動
請求書を取引先グループ単位で発行し、優先表示以外の取引先を表示する場合、実際に請求を行っていない優先表示以外の取引先の金額欄は空欄にするように変更 （転送で出力されるデータは、外部への影響度を考慮して変更なし）
《請求締取消》
請求締取消を実行する際に、消費税伝票を削除しない設定を追加 【設定箇所】 [請求締取消 - 条件設定]画面の[詳細設定]ページの「消費税伝票を削除する」チェックボックス （会計期間をまたぐ請求期間で請求書が発行する際に、会計期間ごとに消費税伝票を作成する場合はチェックを外します）
《締単位入金消込》
請求情報の絞り込みの条件として、請求日付ではなく請求締日を指定するように変更
回収予定確定基準が「0：請求書単位」で分割回収の場合、[個別入金消込]画面にジャンプして消込をする際の消込金額の制限を変更 ○変更前 請求情報の未入金金額による制限はなし ○変更後 [締単位入金消込]画面でフォーカスがある請求情報の未入金金額以内
回収予定確定基準が「0：請求書単位」で分割回収の場合、[個別入金消込]画面にジャンプして消込をした際に消込済みになる請求情報の優先順を変更 ○変更前 必ず、請求書前半＞請求書後半 ○変更後 [締単位入金消込]画面でフォーカスがある請求情報
相殺処理・振替処理を行っている場合の、回収予定金額の集計方法を変更 ※詳細は、[請求書発行]メニューの「相殺処理・振替処理を行っている場合の、回収予定金額の集計方法を変更。」をご参照ください。
「3：非連結」の入金情報で入金消込をする際は、「消込日付」に非連結入金の日付より前の日付を指定できないように変更
《一括入金消込》
回収予定確定基準が「0：請求書単位」で分割回収をしている場合に、回収予定日の表示で優先する回収予定を「回収予定日」「分割回収予定日」から選択できるように変更 【設定箇所】 [一括入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定2]ページの「分割予定表示」
絞り込みの条件として伝票日付を指定するかを選択できるようにし、初期値では伝票日付で

<p>の絞り込みが行われないように変更</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[一括入金消込 - 条件設定]画面の[基本条件]ページの「伝票日付を指定する」</p>
<p>未入金金額よりマイナス債権金額の方が多い場合のチェックのタイミングを変更</p> <p>○変更前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [自動消込] ([F7]キー) を押したとき ・ [実行] ([F2]キー) を押したとき <p>○変更後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消し込む明細にチェックを付けたとき ・ [全選択] ([F5]キー) を押したとき
<p>《個別入金消込》</p>
<p>債権明細に、以下の情報を出力できるように変更。表示順にも追加</p> <p>セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト</p>
<p>[個別入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定2]ページについて、名称を[出力順]ページに変更し、表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能を追加</p>
<p>回収予定確定基準が「0：請求書単位」で分割回収をしている場合に、表示する回収予定を「回収予定日」「分割回収予定日」「回収予定日と分割回収予定日」から選択できるように変更</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[個別入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定2]ページの「分割予定表示」</p>
<p>《入金消込修正》</p>
<p>[締単位入金消込]画面から[個別入金消込]画面にジャンプして消し込まれた場合の消込区分の表示を変更</p> <p>○変更前</p> <p>「通」</p> <p>○変更後</p> <p>「締」</p>
<p>《入金消込承認》</p>
<p>以下の利用者也、当メニューを起動できるように変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承認権限は付与されていないが、「参照」以上のメニュー権限が1つでも設定されている利用者
<p>[締単位入金消込]画面⇒[個別入金消込]画面⇒[前受金消込]画面とジャンプして消し込まれた場合の消込区分の表示を変更</p> <p>○変更前</p> <p>「通」</p> <p>○変更後</p> <p>「締」</p>
<p>《前受金消込》</p>
<p>債権明細に、以下の情報を出力できるように変更</p> <p>表示順にも追加</p> <p>セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト</p>
<p>[前受金消込 - 条件設定]画面の[表示設定2]ページについて、名称を[出力順]ページに変更し、表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能を追加</p>
<p>回収予定確定基準が「0：請求書単位」で分割回収をしている場合に、表示する回収予定を「回収予定日」「分割回収予定日」「回収予定日と分割回収予定日」から選択できるように</p>

<p>変更</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[前受金消込 - 条件設定]画面の[表示設定2]ページの「分割予定表示」</p>
<p>《前受金消込修正》</p>
<p>[締単位入金消込]画面から[前受金消込]画面にジャンプして消しまれた場合の消込区分の表示を変更</p> <p>○変更前 「通」</p> <p>○変更後 「締」</p>
<p>《一括相殺消込》</p>
<p>債権側だけではなく、債務側の部門権限に準拠するように変更</p> <p>※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。</p> <p>【関連メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [債権管理]-[相殺処理]-[個別相殺消込]メニュー ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込修正]メニュー ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込承認]メニュー ・ [債権管理]-[相殺処理]-[債権振替相殺処理]メニュー ・ [債権管理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニュー ・ [債権管理]-[履歴管理]-[相殺消込履歴]メニュー
<p>《相殺消込承認》</p>
<p>以下の利用者也、当メニューを起動できるように変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 承認権限は付与されていないが、「参照」以上のメニュー権限が1つでも設定されている利用者
<p>《受取手形入力》</p>
<p>[受取手形入力]画面から、作成された仕訳伝票を確認できる機能を追加</p> <p>※受取手形を表示させた状態で[仕訳履歴]([F8]キー)を押すと、[受取手形入力 - 仕訳履歴]画面で仕訳伝票を確認できます。</p>
<p>登録済みの受取手形を複写する機能を追加</p>
<p>入金管理せずに、てん末管理だけをする受取手形を登録できる機能を追加</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[回収方法登録]メニューの[基本]ページの「てん末管理のみ行う」</p>
<p>[受取手形入力]画面の入力項目の配置を変更</p> <p>てん末変更を行う上で必要な情報をヘッダー項目に配置</p>
<p>受取手形の返却に関する機能を変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入金情報を作成している受取手形を返却する際に入金承認・入金消込を取り消す機能を廃止 ・ 返却のてん末処理仕訳を作成できる機能を追加 <p>【設定箇所】</p> <p>[手形機能設定]メニューの[受取手形処理]-[てん末仕訳設定]の【返却】の「てん末処理仕訳」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ てん末を「返却」に変更しても取消できるように変更
<p>『債務管理Proオプション』『債務管理オプション』『支払管理オプション』をお使いの場合も、裏書のてん末処理仕訳を作成できるように変更</p> <p>【設定箇所】</p>

[手形機能設定]メニューの[受取手形処理]-[てん末仕訳設定]の【裏書】の「てん末処理仕訳」
仕訳伝票の付番方法が「2：手入力」の場合は、受取手形を登録する際に[受取手形入力 - 伝票No. 入力]画面で仕訳伝票の伝票No. を入力するように変更
仕訳伝票の重複チェックが「1：月度単位チェック」または「2：年度単位チェック」の場合に、受取手形から作成する仕訳伝票の伝票No. も重複チェックするように変更
[仕訳処理]メニューと操作性が同様になるように、ファンクションキーの配置を変更
受取手形の状況（「入金情報作成済み」「入金承認済み」「領収証作成済み」）をヘッダーで確認できるように変更
勘定奉行の部門権限に準拠する場合に制限される処理内容を変更 ※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。
受取手形を検索する際の検索条件設定画面（[受取手形入力 - 条件設定]画面）に[てん末]ページ・[付箋]ページが追加され、てん末異動日付や付箋で検索できる機能を追加 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した検索条件が初期化されます。
受取手形を検索する際の検索条件設定画面（[受取手形入力 - 条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加 ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「振出日付順」「振替日付順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。
受取手形の以下の項目を修正した場合に、以前は、登録済みの手許のてん末処理仕訳について、手形明細にだけその変更内容を反映させていましたが、貸借両方に変更を反映するように変更 請求先・部門・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト
連続裏書人の情報は、[受取手形入力]画面に追加された[連続裏書人]ページで入力するように変更
会計期首から伝票入力開始日までの期間でも、受取手形の登録やてん末変更ができるように変更
受取手形の転送で、コードと名称が、Excel上の別のセルに出力されるように変更
割引料の桁数を、5桁から13桁に変更
《受取手形てん末変更》
複数のパターンの集計条件を保持できるように変更 あらかじめ、てん末ごとにパターンを用意
[受取手形てん末変更]画面の項目の配置を変更 また、[受取手形てん末変更 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで、表示する項目・項目の並び順を設定できるように変更
業務の効率を考慮し、てん末の取消も、当メニューで行うように変更
以下の項目を、[受取手形てん末変更]画面に表示できるように変更。 請求先コード・請求先名1・請求先名2・請求先略称・部門・郵送料・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト・付箋
複数のてん末をまとめて取り消しできるように変更

異動先のてん末を、[受取手形てん末変更 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで選択するように変更
[受取手形てん末変更 - 条件設定]画面に[利用情報]ページ・[付箋]ページが追加され、処理日時や付箋で検索できる機能を追加 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した検索条件が初期化されます。
[受取手形てん末変更 - 条件設定]画面に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加 ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「登録順」「振出日付順」「振替日付順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。
初期表示するてん末異動日付として、「システム日付」だけでなく「前回利用日付」を選択できるように変更 【設定箇所】 [受取手形てん末変更 - 条件設定]画面に[表示設定]ページの「てん末異動日付」
[受取手形てん末変更]画面から[受取手形入力]画面にジャンプできるように変更 ※[ジャンプ]（[F6]キー）を押すとジャンプできます。
会計期首から伝票入力開始日までの期間でも、受取手形のてん末変更ができるように変更
仕訳伝票の付番方法が「0：月度連番」または「1：年度連番」で、システム自動付番が「0：使用しない」の場合は、作成するてん末処理仕訳の伝票No.の付番方法を指定できるように変更
『債務管理Proオプション』『債務管理オプション』『支払管理オプション』をお使いの場合も、裏書仕訳を作成できるように変更
[仕訳処理]メニューと操作性が同様になるように、ファンクションキーの配置を変更
受取手形てん末変更の転送で、コードと名称が、Excel上の別のセルに出力されるように変更
割引料の桁数を、5桁から13桁に変更
《受取手形一括決済》
複数のパターンの集計条件を保持できるように変更
[受取手形一括決済]画面の項目の配置を変更 また、[受取手形一括決済 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで、表示する項目・項目の並び順を設定できるように変更
業務の効率を考慮し、決済の取消も、当メニューで行うように変更
以下の項目を、[受取手形一括決済]画面に表示できるように変更 請求先コード・請求先名1・請求先名2・請求先略称・部門・郵送料・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト・付箋
[受取手形一括決済 - 条件設定]画面に[利用情報]ページ・[付箋]ページが追加され、処理日時や付箋で検索できる機能を追加 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した検索条件が初期化されます。
[受取手形一括決済 - 条件設定]画面に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加 ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「登録順」「振出日付順」「振替日付順」「請求先コード順」「請求先フリガ

<p>ナ順」「請求先インデックス順」</p> <p>○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能</p> <p>※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。</p>
<p>[受取手形一括決済]画面から[受取手形入力]画面にジャンプできるように変更</p> <p>※[ジャンプ]（[F6]キー）を押すとジャンプできます。</p>
<p>仕訳伝票の付番方法が「0：月度連番」または「1：年度連番」で、システム自動付番が「0：使用しない」の場合は、作成する決済処理仕訳の伝票No.の付番方法を指定できるように変更</p>
<p>[仕訳処理]メニューと操作性が同様になるように、ファンクションキーの配置を変更</p>
<p>受取手形一括決済の転送で、コードと名称が、Excel上の別のセルに出力されるように変更</p>
<p>《ファクタリング債権入力》</p>
<p>[ファクタリング債権入力]画面の入力項目の配置を変更</p> <p>てん末変更を行う上で必要な情報をヘッダー項目に配置</p> <p>一部割引・裏書後の差引譲渡残高をヘッダー項目に追加、一部割引・裏書履歴をリストに表示</p>
<p>[ファクタリング債権入力]画面から、作成された仕訳伝票を確認できる機能を追加</p> <p>※ファクタリング債権を表示させた状態で[仕訳履歴]（[F8]キー）を押すと、[ファクタリング債権入力 - 仕訳履歴]画面で仕訳伝票を確認できます。</p>
<p>登録済みのファクタリング債権を複写する機能を追加</p>
<p>入金管理せずに、てん末管理だけをするファクタリング債権を登録できる機能を追加</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[回収方法登録]メニューの[基本]ページの「てん末管理のみ行う」</p>
<p>ファクタリング債権の返却に関する機能を変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入金情報を作成しているファクタリング債権を返却する際に入金承認・入金消込を取り消す機能を廃止 ・返却のてん末処理仕訳を作成できる機能を追加 <p>【設定箇所】</p> <p>[手形機能設定]メニューの[ファクタリング債権処理]-[ファクタリング仕訳設定]または[期日現金仕訳設定]の返却の「てん末処理仕訳」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てん末を「返却」に変更しても取消できるように変更
<p>[仕訳処理]メニューと操作性が同様になるように、ファンクションキーの配置を変更</p>
<p>仕訳伝票の付番方法が「2：手入力」の場合は、ファクタリング債権を登録する際に[ファクタリング債権 - 伝票No. 入力]画面で仕訳伝票の伝票No.を入力するように変更</p>
<p>仕訳伝票の重複チェックが「1：月度単位チェック」または「2：年度単位チェック」の場合に、ファクタリング債権から作成する仕訳伝票の伝票No.も重複チェックするように変更</p>
<p>ファクタリング債権の状況（「入金情報作成済み」「入金承認済み」）をヘッダーで確認できるように変更</p>
<p>勘定奉行の部門権限に準拠する場合に制限される処理内容を変更</p> <p>※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。</p>
<p>ファクタリング債権を検索する際の検索条件設定画面（[ファクタリング債権入力 - 条件設定]画面）に[てん末]ページ・[付箋]ページが追加され、てん末利用日付や付箋で検索できる機能を追加</p> <p>※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した検索条件が初期化されます。</p>

<p>ファクタリング債権を検索する際の検索条件設定画面（[ファクタリング債権入力 - 条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「譲渡承諾日付順」「振替日付順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」「ファクタリング会社コード順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能 <p>※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。</p>
<p>ファクタリング債権の以下の項目を修正した場合に、以前は、登録済みの手許のてん末処理仕訳について、ファクタリング債権明細にだけその変更内容を反映させていましたが、貸借両方に変更を反映するように変更</p> <p>請求先・部門・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト</p>
<p>会計期首から伝票入力開始日までの期間でも、ファクタリング債権の登録やてん末変更ができるように変更</p>
<p>ファクタリング債権の転送で、コードと名称が、Excel上の別のセルに出力されるように変更</p>
<p>割引料の桁数を、5桁から13桁に変更</p>
<p>《ファクタリング債権てん末変更》</p>
<p>複数のパターンの集計条件を保持できるように変更</p> <p>あらかじめ、てん末ごとにパターンを用意</p>
<p>[ファクタリング債権てん末変更]画面の項目の配置を変更</p> <p>また、[ファクタリング債権てん末変更 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで、表示する項目・項目の並び順を設定できるように変更</p>
<p>業務の効率を考慮し、てん末の取消も、当メニューで行うように変更</p>
<p>以下の項目を、[ファクタリング債権てん末変更]画面に表示できるように変更</p> <p>請求先名2・請求先略称・部門・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト・付箋</p>
<p>複数のてん末をまとめて取り消しできるように変更</p>
<p>異動先のてん末を、[ファクタリング債権てん末変更 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで選択するように変更</p>
<p>[ファクタリング債権てん末変更 - 条件設定]画面に[利用情報]ページ・[付箋]ページが追加され、処理日時や付箋で検索できる機能を追加</p> <p>※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した検索条件が初期化されます。</p>
<p>[ファクタリング債権てん末変更 - 条件設定]画面に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「登録順」「通知日付順」「振替日付順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」「ファクタリング会社コード順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能 <p>※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。</p>
<p>初期表示するてん末利用日付として、「システム日付」だけでなく「前回利用日付」を選択できるように変更</p> <p>【設定箇所】</p>

[ファクタリング債権てん末変更 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「てん末利用日付」
[ファクタリング債権てん末変更]画面から[ファクタリング債権入力]画面にジャンプできるように変更 ※[ジャンプ]（[F6]キー）を押すとジャンプできます。
仕訳伝票の付番方法が「0：月度連番」または「1：年度連番」で、システム自動付番が「0：使用しない」の場合は、作成するてん末処理仕訳の伝票No.の付番方法を指定できるように変更
[仕訳処理]メニューと操作性が同様になるように、ファンクションキーの配置を変更
会計期首から伝票入力開始日までの期間でも、ファクタリング債権のてん末変更ができるように変更
受取手形てん末変更の転送で、コードと名称が、Excel上の別のセルに出力されるように変更
割引料の桁数を、5桁から13桁に変更
《ファクタリング債権一括決済》
複数のパターンの集計条件を保持できるように変更
[ファクタリング債権一括決済]画面の項目の配置を変更 また、[ファクタリング債権一括決済 - 条件設定]画面の[項目選択]ページで、表示する項目・項目の並び順を設定できるように変更
業務の効率を考慮し、てん末の取消も、当メニューで行うように変更
以下の項目を、[ファクタリング債権一括決済]画面に表示できるように変更 請求先コード・請求先名1・請求先名2・請求先略称・部門・郵送料・セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト・付箋
[ファクタリング債権一括決済 - 条件設定]画面に[利用情報]ページ・[付箋]ページが追加され、処理日時や付箋で検索できる機能を追加 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した検索条件が初期化されます。
[ファクタリング債権一括決済 - 条件設定]画面に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加 ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「登録順」「譲渡承諾日付順」「振替日付順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」「ファクタリング会社コード順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した並び順が初期化されます。
[ファクタリング債権一括決済]画面から[ファクタリング債権入力]画面にジャンプできるように変更 ※[ジャンプ]（[F6]キー）を押すとジャンプできます。
仕訳伝票の付番方法が「0：月度連番」または「1：年度連番」で、システム自動付番が「0：使用しない」の場合は、作成する決済処理仕訳の伝票No.の付番方法を指定できるように変更
[仕訳処理]メニューと操作性が同様になるように、ファンクションキーの配置を変更
ファクタリング債権一括決済の転送で、コードと名称が、Excel上の別のセルに出力されるように変更
《回収予定表》

<p>部門権限による制限を緩和 ※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。</p>
<p>回収予定確定基準が「0：請求書単位」の場合でも、部門・セグメント・プロジェクトでの条件の絞り込み、部門別出力ができるように変更 ※ただし、対象金額が「債権金額」の場合はできません。</p>
<p>《滞留債権年齢表》</p>
<p>部門権限による制限を緩和 ※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。</p>
<p>回収予定日、分割回収予定日それぞれの金額で滞留金額を計上するように変更</p>
<p>《入金消込履歴》</p>
<p>絞り込みの条件として伝票日付を指定するかを選択できるようにし、初期値では伝票日付での絞り込みが行われないように変更 【設定箇所】 [入金消込履歴 - 条件設定]画面の[基本条件]ページの「伝票日付を指定する」</p>
<p>【随時処理】</p>
<p>《債権区分データ作成》</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[債権区分データ作成 - 出力条件設定]画面の[基本設定]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。</p>
<p>《回収方法データ作成》</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[回収方法データ作成 - 出力条件設定]画面の[基本設定]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。</p>
<p>《取引先データ作成》</p>
<p>勘定奉行に取引先区分別の集計機能が追加されたことに伴い、出力項目に取引先区分を追加</p>
<p>《前受金残高データ作成》</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[前受金残高データ作成 - 出力条件設定]画面の[基本設定]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。</p>
<p>《債権伝票データ作成》</p>
<p>勘定奉行の部門権限に準拠する場合に制限される処理内容を変更 ※詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。</p>
<p>前年度の債権伝票データを出力した場合は、仕訳伝票と同様に、部門やセグメントなど、年度別にコードや名称を保持しているマスターは前年度の情報で出力するように変更</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[債権伝票データ作成 - 出力条件設定]画面の[基本設定]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更 ※この変更にともない、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[債権伝票データ作成 - 出力条件設定]画面の[登録情報]ページ）で、検索条件として、入金状態（未入金・一部入金・入金済）を複数</p>

指定できるように変更
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[債権伝票データ作成 - 出力条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「取引先グループコード順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」「回収予定日順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能
<p>出力形式が「カンマ区切り」または「タブ区切り」の場合に、出力項目に以下の項目を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○取引先に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> 「取引先グループ」 ○登録に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> 「新規登録日時」「新規登録者名」「新規登録区分」 「修正登録日時」「修正登録者名」「修正登録区分」 「1次承認日時」「1次承認者名」 「最終承認日時」「最終承認者名」 ○入金状態に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> 「入金済金額」「未入金金額」
《入金情報データ作成》
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[入金情報データ作成 - 出力条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「取引先グループコード順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能
<p>出力形式が「カンマ区切り」または「タブ区切り」の場合に、出力項目に「取引先グループ」を追加</p>
《取引先データ受入》
<p>勘定奉行に取引先区分別の集計機能が追加されたことに伴い、受入項目に取引先区分を追加</p>
【自動実行管理】
《自動実行取引先データ作成》
<p>勘定奉行に取引先区分別の集計機能が追加されたことに伴い、出力項目に取引先区分を追加</p>
《自動実行債権伝票データ作成》
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[自動実行債権伝票データ作成 - 出力条件設定]画面の[基本設定]ページ）について、検索条件を指定する項目をリストから選択する形式に変更</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[自動実行債権伝票データ作成 - 出力条件設定]画面の[登録情報]ページ）で、検索条件として、入金状態（未入金・一部入金・入金済）を複数指定できるように変更</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[自動実行債権伝票データ作成 - 出力条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能 ○表示基準：「取引先グループコード順」「請求先コード順」「請求先フリガナ順」「請求先インデックス順」「回収予定日順」 ○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能
<p>出力形式が「カンマ区切り」または「タブ区切り」の場合に、出力項目に以下の項目を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○取引先に関する情報

<p>「取引先グループ」</p> <p>○登録に関する情報</p> <p>「新規登録日時」「新規登録者名」「新規登録区分」</p> <p>「修正登録日時」「修正登録者名」「修正登録区分」</p> <p>「1次承認日時」「1次承認者名」</p> <p>「最終承認日時」「最終承認者名」</p> <p>○入金状態に関する情報</p> <p>「入金済金額」「未入金金額」</p>
<p>《自動実行入金情報データ作成》</p>
<p>作成するデータを絞り込む際の条件設定画面（[自動実行入金情報データ作成 - 出力条件設定]画面）に[出力順]ページが追加され、以下の機能を追加</p> <p>○表示基準の優先順位や、表示順（昇順／降順）を自由に設定できる機能</p> <p>○表示基準：「取引先グループコード順」</p> <p>○表示基準の登録順について、最終更新順／新規登録順の切替機能</p>
<p>出力形式が「カンマ区切り」または「タブ区切り」の場合に、出力項目に「取引先グループ」を追加</p>
<p>《自動実行取引先データ受入》</p>
<p>取引先データを受け入れた場合に、その内容を最新の会計期間だけでなく、前年度にも反映できるように変更</p> <p>取引先名（取引先名1、取引先名2、取引先名カナ）・回収方法・分割回収方法</p>
<p>勘定奉行に取引先区分別の集計機能が追加されたことに伴い、受入項目に取引先区分を追加</p>

変更内容詳細

● メニューの名称および構成を変更

○メニューの名称を変更

変更前	変更後
[導入処理]-[運用設定] -[会社運用設定]	[導入処理]-[運用設定] -[債権債務運用設定]
[導入処理]-[会計期間設定] -[会計期間設定]	[導入処理]-[会計期間設定] -[債権債務機能設定]
[債権業務処理]	[債権管理]
[債権業務処理] -[ファクタリング 処理]	[債権管理] -[ファクタリング処理]
[債権業務処理]-[ファクタリング 処理] -[ファクタリング 入力]	[債権管理]-[ファクタリング処理] -[ファクタリング債権入力]
[債権業務処理]-[ファクタリング 処理] -[ファクタリング てん末変更]	[債権管理]-[ファクタリング処理] -[ファクタリング債権てん末変更]
[債権業務処理]-[ファクタリング 処理] -[ファクタリング 一括決済]	[債権管理]-[ファクタリング処理] -[ファクタリング債権一括決済]

○[ファクタリング 機能設定]メニューの廃止

[導入処理]-[運用設定]-[ファクタリング 機能設定]メニューが廃止され、[導入処理]-[運用設定]-[手形機能設定]メニューに統合されました。

○[受取手形てん末取消]メニューの廃止

以下のメニューにてん末の取消機能が搭載されたため、[債権業務処理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末取消]メニューが廃止されました。

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形一括決済]メニュー

○[ファクタリング てん末取消]メニューの廃止

以下のメニューにてん末の取消機能が搭載されたため、[債権業務処理]-[ファクタリング 処理]-[ファクタリング てん末取消]メニューが廃止されました。

- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権一括決済]メニュー

● [条件設定]画面の項目の配置を変更

条件を設定する画面の、項目の配置を変更しました。

条件を設定しやすくするために、使用頻度の高い項目を[基本条件]ページなどの前面に配置するように変更しています。

▼例

[個別入金消込 - 条件設定]画面

個別入金消込 - 条件設定

基本条件 | 入金情報詳細 | 債権伝票詳細 | 表示設定 | 出力帳

抽出基準
 入金情報から債権明細を抽出
 債権明細から入金情報を抽出

範囲指定
 曜日区分コード
 取引先グループ 最初 ~ 最後
 請求先 最初 ~ 最後
 請求先区分 すべて 最初 ~ 最後

入金情報
 入金日付 月範囲(D)... 2011年 4月 1日 ~ 2012年 3月 31日
 回収方法 最初 ~ 最後

債権伝票
 伝票日付を指定する 月範囲(Y)... 2011年 4月 1日 ~ 2012年 3月 31日
 請求日付 月範囲(Y)... 2011年 4月 1日 ~ 2012年 3月 31日
 伝票No. 最初 ~ 最後
 証券No. 最初 ~ 最後
 担当者 最初 ~ 最後
 担当者区分 最初 ~ 最後
 回収予定日 月範囲(D)... 2011年 4月 1日 ~ 2012年 3月 31日
 回収予定日過ぎデータのみ表示
 回収方法 最初 ~ 最後
 債権区分 最初 ~ 最後
 任意項目 最初 ~ 最後

他のページに配置されていた入金情報や債権伝票の各条件項目を、[基本条件]ページに移動。

消込対象明細の抽出基準を指定します。
 「入金情報から債権明細を抽出」入金情報を指定することで、対象請求先の債権明細を抽出します。
 「債権明細から入金情報を抽出」債権明細を指定することで、対象請求先の入金情報を抽出します。

画面(V) | 印刷帳(P)... | 条件入力(C) | 検索 | 検索説明(D)

《 関連メニュー 》

- ・ [債権管理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー
- ・ [債権管理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[仮受金処理]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[一括相殺消込]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[個別相殺消込]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[債務振替相殺処理]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金消込修正]メニュー
- ・ [債権管理]-[前受金処理]-[前受金消込修正]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込修正]メニュー
- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニュー
- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[入金情報履歴]メニュー
- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[入金消込履歴]メニュー
- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[仮受金処理履歴]メニュー
- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[相殺消込履歴]メニュー

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

債権管理 *Pro* / 債権管理オプション
< Ver.1.56/Ver.1.55/Ver.1.54 >



OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.

【債権管理Proオプション、債権管理オプション】	
《メニュー体系》	
メニューの名称および構成を変更	3
[会社運用設定]メニューの設定に応じて、使用できないメニューを表示しないように変更	4
《全般》	
勘定奉行の部門権限に準拠するかを選択できるように変更 ＜ネットワーク対応製品をお使いの場合＞	4
一部の帳票で、帳票別プリンタ登録に対応	5
《導入処理》	
[会社運用設定]メニューに対して、過去に更新されたデータの内容をログで確認できるように変更	6
[会社運用設定]メニューで、各項目の入力方法を変更	7
[商品登録]メニューに、検索機能・表示順設定機能・初期値設定機能を追加 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞	7
入金情報などを登録する際の回収部門の固定値を設定できるように変更	7
《債権業務処理》	
承認状態の表示について、名称と色を変更	8
作成する仕訳伝票の摘要に、債権伝票の伝票No.を入力できるように変更	9
消費税伝票を作成しない場合は、消費税額を請求書に計上しないように変更 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞	9
[個別入金消込]メニューと[前受金消込]メニューの表示順に伝票No.順を追加	9
[仮受金処理]メニューで、前の会計期間の仮受金も処理できるように変更	10
[仮受金処理]メニューで、入金日付での絞り込みをするかを選択できるように変更	10
各メニューの条件設定画面で、前回入力した部門コードが初期表示されないように変更	10
各取消処理で作成する反対仕訳の摘要に、取り消した仕訳伝票の摘要が引き継がれるように変更	10
請求先元帳の集計結果の表示内容を変更	11
管理資料などの表示順に請求先フリガナ順を追加	14
[仮受金処理履歴]メニューで、処理日付で絞り込みができるように変更	14
《随時処理》	
[担当者データ作成]メニュー・[商品データ作成]メニュー・[取引先グループデータ作成]メニュー・[入金情報データ作成]メニューで、数値で設定する項目について、数値だけでなく、その内容も出力するように変更	14
[商品データ作成]メニューで、検索条件を強化 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞	15
[取引先グループデータ作成]メニューで、前回作成時からの差分だけを作成できるように変更	15
[入金情報データ作成]メニューで、作成するデータの並び順を設定できるように変更	15
[担当者データ受入]メニュー・[商品データ受入]メニュー・[任意項目データ受入]メニューで、空白データを受け入れられるように変更	15

[取引先データ受入]メニュー・[取引先グループデータ受入]メニューで、不要な受入記号があっても受け入れられるように変更	15
[取引先データ受入]メニューで、未登録の取引先グループが設定された取引先も受け入れられるように変更	16
[取引先グループデータ受入]メニューで、すでに取引先グループに所属している取引先を、別の取引先グループに移動できるように変更	16
汎用データ受入の受入形式を移行する機能を追加	16
[売上傳票データ受入]メニューで、税区分などに設定する内容を変更 <『債権管理Proオプション』をお使いの場合>	17
[売上傳票データ受入]メニューで、消費税調整税額の消費税伝票も受け入れられるように変更 <『債権管理Proオプション』をお使いの場合>	17
[売上傳票データ受入]メニューで受け入れた売上傳票について、操作ログに詳細が出力されるように変更 <『債権管理Proオプション』をお使いの場合>	18
[入金伝票データ作成]メニューで、作成する入金伝票データの伝票日付を指定できるように変更 <『債権管理Proオプション』をお使いの場合>	18
<<自動実行管理>> <『自動実行管理オプション』をお使いの場合>	
[自動実行取引先データ作成]メニューを追加	18
[自動実行取引先グループデータ作成]メニューを追加	18
[自動実行入金情報データ作成]メニューで、作成条件のパターンを登録できるように変更	18
自動実行取引先データ受入・自動実行取引先グループデータ受入で、汎用データ全体がエラーとなった場合でも実行済フォルダに移動するように変更	19
[自動実行取引先グループデータ受入]メニューで、受入条件のパターンを登録できるように変更	19

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

債権管理Proオプション、債権管理オプション

《メニュー体系》

● **メニューの名称および構成を変更**

○登録する順番になるように、[導入処理]メニューの並び順を変更

変更前	変更後
[導入処理] -[運用設定] -[会計期間設定] -[取引先登録] -[取引区分登録] -[商品登録] -[担当者登録] -[会社銀行登録] -[決済方法登録] -[任意項目登録] -[残高入力] -[承認権限登録]	[導入処理] -[運用設定] -[会計期間設定] -[会社銀行登録] -[担当者登録] -[取引区分登録] -[商品登録] -[決済方法登録] -[取引先登録] -[任意項目登録] -[残高入力] -[承認権限登録]

○[自動入金消込設定]メニューを[入金処理]メニューに移動

変更前	変更後
[導入処理]-[運用設定] -[自動入金消込設定]	[債権業務処理]-[入金処理] -[自動入金消込設定]

○[会社銀行科目設定]メニューを[会社銀行登録]メニューに移動

変更前	変更後
[導入処理]-[会計期間設定] -[会社銀行科目設定]	[導入処理]-[会社銀行登録] -[会社銀行科目設定]

○[導入処理]メニューの並び順にあわせて、[マスターデータ作成]メニュー・[マスターデータ受入]メニューの並び順を変更

変更前	変更後
[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成] -[取引先データ作成] -[取引区分データ作成] -[商品データ作成] -[担当者データ作成] -[決済方法データ作成] -[任意項目データ作成] -[残高データ作成]	[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成] -[担当者データ作成] -[取引区分データ作成] -[商品データ作成] -[決済方法データ作成] -[取引先データ作成] -[任意項目データ作成] -[残高データ作成]
[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入] -[取引先データ受入] -[取引区分データ受入] -[商品データ受入] -[担当者データ受入] -[決済方法データ受入] -[任意項目データ受入] -[残高データ受入]	[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入] -[担当者データ受入] -[取引区分データ受入] -[商品データ受入] -[決済方法データ受入] -[取引先データ受入] -[任意項目データ受入] -[残高データ受入]

●[会社運用設定]メニューの設定に応じて、使用できないメニューを表示しないように変更

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューで以下の設定をしている場合に、使用できないメニューについてはメニュー画面に表示しないように変更しました。

○『債権管理Proオプション』をお使いで、[請求支払設定]ページで設定する「請求締処理の利用有無」が「0：使用しない」の場合

『債権管理オプション』のメニューだけが表示され、[導入処理]-[商品登録]メニューや[債権業務処理]-[請求締処理]メニューなどの『債権管理Proオプション』のメニューは表示されなくなりました。

○[債権基本設定]ページで設定する「グループ間消込」が「0：使用しない」の場合

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先グループ登録]メニューは表示されなくなりました。

○[債権基本設定]ページで設定する「債権伝票承認」が「0：使用しない」の場合

[債権業務処理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニューは表示されなくなりました。

《全般》

●勘定奉行の部門権限に準拠するかを選択できるように変更

＜ネットワーク対応製品をお使いの場合＞

勘定奉行の[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページで設定する「部門権限」が「1：使用する」の場合に、オプションの処理にも部門権限の制限をかけるかを選択できるようになりました。

※勘定奉行の部門権限に準拠するかどうかは、[会社運用設定]メニューの[債権基本設定]ページの「勘定奉行部門権限」で設定します。

※準拠する場合の制限内容も強化されました。詳細は、操作説明の「部門権限の制限内容一覧」をご参照ください。

● **一部の帳票で、帳票別プリンタ登録に対応**

一部の帳票について、初期値として表示するプリンタを、勘定奉行の[導入処理]-[運用設定]-[帳票別プリンタ登録]メニューで登録できるようになりました。

これにより、[プリンタ設定]ページで初期値として表示される内容が、以下のとおり変更になります。

変更前	変更後
<p>全項目とも、前回の印刷時に設定した内容</p> <p>※初回起動時は、「通常使うプリンタ」の内容が表示されます。</p>	<p>[帳票別プリンタ登録]メニュー でプリンタが登録されているかによって、異なります。</p> <p>○登録済みの場合</p> <p>全項目とも、常に帳票別プリンタ登録の内容</p> <p>※帳票別プリンタ登録が利用者ごとの設定であれば、印刷時の「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」「倍率」の変更は、帳票別プリンタ登録に反映します。</p> <p>○未登録の場合</p> <p>「プリンタ名」「給紙方法」は、常に「通常使うプリンタ」の内容</p> <p>「サイズ」「印刷の向き」「余白・位置調整」は、前回の印刷時に設定した内容</p>

注意

この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した内容が初期値として表示されなくなります。

帳票を印刷する前に、[帳票別プリンタ登録]メニュー で初期値として表示するプリンタを登録してください。

※[帳票別プリンタ登録]メニュー の登録をしない場合は、常に「通常使うプリンタ」が初期値として表示されます。

◀ **対象帳票** ▶

- ・ 会社運用設定 ([導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニュー)
- ・ 差出名リスト ([導入処理]-[運用設定]-[差出名登録]メニュー)
- ・ 休日リスト ([導入処理]-[運用設定]-[休日登録]メニュー)
- ・ 担当者リスト ([導入処理]-[担当者登録]-[担当者登録]メニュー)
- ・ 担当者区分リスト ([導入処理]-[担当者登録]-[担当者区分登録]メニュー)
- ・ 商品台帳 ([導入処理]-[商品登録]-[商品登録]メニュー)
- ・ 商品コードリスト ([導入処理]-[商品登録]-[商品登録]メニュー)
- ・ 商品価格表 ([導入処理]-[商品登録]-[商品登録]メニュー)
- ・ 商品区分1リスト ([導入処理]-[商品登録]-[商品区分登録]メニュー)
- ・ 商品区分2リスト ([導入処理]-[商品登録]-[商品区分登録]メニュー)
- ・ 商品区分3リスト ([導入処理]-[商品登録]-[商品区分登録]メニュー)
- ・ 商品区分4リスト ([導入処理]-[商品登録]-[商品区分登録]メニュー)
- ・ 商品区分5リスト ([導入処理]-[商品登録]-[商品区分登録]メニュー)
- ・ コードリスト ([導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニュー)
- ・ 住所録 ([導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニュー)

- ・手形情報リスト（[導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニュー）
- ・取引先グループリスト（[導入処理]-[取引先登録]-[取引先グループ登録]メニュー）
- ・請求先区分1リスト（[導入処理]-[取引先登録]-[請求先区分登録]メニュー）
- ・請求先区分2リスト（[導入処理]-[取引先登録]-[請求先区分登録]メニュー）
- ・請求先区分3リスト（[導入処理]-[取引先登録]-[請求先区分登録]メニュー）
- ・請求先区分4リスト（[導入処理]-[取引先登録]-[請求先区分登録]メニュー）
- ・請求先区分5リスト（[導入処理]-[取引先登録]-[請求先区分登録]メニュー）
- ・請求締日区分リスト（[導入処理]-[取引先登録]-[請求締日区分登録]メニュー）
- ・任意項目リスト（[導入処理]-[任意項目登録]メニュー）
- ・債権データリスト（[債権業務処理]-[売上債権処理]-[債権データ抽出]メニュー）

◀導入処理▶

- [会社運用設定]メニューに対して、過去に更新されたデータを一覧で確認できるように変更

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューで、過去に更新されたデータの内容を時系列に一覧で確認できるようになりました。

画面右上の ボタンをクリックします。

処理日時	2011/01/28 13:51:08	2011/01/28 13:58:19	2011/01/28 13:58:58
利用ユーザー	RcAdmin	RcAdmin	RcAdmin
コンピュータ名	RHICASHI1MAG	RHICASHI1MAG	RHICASHI1MAG
更新メニュー	既定奉行 [個別準備管理]	既定奉行 [個別準備管理]	既定奉行 [個別準備管理]
債権基本設定			
運用設定			
既定奉行部門権限	準拠しない	準拠する	準拠する
債権伝票設定			
債権伝票承認	2段階承認	1段階承認	1段階承認
1段階承認	省略不可	省略可	省略可
仕訳作成単位	伝票単位	伝票単位	伝票単位
仕訳集約単位	指定なし	指定なし	指定なし
債権伝票取得方法	都度選択	都度選択	都度選択
与信額チェック	しない	しない	しない
与信額計算対象	手形債権含める	手形債権含める	手形債権含める
証憑ファイル保存方法	ファイルリンク	ファイルリンク	ファイルリンク
証憑ファイル最大サイズ	1MB	1MB	1MB
入金伝票設定			
入金情報登録部門表示	表示する	表示する	表示する
入金情報登録手数料入力	入力しない	入力しない	入力しない

- **[会社運用設定]メニューで、各項目の入力方法を変更**
 [導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの選択項目の入力方法が、ラジオボタンで選択する方法から、数字を入力して選択する方法に変更になりました。



- **[商品登録]メニューに、検索機能・表示順設定機能・初期値設定機能を追加**
 <『債権管理Proオプション』をお使いの場合>

○検索機能

を押すと表示される[商品登録 - 検索条件設定]画面で、詳細な条件を設定して商品を検索できるようになりました。
 また、 から印刷する際も、印刷する商品について、詳細な検索条件を設定できるようになりました。

○表示順設定機能

を押すと表示される[商品登録 - 設定]画面で、データの表示順を「コード順」「登録順」から選択できるようになりました。

○初期値設定機能

から、各項目に初期値として表示する内容を設定できるようになりました。
 新しい商品を登録する際は、この初期値設定の内容が初期値として表示されます。

- **入金情報などを登録する際の回収部門の固定値を設定できるように変更**

[導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニューの回収部門（借方部門）について、
 「1：固定値を指定する」か「2：初期値を指定する」かを選択できるようになりました。

「1：固定値を指定する」

指定した部門が、以下のメニューでデータを登録する際に回収部門の固定値になります（変更不可）。

「2：初期値を指定する」

指定した部門が、以下のメニューでデータを登録する際に回収部門の初期値として表示されます（変更可能）。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [導入処理]-[残高入力]-[前受金残高入力]メニュー
 ※ [導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定する
 「入金情報登録部門表示」が「1：表示する」の場合
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー
 ※ [導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定する
 「入金情報登録部門表示」が「1：表示する」の場合

- ・ [債権業務処理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[ファクティング処理]-[ファクティング入力]メニュー

参考

今までの「借方部門固定」という項目名が、「回収部門指定」という項目名に変更になりました。

今まで借方部門固定が「1：固定する」だった場合は、回収部門指定が「2：初期値を指定する」に変換されます。

《債権業務処理》

● 承認状態の表示について、名称と色を変更

以下のメニューで、承認状態の表示の名称と色を変更しました。

○ [債権業務処理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニュー

変更前	変更後
未承認（白色）	未承認（白色）※変更なし
1次承認（ピンク色）	1次承認済（緑色）
最終承認（赤色）	最終承認済（黄色）



○ [債権業務処理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー

[債権業務処理]-[入金処理]-[入金承認]メニュー

[債権業務処理]-[相殺処理]-[相殺消込承認]メニュー

変更前	変更後
未承認（赤紫色）	未承認（白色）
1次承認（赤紫色）	1次承認済（緑色）
最終承認（赤紫色）	最終承認済（黄色）

種別	1次	伝票日付	請求先	回収方法	申込金額	入金金額		消費税差金	仕訳伝票金額	伝票種別	承認状況
						手数料控	手数料控				
○	○	11/04/30	00000004 群馬事務機株式会社	0001 現金回収	2,400,000	2,400,000	0	0	2,400,000	○	最終承認済
○	○	11/04/30	00000003 株式会社茨城電機	0003 振込(三菱)	2,180,000	2,180,000	0	0	2,180,000	○	最終承認済
○	○	11/04/30	00000101 株式会社五反田産業	0006 手形回収	59,580,000	59,580,000	0	0	59,580,000	○	最終承認済
○	○	11/04/30	00000103 港南興業株式会社	0006 手形回収	42,721,000	42,721,000	0	0	42,721,000	○	最終承認済
○	○	11/06/30	00001001 株式会社広瀬商店	0006 手形回収	8,745,000	8,745,000	0	0	8,745,000	○	最終承認済
○	○	11/06/30	00001005 西国運輸株式会社	0010 期日現金	6,270,000	6,270,000	0	0	6,270,000	○	最終承認済
○	○	11/07/31	00000002 株式会社若手産業	0003 振込(三菱)	7,185,400	7,280,000	0	0	7,280,000	○	最終承認済
					申込金額合計	入金金額合計	手数料控合計	消費税差金合計	仕訳伝票金額合計		
					129,061,400	129,396,000	0	0	129,396,000		

- 作成する仕訳伝票の摘要に、債権伝票の伝票No. を入力できるように変更
債権伝票から作成される仕訳伝票の摘要に、債権伝票の伝票No. を自動的に入力できるようになりました。
[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[債権伝票設定]ページにある「仕訳伝票摘要指定」で、摘要に伝票No. を入力するかどうかを設定できます。

仕訳伝票摘要指定	<input checked="" type="radio"/> 摘要	<input type="radio"/> 伝票No. + 摘要
----------	-------------------------------------	----------------------------------

- 消費税伝票を作成しない場合は、消費税額を請求書に計上しないように変更
＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞
[債権業務処理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューで、消費税伝票を作成しない場合は、請求書に消費税額を計上しないように変更しました。
- [個別入金消込]メニューと[前受金消込]メニューの表示順に伝票No. 順を追加
検索結果の表示順を、伝票No. 順にできるようになりました。
また、表示順の設定方法が変更になりました。

表示順		
第一表示基準	請求先 (コード)	が 小さいもの から表示
第二表示基準	伝票日付	が 古いもの から表示
第三表示基準	回収予定日	が 古いもの から表示
第四表示基準	伝票No.	が 小さいもの から表示

- **[仮受金処理]メニューで、前の会計期間の仮受金も処理できるように変更**
 [債権業務処理]-[入金処理]-[仮受金処理]メニューで、処理中の会計期間よりも前の会計期間で発生した仮受金も処理できるようになりました。
 ※ただし、仮受金の入金の取消ができるのは、処理中の会計期間で発生した仮受金だけです。
- **[仮受金処理]メニューで、入金日付での絞り込みをするかを選択できるように変更**
 [債権業務処理]-[入金処理]-[仮受金処理]メニューの条件設定画面で、入金日付での絞り込みをするかを選択できるようになりました。
- **各メニューの条件設定画面で、前回入力した部門コードが初期表示されないように変更**
 条件設定画面で、前回入力した部門コードが初期値として表示されなくなりました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [導入処理]-[残高入力]-[前受金残高入力]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金消込修正]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金承認]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込修正]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[相殺処理]-[一括相殺消込]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[相殺処理]-[個別相殺消込]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[相殺処理]-[相殺消込修正]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[相殺処理]-[相殺消込承認]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[相殺処理]-[債権振替相殺処理]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[相殺処理]-[債務振替相殺処理]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[入金情報履歴]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[入金消込履歴]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[相殺消込履歴]メニュー

- **各取消処理で作成する反対仕訳の摘要に、取り消した仕訳伝票の摘要が引き継がれるように変更**
 各処理で、反対仕訳を作成して取消処理をする場合に、作成する反対仕訳の摘要に、取り消した仕訳伝票の摘要が引き継がれるようになりました。

▼例

債権伝票を取り消した際の反対仕訳の摘要は、以下のとおりです。

「債権取消 ○○○○」

※○○○○は、取り消した仕訳伝票の摘要です。

※40文字を超える場合は、41文字以降は切り捨てられます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権業務処理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[仮受金処理]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[入金情報履歴]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[入金消込履歴]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[仮受金処理履歴]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[履歴管理]-[相殺消込履歴]メニュー
- ・ [随時処理]-[伝票データ一括削除]メニュー

● 請求先元帳の集計結果の表示内容を変更

請求先元帳の入金欄に表示する金額・内容を変更しました。

※残高は、今までと同じ集計結果になります。

※変更後の表示内容の詳細は、[債権業務処理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニューの操作説明にある「操作の前に」をご参照ください。

主な変更点は、以下のとおりです。

○入金消込明細の部門が、仕訳伝票上の貸借に合わせて左右に表示されるようになりました。

・ 請求先元帳

伝票日付	取引内容	借費	債権金額	入金	残高
伝票No.	任意項目	部門			
繰越残高					168,039,000
11/05/31	0003 振込(三菱)				
		11/05/31入金			
000408	092 経理	001 第一営業部	0	12,110,000	150,929,000
11/05/31	355 振受金 通入				
		11/05/31入金			
000408		092 経理	0	(4,220,900)	
	伝票計		0	12,110,000	

・ 仕訳伝票

行	借方		貸方		借 費
	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	
	取引先		取引先		
	プロジェクト		プロジェクト		
1	092 経理		001 第一営業部		11/05/31入金
	110 当座預金	12,110,000	135 売掛金	7,889,100	
	001 三菱東京UFJ銀行				
	00000001 太平洋販売株式会社		00000001 太平洋販売株式会社		
2			092 経理		11/05/31入金
			355 振受金	4,220,900	
			00000001 太平洋販売株式会社		
	借方合計	12,110,000	貸方合計	12,110,000	
			貸借差額	0	

○消込対象の債権明細が複数ある入金消込明細には「債権諸口」と表示され、消込対象が複数であることがわかるようになりました。

「債権諸口の内訳を出力する」([請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページで設定)にチェックを付けると、債権の内訳が確認できます。

・ 内訳非表示時

伝票日付	取引内容	借費	債権金額	入金	残高
伝票No.	任意項目	部門			
繰越残高					107,808,200
11/04/30	0003 振込(三菱)				
000363	001 第一営業部		債権諸口	3,630,000	104,178,200
	伝票計		0	3,630,000	

・ 内訳表示時 (集計基準：請求先基準)

伝票日付	取引内容	借費	債権金額	入金	残高
伝票No.	任意項目	部門			
繰越残高					107,808,200
11/04/30	0003 振込(三菱)				
000363	001 第一営業部		債権諸口	3,630,000	104,178,200
		001 第一営業部			
		001 第一営業部			
		000 その他			
	伝票計		0	3,630,000	

- ・内訳表示時（集計基準：債権残高基準）

※債権明細ごとの金額も表示されます。

伝票日付	取引内容		摘要	債権金額	入金	残高
伝票No.	任意項目	部門				
繰越残高						107,808,200
11/04/30	0003	振込(三菱)		0	1,300,000	106,508,200
000363	001		第一営業部			
11/04/30				0	2,000,000	104,508,200
000363			第一営業部			
11/04/30				0	330,000	104,178,200
000363			その他			
	伝票計			0	3,630,000	

※集計基準：債権残高基準の場合は、入金明細が複数ある入金消込明細（手数料等や消費税差金の明細がある入金消込明細）には、「入金諸口」と表示されます。

「入金諸口の内訳を出力する」（[請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページで設定）にチェックを付けると、入金の内訳が確認できます。

伝票日付	取引内容		摘要	債権金額	入金	残高
伝票No.	任意項目	部門				
繰越残高						155,143,900
11/05/31			売掛金回収	0	1,300,000	153,843,900
000409			第一営業部			
	0003	振込(三菱)				
	092	経理				
	753	支払手数料				
	092	経理				
	050	雑損失/消費				
	092	経理				
	伝票計			0	1,300,000	

- 取引要因がわかるように、各明細に事由が表示されるようになりました。

事由は、表示/非表示を選択できます（[請求先元帳 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページの[伝票の設定]画面で設定）。

伝票日付	取引内容		摘要	債権金額	入金	残高
伝票No.	任意項目	部門				
繰越残高						152,863,000
11/06/30	0003	振込(三菱)		0	19,371,000	133,492,000
000212	092	経理	第一営業部			
11/06/30	753	支払手数料		0	315	133,491,685
000212	092	経理				
11/06/30	050	雑損失/消費		0	85	133,491,600
000212	092	経理				
	伝票計			0	19,371,400	

○集計基準：請求先基準の場合に、仮受金入金・非連結入金・前受金入金の明細には、仮受金科目・非連結科目・前受金科目側の情報も表示されるようになりました。

仮受金科目・非連結科目・前受金科目側の明細金額はカッコ付きで表示され、債権残高には影響しません。

また、非連結入金・前受金入金の消込時の明細では、非連結科目・前受金科目側の明細金額がマイナス金額で表示されます。

・前受金入金時

伝票日付 伝票No.	取引内容 任意項目	摘要	債権金額	入金	残高
繰越残高					6,666,240
11/07/15 000019	0004 092	振込(みずほ) 経理		4,360,000	2,306,240
11/07/15 000019	340 092	前受金 前受 前受金 前受金入金 経理		(4,360,000)	
伝票計			0	4,360,000	

・前受金消込時

※伝票計には、債権残高に影響する金額だけが計上されます。

伝票日付 伝票No.	取引内容 任意項目	摘要	債権金額	入金	残高
繰越残高					2,306,240
11/08/31 000017	340 092	前受金 前受 経理		(-2,349,840)	
伝票計			0	0	

○相殺消込の明細には、部門や摘要などの情報も表示されるようになりました。

伝票日付 伝票No.	取引内容 任意項目	摘要	債権金額	入金	残高
繰越残高					150,923,000
11/05/31 000406	305 031	買掛金 相殺 北関東支店 001		240,000	150,683,000
伝票計			0	240,000	

また、消込対象の債務明細が複数ある場合は「債務諸口」と表示され、消込対象が複数であることがわかるようになりました。

「入金諸口の内訳を出力する」([請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページで設定)にチェックを付けると、債務の内訳も確認できます。

・内訳非表示時

伝票日付 伝票No.	取引内容 任意項目	摘要	債権金額	入金	残高
繰越残高					104,178,200
11/04/30 000384		債務諸口 001		330,000	103,848,200
伝票計			0	330,000	

・内訳表示時（集計基準：請求先基準）

※債務明細ごとの金額も表示されます。

伝票日付 伝票No.	取引内容 任意項目	摘要	債権金額	入金	残高
繰越残高					104,178,200
11/04/30 000384	305 032	買掛金 相殺 横浜支店 001		106,500	104,071,700
11/04/30 000384	305 031	買掛金 相殺 北関東支店		223,500	103,848,200
伝票計			0	330,000	

- ・内訳表示時（集計基準：債権残高基準）

伝票日付	取引内容	摘要	債権金額	入金	残高
伝票No.	任意項目	部門			
繰越残高					104,178,200
11/04/30		相殺消込			
000384			0	330,000	103,848,200
	債務請口	001			
	005	買掛金 特種			
	002	横浜支店			
	005	買掛金 特種			
	001	北関東支店			
	伝票計		0	330,000	

- **管理資料などの表示順に請求先フリガナ順を追加**

出力する際の請求先の並び順を、請求先フリガナ順にできるようになりました。

◀ **関連メニュー** ▶

- ・ [債権業務処理]-[売上債権処理]-[債権データ抽出]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[回収予定表]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[滞留債権年齢表]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[入金集計表]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[仮受金一覧表]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[債権残高一覧表]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[前受金残高一覧表]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[債権残高確認書]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[管理帳票]-[与信残高一覧表]メニュー

- **[仮受金処理履歴]メニューで、処理日付で絞り込みができるように変更**

[債権業務処理]-[履歴管理]-[仮受金処理履歴]メニューの条件設定画面で、仮受金処理時に入力した処理日付を指定して仮受金を絞り込めるようになりました。

◀ **随時処理** ▶

- **[担当者データ作成]メニュー・[商品データ作成]メニュー・[取引先グループデータ作成]メニュー・[入金情報データ作成]メニューで、数値で設定する項目について、数値だけでなく、その内容も出力するように変更**

作成形式が「カンマ区切」「タブ区切」の場合に、数値で設定されている項目については、設定されている数値だけでなく、その内容も出力されるようになりました。

※この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。

▼例

担当者の利用状態を出力する場合

変更前	変更後
『利用状態』として、「0」「1」を出力	『利用状態コード』として、「0」「1」を出力 また、『利用状態』として、「無効」「有効」を出力

- **[商品データ作成]メニューで、検索条件を強化**
 <『債権管理Proオプション』をお使いの場合>
 [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[商品データ作成]-[商品データ作成]メニューで、作成する商品データについて、詳細な検索条件を設定できるようになりました。
 ※この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。
- **[取引先グループデータ作成]メニューで、前回作成時からの差分だけを作成できるように変更**
 [取引先グループデータ作成 - 出力条件設定]画面の[拡張項目]ページで、以下の出力条件が指定できるようになりました。
未作成のデータを作成する
作成後に修正したデータを作成する
 ※この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。
- **[入金情報データ作成]メニューで、作成するデータの並び順を設定できるように変更**
 [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[入金情報データ作成]メニューで、作成する入金情報データについて、並び順を設定できるようになりました。
 ※この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。
- **[担当者データ受入]メニュー・[商品データ受入]メニュー・[任意項目データ受入]メニューで、空白データを受け入れられるように変更**
 空白のデータを受入できるようになりました。
 [受入条件設定]画面の[重複条件設定]ページで、空白を受け入れるかどうかを項目ごとに設定できます。
 ※この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。
 ※すでに登録済みのマスターの内容を更新（上書き）する場合などに便利な機能です。
 ▼例
 今まで担当者名フリガナを使用していたが、担当者名フリガナがなくなった場合
 [変更前] 担当者名フリガナ カワ イヅミ
 [変更後] 担当者名フリガナ
 このような場合に、担当者名フリガナに空白データを受け入れることで担当者名フリガナを空欄にできます。
- **[取引先データ受入]メニュー・[取引先グループデータ受入]メニューで、不要な受入記号があっても受け入れられるように変更**
 今までは、OBC受入形式の汎用データを受け入れる際に不要な受入記号があると、その汎用データ全体がエラーとなり受け入れられませんでした。
 当バージョンからは、不要な受入記号のデータは無視して受け入れられるようになりました。
 これにより、例えば『債権管理Proオプション』で作成した汎用データを『債権管理オプション』でも受け入れられるようになりました。

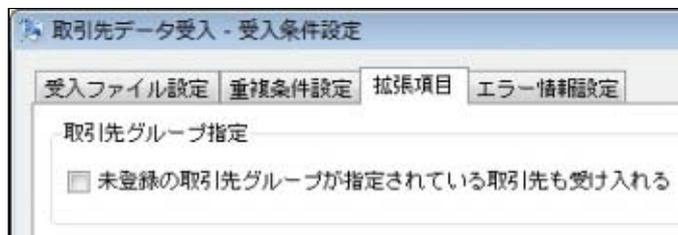
◀ 関連メニュー ▶

- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先データ受入（債権債務）]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先グループデータ受入（債権債務）]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- **[取引先データ受入]メニューで、未登録の取引先グループが設定された取引先も受け入れられるように変更**

未登録の取引先グループが設定された取引先も受け入れられるようになりました。

受け入れるかどうかを、[取引先データ受入 - 受入条件設定]画面の[拡張項目]ページで設定できます。



◀ **関連メニュー** ▶

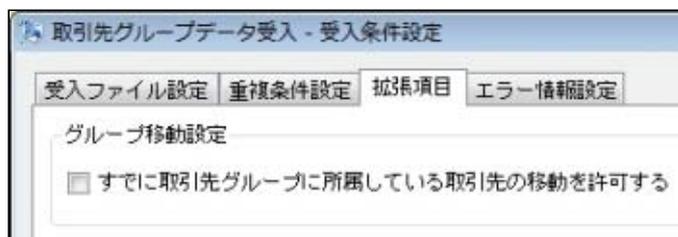
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先データ受入（債権債務）]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- **[取引先グループデータ受入]メニューで、すでに取引先グループに所属している取引先を、別の取引先グループに移動できるように変更**

すでに取引先グループに所属している取引先が、別の取引先グループに所属している汎用データを受け入れられるようになりました。

受入後は、汎用データの取引先グループに移動します。

受け入れるかどうかは、[取引先グループデータ受入 - 受入条件設定]画面の[拡張項目]ページで設定できます。



◀ **関連メニュー** ▶

- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先グループデータ受入（債権債務）]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- **汎用データ受入の受入形式を移行する機能を追加**

[受入条件設定]画面の[形式作成]ボタンから作成する受入データ形式の情報を、ファイル出力できるようになりました。

出力したファイルを利用することで、新しいコンピュータや別のデータ領域に受入データ形式を移行することができます。

操作方法の詳細は、操作説明の「受入データ形式を作成する」をご参照ください。

※この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した作成条件が初期化されます。

◀ **関連メニュー** ▶

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[担当者データ受入]-[担当者データ受入]メニュー

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[担当者データ受入]-[担当者区分データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[商品データ受入]-[商品データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[商品データ受入]-[商品区分データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引先データ受入]-[取引先グループデータ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引先データ受入]-[請求先区分データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[任意項目データ受入]メニュー

● **[売上傳票データ受入]メニューで、税区分などに設定する内容を変更**

＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞

[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[売上傳票データ受入]メニューで、税区分コード、事業区分コード、消費税自動計算に設定する内容が変更になりました。

※この変更によって、受け入れる際の必須項目が追加されています。変更後の仕様の詳細は、操作説明の「受入形式」をご参照ください。

項目名	変更前	変更後
税区分コード	商品マスターに設定されている債権区分の売上勘定科目の「貸方税区分」を設定	売上傳票の【明細情報】『課税区分』『取引状態区分』から申告書計算区分を決定し、その申告書計算区分をもとに設定 ※『課税区分』『取引状態区分』が売上傳票データに含まれていない場合は、変更前と同様に、商品マスターに設定されている債権区分の売上勘定科目の「貸方税区分」を設定します。
事業区分コード	空を設定	商品マスターに設定されている債権区分の売上勘定科目の「事業区分」を設定
消費税自動計算	売上傳票の【明細情報】『税込区分』を設定	売上傳票の【明細情報】『課税区分』をもとに『税込区分』を設定

● **[売上傳票データ受入]メニューで、消費税調整税額の消費税伝票も受け入れられるように変更**

＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞

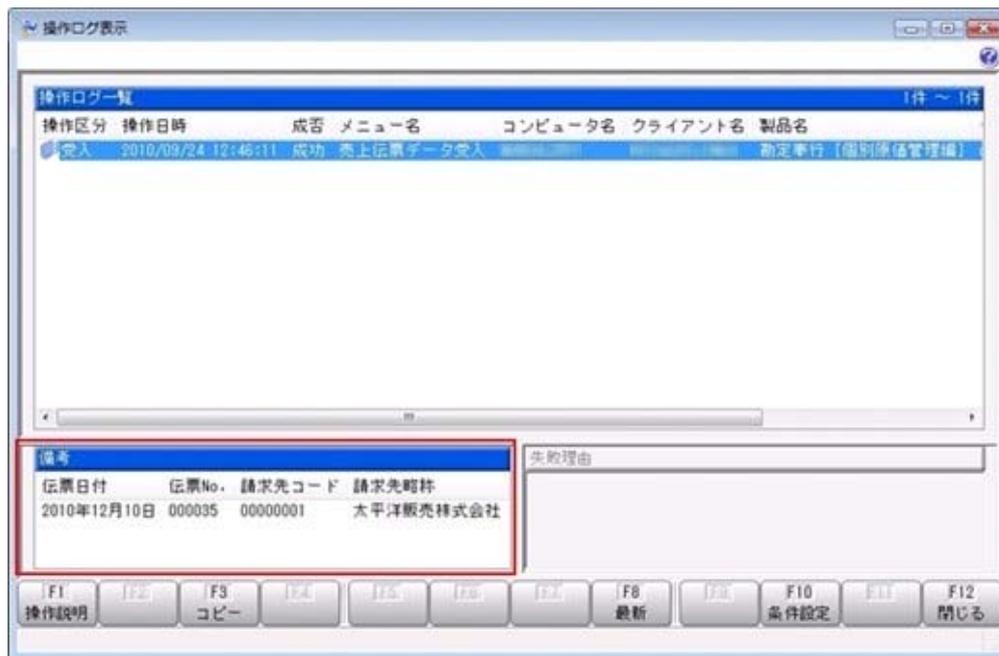
請求先の税額通知が「明細請求書単位」の場合に作成される、消費税調整税額の消費税伝票も受け入れられるようになりました。

- [売上傳票データ受入]メニューで受け入れた売上傳票について、操作ログに詳細が出力されるように変更

< 『債権管理Proオプション』をお使いの場合 >

[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[売上傳票データ受入]メニューで受け入れた売上傳票について、勘定奉行の[管理ツール]-[操作ログ表示]メニューで以下の情報が出力されるようになりました。

- 伝票日付
- 伝票No.
- 請求先コード
- 請求先略称



- [入金伝票データ作成]メニューで、作成する入金伝票データの伝票日付を指定できるように変更

< 『債権管理Proオプション』をお使いの場合 >

[随時処理]-[商蔵奉行連動]-[入金伝票データ作成]メニューの[基本設定]ページで、作成する入金伝票データの伝票日付を指定できるようになりました。

《自動実行管理》

< 『自動実行オプション』をお使いの場合 >

- [自動実行取引先データ作成]メニューを追加
[自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行取引先データ作成]メニューが追加されました。
- [自動実行取引先グループデータ作成]メニューを追加
[自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行取引先グループデータ作成]メニューが追加されました。
- [自動実行入金情報データ作成]メニューで、作成条件のパターンを登録できるように変更
[自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行入金情報データ作成]メニューで、複数のパターンの作成条件を登録できるようになりました。

- **自動実行取引先データ受入・自動実行取引先グループデータ受入で、汎用データ全体がエラーとなった場合でも実行済フォルダに移動するように変更**
受入記号が正しくないなどの理由で汎用データ全体がエラーとなった場合でも、受入元ファイルが実行済フォルダに移動するようになりました。
※汎用データ全体がエラーとなった場合は、[スケジュール履歴]メニューでは失敗処理として表示されます。また、エラー内容がログファイルに記載されます。
- **[自動実行取引先グループデータ受入]メニューで、受入条件のパターンを登録できるように変更**
[自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先グループデータ受入（債権債務）]メニューで、複数のパターンの受入条件を登録できるようになりました。

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

債権管理 *Pro* / 債権管理オプション
< Ver.1.53/Ver.1.51/Ver.1.50 >



OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.

【債権管理Proオプション、債権管理オプション】	
[取引先登録]メニューで、振込依頼人名（カナ）に、取引先フリガナを自動的に複写する機能を追加	2
反対仕訳で取消処理をした場合に、取り消した仕訳伝票と反対仕訳伝票を修正・削除できるように変更	2
作成する仕訳伝票について、一部の項目を修正できるように変更	2
検索結果の表示基準に、請求先フリガナ順・請求先インデックス順を追加	2
[入金情報登録]メニューで、当方負担の振込手数料を入力できるように変更	3
消込メニューの条件設定画面に、条件の初期化機能を追加	3
[個別入金消込]メニュー・[前受金消込]メニューで、日付での絞り込みをするかを選択できるように変更	3
[個別入金消込]メニュー・[前受金消込]メニューに、全選択・全解除機能を追加	3
[前受金消込]メニューで、当方負担の振込手数料を計上できるように変更	4
[前受金消込]メニューに、摘要変更機能を追加	4
[取引先データ作成]メニューで、検索条件を強化	4
[自動実行取引先グループデータ受入]メニューを追加 ＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞	4

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

● [取引先登録]メニューで、振込依頼人名（カナ）に、取引先フリガナを自動的に複写する機能を追加

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニューで、振込依頼人名（カナ）に、取引先フリガナを自動的に複写できるようになりました。

を押すと表示される[取引先登録 - 設定]画面の[複写項目設定]ページで、複写するかどうかを設定できます。

● 反対仕訳で取消処理をした場合に、取り消した仕訳伝票と反対仕訳伝票を修正・削除できるように変更

各処理で、反対仕訳を作成して取消処理をした場合に、取り消した仕訳伝票と反対仕訳伝票を修正・削除できるようになりました。

注意

○修正・削除するには、勘定奉行の[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページで「他システム登録伝票編集許可」を「編集を許可する」に設定しておく必要があります。

○修正・削除できるのは、当バージョン以降で取消処理をした仕訳伝票です。

● 作成する仕訳伝票について、一部の項目を修正できるように変更

・ ・ を押すと表示される[仕訳処理]画面で、修正できる項目が増えました。

前提となる仕訳との整合性を保つために必要な項目など、一部の項目を除き、作成する仕訳伝票の内容を修正できるようになりました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金承認]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[仮受金処理]メニュー

※『債権管理Proオプション』 + 『債務管理Proオプション』の組み合わせでお使いの場合か、『債権管理オプション』 + 『債務管理オプション』の組み合わせでお使いの場合は、以下のメニューも対象です。

- ・ [債権業務処理]-[相殺処理]-[相殺消込承認]メニュー

● 検索結果の表示基準に、請求先フリガナ順・請求先インデックス順を追加

各メニューの検索結果を出力する際に、請求先の並び順を、請求先フリガナ順・請求先インデックス順にできるようになりました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー
- ・ [債権業務処理]-[入金処理]-[入金消込修正]メニュー

- ・[債権業務処理]-[入金処理]-[入金承認]メニュー
- ・[債権業務処理]-[入金処理]-[仮受金処理]メニュー
- ・[債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニュー
- ・[債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込修正]メニュー

※『債権管理Proオプション』+『債務管理Proオプション』の組み合わせでお使いの場合か、『債権管理オプション』+『債務管理オプション』の組み合わせでお使いの場合は、以下のメニューも対象です。

- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[一括相殺消込]メニュー
- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[個別相殺消込]メニュー
- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[相殺消込修正]メニュー
- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[相殺消込承認]メニュー
- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[債権振替相殺処理]メニュー
- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[債務振替相殺処理]メニュー

● **[入金情報登録]メニューで、当方負担の振込手数料を入力できるように変更**

回収種別が「2：振込」の場合に、[債権業務処理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで当方負担の振込手数料を入力できるようになりました。

これにより、ステータスが「2：仮受金」「3：非連結」「4：前受金」の入金仕訳に振込手数料を計上できます。

※[入金情報登録]メニューで振込手数料を入力するには、[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで「入金情報登録手数料入力設定」を「入力する」に設定してください。

● **消込メニューの条件設定画面に、条件の初期化機能を追加**

消込メニューの条件設定画面に、[条件クリア]ボタンが追加されました。

このボタンをクリックすることで、設定されている検索条件を一括で初期値に戻せるようになりました。

◀ **関連メニュー** ▶

- ・[債権業務処理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー
- ・[債権業務処理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー
- ・[債権業務処理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー
- ・[債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニュー

※『債権管理Proオプション』+『債務管理Proオプション』の組み合わせでお使いの場合か、『債権管理オプション』+『債務管理オプション』の組み合わせでお使いの場合は、以下のメニューも対象です。

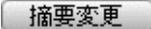
- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[一括相殺消込]メニュー
- ・[債権業務処理]-[相殺処理]-[個別相殺消込]メニュー

● **[個別入金消込]メニュー・[前受金消込]メニューで、日付での絞り込みをするかを選択できるように変更**

[債権業務処理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー・[債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニューの条件設定画面で、債権明細の伝票日付・請求日付での絞り込みをするかを選択できるようになりました。

● **[個別入金消込]メニュー・[前受金消込]メニューに、全選択・全解除機能を追加**

[債権業務処理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー・[債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニューで、・を押すと、すべての債権明細を一括で選択・選択解除できるようになりました。

- **[前受金消込]メニューで、当方負担の振込手数料を計上できるように変更**
[債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニューで、前受金情報の回収種別が「2：振込」の場合に、当方負担の振込手数料を入力できるようになりました。
- **[前受金消込]メニューに、摘要変更機能を追加**
[債権業務処理]-[前受金処理]-[前受金消込]メニューで、を押すと、作成する仕訳伝票の摘要を変更できるようになりました。
- **[取引先データ作成]メニューで、検索条件を強化**
[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[取引先データ作成]-[取引先データ作成]メニューで、作成する取引先データについて、詳細な検索条件を設定できるようになりました。
※この機能アップのため、当バージョンにバージョンアップすると、以前のバージョンで設定した[取引先データ作成 - 出力条件設定]画面の[出力設定]ページ・[項目選択]ページの設定内容が初期化されます。
- **[自動実行取引先グループデータ受入]メニューを追加**
<『自動実行オプション』をお使いの場合>
[自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先グループデータ受入]メニューが追加されました。